

北区埋蔵文化財調査年報

—令和4年度—

2024

東京都北区教育委員会

北区埋蔵文化財調査年報

—令和4年度—

2024

東京都北区教育委員会

例 言

1. 本書は、令和4年度に実施した、北区内における埋蔵文化財発掘調査等の結果を報告するものである。
2. 本書は、文化財保護法第99条に基づき北区教育委員会が調査主体者となり実施した、埋蔵文化財本発掘調査、試掘調査、確認調査の結果報告を主とする。
3. 本書の編集は、北区教育委員会（担当：牛山英昭・高坂勇佑）によるものである。
4. 各報告文の執筆・作成は、北区教育委員会の監修・指導のもと、発掘調査等の作業に従事した株式会社東京航業研究所の調査員（岩崎岳彦・内田健太・遠藤知成・小森暁生・坂下貴則・宅間清公・遠竹陽一郎）がこれにあたった。
5. 本書に掲載された発掘調査等の出土遺物や記録類については、北区教育委員会が保管している。
6. 本書に収録される調査および本書の作成にあたり、以下の諸氏、諸機関よりご指導、ご協力を賜った。（敬称略）

後藤和武

安達敏広

株式会社オープンハウス・ディベロップメント

株式会社東京航業研究所

東京都教育庁地域教育支援部管理課

令和4年度 届出・通知件数 照会・立会実施等件数

届出・通知 法第92条： 4件 照会： 2294件
 法第93条： 118件 立会実施： 67件
 法第94条： 6件 慎重工事： 10件

令和4年度 北区埋蔵文化財発掘調査一覧

公共事業（東京都埋蔵文化財センターによる本発掘調査を除く）

遺跡No.	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
9	赤羽上ノ台遺跡	赤羽台 1-1-13	35° 46' 49" 139° 43' 05"	本発掘調査	4,100.0	04.03.08 - 04.07.21	学校跡地 利活用計画		(令和5年度報告書刊行予定)			令和3年度より継続
51	柴町貝塚	柴町 5-21	35° 44' 55" 139° 44' 42"	本発掘調査	540.0	04.08.19 - 05.03.10	集合住宅		(令和5年度報告書刊行予定)			
8	桐ヶ丘遺跡	赤羽北 3-5-22	35° 46' 53" 139° 42' 25"	試掘調査	136.0	05.01.11 - 05.01.16	学校					
17	梅ノ木遺跡	西が丘 2-21-15	35° 46' 01" 139° 42' 51"	試掘調査	34.5	05.02.28 - 05.03.01	幼稚園					

民間事業（法第92条および法第99条による調査）

遺跡No.	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 1-29-1	35° 44' 38" 139° 44' 42"	本発掘調査	16.2	04.10.18 - 04.10.26	集合住宅		(報告書抄録を参照)			本書収録
25	滝野川八幡社裏貝塚	滝野川 5-24	35° 44' 53" 139° 43' 34"	本発掘調査	21.8	04.11.22 - 04.12.02	分譲住宅		(報告書抄録を参照)			本書収録

補助金事業（本書収録）

遺跡No.	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
30	中里遺跡	上中里 2-11	35° 44' 43" 139° 45' 04"	確認調査	6.2	04.04.08	個人住宅	貝塚	縄文時代	貝層	なし	
40	中里峽上遺跡	西ヶ原 1-21-9	35° 44' 24" 139° 44' 55"	本発掘調査	154.5	04.04.13 - 04.05.23	個人兼 集合住宅	集落	古墳時代後期 奈良・平安時代	竪穴建物跡3軒、 掘立柱建物跡1棟、 土坑4基、ピット3基	縄文土器、土師器、 須恵器	
41	田端西台通遺跡	田端 5-14-8	35° 44' 24" 139° 45' 19"	試掘調査	20.5	04.06.16	集合住宅			なし	なし	
27	西ヶ原遺跡群	上中里 1-25-9	35° 44' 38" 139° 44' 54"	試掘調査	12.8	04.06.23	個人住宅	集落	古墳時代後期 平安時代	竪穴建物跡1軒	なし	
31	田端町遺跡	田端 4-10-11	35° 44' 14" 139° 45' 14"	試掘調査	15.5	04.07.12	集合住宅			溝跡1条	なし	

遺跡No.	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 2-16	35° 44' 59" 139° 44' 24"	確認調査	49.4	04.09.12 - 04.09.21	店舗	集落	弥生時代	竪穴建物跡 4 軒、 溝跡 1 条、土坑 1 基、 不明遺構 2 基	縄文土器、弥生 土器、土製品	
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 1-29-1	35° 44' 38" 139° 44' 42"	試掘調査	14.5	04.10.04	集合住宅		(法第 99 条による本発掘調査を実施)			
40	中里峽上遺跡	中里 3-17	35° 44' 35" 139° 45' 10"	試掘調査	8.0	04.10.13	個人住宅			なし	なし	
25	滝野川八幡社裏貝塚	滝野川 5-24	35° 44' 53" 139° 43' 34"	試掘調査	4.0	04.10.31	分譲住宅		(法第 99 条による本発掘調査を実施)			
8	桐ヶ丘遺跡	赤羽北 3-21	35° 46' 44" 139° 42' 18"	試掘調査	36.4	04.11.07	集合住宅			なし	なし	
40	中里峽上遺跡	上中里 1-17-10	35° 44' 39" 139° 44' 58"	試掘調査	13.5	04.11.14	個人住宅		(法第 99 条による本発掘調査を実施)			
40	中里峽上遺跡	上中里 1-17-10	35° 44' 39" 139° 44' 58"	本発掘調査	13.9	04.11.15 - 04.11.21	個人住宅		縄文時代 近世	溝跡 1 条、土坑 1 基、 性格不明遺構 1 基	縄文土器、須恵器、 近世陶磁器・土器	
8	桐ヶ丘遺跡	赤羽北 3-20-13	35° 46' 47" 139° 42' 19"	試掘調査	5.2	04.11.16	個人住宅			なし	なし	
18	清水坂遺跡	十条仲原 4-8-23	35° 46' 06" 139° 43' 13"	試掘調査	11.0	05.01.12	個人住宅			なし	なし	
32	田端不動坂遺跡	田端 1-19	35° 44' 11" 139° 45' 36"	試掘調査	11.0	05.01.16	分譲住宅			なし	なし	
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 2-32-12	35° 44' 48" 139° 44' 21"	試掘調査	8.3	05.02.06	道路			なし	なし	
8	桐ヶ丘遺跡	桐ヶ丘 1-20	35° 46' 40" 139° 42' 14"	試掘調査	25.0	05.02.08	集合住宅			なし	なし	
19	十条台遺跡群	王子本町 1-22-4	35° 45' 14" 139° 44' 00"	試掘調査	1.7	05.02.10	集合住宅兼 店舗			なし	なし	
4	袋低地遺跡	赤羽北 1-12-7	35° 47' 09" 139° 42' 41"	確認調査	24.8	05.02.14 - 05.02.15	個人住宅			なし	なし	
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 2-21	35° 44' 52" 139° 44' 19"	試掘調査	18.2	05.03.02	個人兼 集合住宅			土坑 2 基	縄文土器	

令和4年度区内遺跡
国庫補助事業調査概要報告

<はじめに>

令和4年度に実施された、国庫補助金対象事業である区内遺跡の埋蔵文化財発掘調査および試掘調査、確認調査の概要を報告する。当該年度は本発掘調査2件、試掘調査・確認調査が18件、計20件の調査を実施した(第48図)。いずれも、「周知の埋蔵文化財包蔵地」に該当するものであり、文化財保護法(以下、法)第93条第1項に基づく届出を経て、法第99条に基づき調査を実施したものである。

<本発掘調査>

1. 中里峽上遺跡(地点:西ヶ原1-21-9 第1~14・49-2図 図版1~4)

[調査期間] 令和4年4月13日~5月23日

[調査面積] 154.5㎡

[調査概要] 調査の結果、竪穴住居跡3軒、土坑4基、掘立柱建物跡1棟、ピット3基を検出した。住居跡は古墳時代後期が1軒、奈良時代が1軒、平安時代が1軒である。遺存状況は比較的良好であったが、出土した遺物は小破片が中心で、量も少ない。土坑の内、第2号土坑からは本調査地点で出土した遺物の大半が出土し、湖西産の須恵器坏蓋などが見られる。

[遺構・遺物]

【SI01】

遺構(第2図 図版1)

重複関係: P1と重複するが先後関係は不明である。SK01に切られる。**平面形:** 方形。調査区南側中央よりに位置し、北東側を大きく攪乱される。**規模:** 主軸検出長3.57m、主軸直行検出長3.76m、検出された深さは0.08mである。**主軸方位:** N-52°-E。**覆土:** 暗褐色土を主体として構成され、5層に分層される。**床面:** 地床。ローム層を直接固め構築される。硬化は全体的に軟弱で、部分的に硬化を確認しうるのみである。**壁溝:** 北東側は攪乱により確認できなかったが、それ以外では住居壁直下で全周する。**カマド:** 確認されなかった。ただし、出土遺物の様相からは竈の存在が想定されるため、攪乱により失われた北東壁に設置していた可能性が高いと思われる。**付帯施設:** 南東側よりピット1基が検出しているが、支柱穴に当たるかは不明である。貯蔵穴は認められなかった。

遺物(第12図 図版3)

出土状況: 散漫な分布状況で、多くは小片であった。**土器:** 1は南比企窯産の須恵器坏である。2は土師器の坏で、高台が付される。

時期 平安時代(9世紀前半)

【SI02】

遺構(第3・4図 図版1)

重複関係: なし。**平面形:** 方形。調査区南端に位置し、南側は調査区外に続く。**規模:** 主軸検出長3.57m以上、主軸直行検出長3.76m、検出された深さは0.35mである。**主軸方位:** N-36°-E。**覆土:** 暗褐色土を主体として構成され、8層に分層される。**床面:** 地床。ローム層を直接固め構築される。全体的に堅緻な造りで、硬化は住居のほぼ全面から検出した。中でも竈前面の硬化は顕著であった。**壁溝:** 南側は調査区外のため確認できなかったが、それ以外では住居壁直下で全周する。**カマド:** 北東壁やや東よりに設置される。規模は1.11×1.13mで住居主軸とほぼ平行に築かれていた。白色粘土交じりの暗褐色土を用いて構築され、袖部は両袖共に良好に遺存していた。**付帯施設:** 柱穴、貯蔵穴等は認められなかった。

遺物（第12図 図版3）

出土状況：散漫な分布状況で、多くは小片であった。**土器：**3は土師器坏で灯明皿に転用され、口縁部内外面に煤が付着する。4は土師器甕である。

時期 古墳時代後期

【SI03】

遺構（第5・6図 図版1・2）

重複関係：SB01P4に切られる。**平面形：**長方形。調査区北端に位置し、北東及び北西角部は攪乱により失われる。**規模：**主軸検出長3.45m、主軸直行検出長4.85m、検出された深さは0.48mである。**主軸方位：**N-55°-E。**覆土：**黒褐色土を主体として構成され、13層に分層される。**床面：**地床。ローム層を直接固め構築される。非常に堅緻な造りで、硬化は住居のほぼ全面から検出した。**壁溝：**住居壁直下で全周する。**カマド：**北東壁に設置され、東に大きく偏って構築される。規模は0.73m以上×0.94m以上で、住居主軸に対し23°傾く。白色粘土交じりの暗褐色土を用いて構築され、左袖部のみ遺存する。**付帯施設：**柱穴、貯蔵穴等は認められなかった。

遺物（第12図 図版3）

出土状況：散漫な分布状況であったが、竈周辺からは長胴甕、甑の破片がまとめて出土した。**土器：**5は土師器の坏で底部外面に右回転の手持ちヘラケズリが施される。6は放射状の暗文を施した土師器坏で、底部中央がやや肥厚する。7、8は土師器で長胴形の甕である。

時期 奈良時代

【SB01（掘立柱建物跡）】

遺構（第7・8図 図版2）

重複関係：SB01P4がSI03を切る。**平面形：**桁行3間以上、梁行2間の長方形を呈する側柱建物と推定される。**規模：**桁行長3.96m以上、梁行長5.16m、面積約19.74㎡以上で、各掘立柱間の芯心距離は桁行1.86～2.10m、梁行2.46～2.70mである。**主軸方向：**N-9°-W。**柱穴：**SB01P1～P6の6基を検出した。柱穴の平面形は楕円形または隅丸長方形を呈する。規模はSB01P4を除く各ピットが長軸1.09～1.46m、短軸0.90～1.08mである。P4はSI03の覆土中に構築され、底面のみが確認された。検出した規模は長軸0.69m、短軸0.67mである。底面標高は22.29mで、検出面からの深さは0.67mを測る。覆土はいずれも黒褐色土と暗褐色土で構成される。**柱座・柱当たり：**いずれのピットも底面の一部が一段深く掘り込まれる。しかしながら明確な柱当たりは検出されなかった。

遺物（第12図 図版3）

出土状況：各遺物は覆土中位からの出土である。**土器：**9はP1から出土した東金子産の須恵器高台付坏である。10はP5から出土した土師器坏で、体部外面上部に「土土」の墨書が認められる。内外面には煤が厚く付着し、口唇部に複数の油芯痕が残る。

「土土」と墨書された土器は、本遺跡の北側の崖線下に立地する中里遺跡でも3点出土している（中里遺跡調査団 1989）。

時期 平安時代（9世紀後半）

【SK01】

遺構（第9図）

重複関係：SI01を切る。**平面形：**隅丸方形。**規模：**長軸0.78m以上、短軸0.65m、検出された深さは0.19mである。**主軸方位：**N-50°-E。**覆土：**黒褐色土の単一層である。

遺物

出土状況：高田徳利など 18 世紀中葉から 19 世紀初頭の陶磁器類が出土している。**土器：**図示しうる遺物は出土しなかった。

時期 近世

【SK02】

遺構 (第 10 図 図版 2)

重複関係：P 3 と重複するが先後関係は不明である。**平面形：**不整楕円形。**規模：**長軸 2.69 m 以上、短軸 3.38 m、検出された深さは 0.83 m である。**主軸方位：**N - 75° - W。**覆土：**黒褐色土を主体として構成され、15 層に分層される。この内、第 9・10 層は焼土層で上下を区分する。

遺物 (第 13・14 図 図版 3・4)

出土状況：本調査地点で最大の出土量である。出土状況は焼土層を境とし、上部層では多量かつ完形に近いものも多い。これに対し、下部層での出土量は僅小であった。**土器：**11 は湖西産の須恵器短頸壺である。外面全面に自然釉が掛かる。12、13 は湖西産の須恵器かえり付坏蓋である。12 は環状、13 は円錐状のつまみを有する。口径も小さく、湖西編年(後藤 2015)における IV -2 ~ 3 に比定される。14 ~ 16 は須恵器合子状坏蓋である。15 は頂部に二段の回転ヘラケズリが施されているが、14、16 は完全に省略されている。17 ~ 19 は須恵器合子状坏身である。14 ~ 19 は口径も小さく、合子状坏の最終段階であると思われ、飛鳥 II 期の所産と考えられる。20 は須恵器異形坏もしくは壺と思われる。体部中央に太い一条の沈線が施されている。胎土に白色針状物質を含む。形状から、飛鳥 II ~ IV 期の所産と推定している。21 は須恵器横瓶である。上半に自然釉が掛かかかる。22 ~ 25 は土師器坏で比企型坏である。22、23 は内外面全面に、24、25 は内面全面と外面口縁部に赤彩が施されている。口唇部内面に沈線が巡り、口径も 10 ~ 11 cm と小型化が進んでいることから、比企型坏編年(水口 1989)における IV 期と比定される。26 は土師器坏で、口縁部の一部に煤が残る。底部はケズリ後、乾燥が進んだ段階で、櫛歯状工具でナデられている。27 は土師器坏である。外面の体部と底部の境に強い稜をもち、内面にも緩やかな稜を持つ。いわゆるヘルメット形坏に似た形状を持つ。28 は土師器坏である。体部と底部の境に弱い稜を持つ。29 ~ 31 は土師器坏で畿内における浅身の坏 C と似た形状をしている。30、31 は体部外面に指頭痕とひび割れが見られ、ひび割れに関しては外側を引き延ばすような形で成形をした為に出来たのではないかと推測した。30 には黒彩が施されている。32、33 は土師器坏で畿内における坏 A と似た形状をしている。32 は外面に指頭痕が見られ、内面のナデは最後に口縁部に向かって斜めに上がっていく。33 は体部外面にひび割れが見られ、ひび割れに関しては外側を引き延ばすような形で成形をした為に出来たのではないかと推測した。また内面に黒彩が施されている。34 ~ 36 は土師器坏で、内面に放射状の暗文を持つ。34 は畿内における坏 A と似た形状をしている。35 は畿内における浅身の坏 C と似た形状をしている。36 は細い放射状の暗文を持つ土師器坏である。見込みに暗文と同一工具により「×」が付される。29 ~ 36 は胎土も精選されており、畿内系模倣の製品の可能性も考えられる。口径は 10 cm 前後から 11 cm 程で畿内を中心とした西方の土師器坏でいうと、飛鳥 II ~ IV 期の所産の物と同規模である。37 は土師器小皿である。38 は胴部上半には縦位、下半及び底部にかけては横斜位のハケ目調整が施された土師器甕である。畿内を中心とした西方に多い特徴を持ち、伊勢型甕の亜種と推測される。39 は土師器の甕である。40 は底抜けの土師器甕である。外面にはケズリ、内面にはミガキが施されている。41 は土師器甕である。外面はケズリ、内面には細く弱いミガキが施されている。42 は土製羽口で内外面及び破面にも煤が付着する。43 は刀子の茎である。

時期 飛鳥時代(7 世紀末)

備考 遺構の平面形状はやや歪な楕円形を呈し、すり鉢状の掘り込みで、最深部に乳頭状の落ち込みが見られる。これら形状の特徴は本調査地点の北北西に位置する御殿前遺跡検出の祭祀遺構に類似する。

【SK03】

遺構 (第9図)

重複関係:なし。**平面形:**楕円形。**規模:**長軸 0.76 m、短軸 0.59 m、確認面からの深さは 0.20 mである。**主軸方位:** N - 77° - E。**覆土:**暗褐色土を主体として構成され、2層に分層される。

遺物

出土状況:土師器小片が出土している。**土器:**図示しうる遺物は出土しなかった。

時期 遺物の出土がわずかなため不明である。

【SK04】

遺構 (第9図)

重複関係:なし。**平面形:**楕円形を呈し、過半は調査区外に続く。**規模:**長軸 0.83 m以上、短軸 0.83 m以上、確認面からの深さは 0.24 mである。**主軸方位:** N - 45° - E。**覆土:**暗褐色土を主体として構成され、2層に分層される。

遺物

出土状況:出土しなかった。

時期 遺物が出土していないため不明である。

【ピット】

遺構 (第11図)

調査区内で3基のピットを検出した。P1の平面形は楕円形を呈する。規模は 0.53 × 0.47m、深さ 0.07m である。SI01と重複する。P2の平面形は長方形を呈する。規模は 1.13m 以上 × 1.02m 以上、深さ 0.69m である。他の遺構と重複関係はない。P3の平面形は不整形長方形を呈する。規模は 1.09 × 1.02m、深さ 0.60m である。SK02と重複する。

遺物

出土状況:出土しなかった。

時期 遺物が出土していないため、それぞれのピットの時期は不明である。

【遺構外】

遺物 (第14図 図版4)

出土状況:44はSK02から出土したが、時期が一つだけ大きく離れていたため、流れ込みとし、遺構外で報告した。45は調査区内攪乱より出土した。**土器:**44は須恵器坏である。底部糸切離し未調整で、南比企窯跡群編年ではH-VI期と比定される。SK02から出土したが、時期が一つだけ大きく離れていたため、流れ込みとした。45は土師器坏である。胎土は非常に精緻で、外面には細かなミガキが、内面には二段の放射状暗文が施されており、畿内系土師器の特徴を持っている。

2. 中里峡上遺跡 (地点: 上中里 1-17-10 第15～18・50 - 11図 図版5・6)

〔調査期間〕 令和4年11月15日～21日

〔調査面積〕 13.9 m²

〔調査概要〕 調査の結果、溝跡1条、土坑1基、性格不明遺構1基を検出した。

【SD01】

遺構（第 16 図 図版 5）

重複関係:SK01 に切られ、SX01 を切る。**平面形:**溝状を呈し南西から北東に向け直線的に走る。**規模:**主軸長 5.47 m 以上、幅 0.58 ～ 0.73 m、確認面からの深さ 0.20 m を測る。**走行方位:**N - 30° - E。**覆土:**暗褐色土を主体とする単層である。**断面形:**側縁に平場を有する。また底面の一部が深く掘り込まれ、逆凸字状、または片段状となっている。

遺物（第 18 図 図版 6）

出土状況:覆土中から須恵器、縄文土器、石器が出土しているが、いずれも流れ込みによるものと思われる。**土器:**1 は須恵器長頸壺である。2 ～ 4 は縄文時代前期黒浜式土器の深鉢である。接合はされなかったが同一個体と考えられる。5 は砂岩の打製石斧である。

時期 本遺構が SK01 により切られるため、SK01 よりも古いと想定される。しかしながら、時期を明確にしうる遺物は出土していない。

【SK01】

遺構（第 15 図 図版 5）

重複関係:SD01、SX01 を切る。**平面形:**隅丸長方形。**規模:**長軸 1.88 m 以上、短軸 0.96 m、確認面からの深さは 0.95 m である。**主軸方位:**N - 34° - E。**覆土:**黒褐色土を主体として構成され、11 層に分層される。**断面形:**壁は概ね垂直に立ち上がるが、部分的にオーバーハングする箇所も見られる。底面には幅 20 cm 程度の鍬ないしは鋤と推定される痕跡が顕著に認められる。なお、底面形状はやや湾曲し、中央部ほど深くなる。

遺物（第 18 図 図版 6）

出土状況:覆土中から陶磁器類の他、周辺からの流れ込みと思われる須恵器坏、縄文土器、打製石斧が出土している。**土器:**6 は瀬戸・美濃系陶器の灰釉丸碗である。7 は波佐見・平戸系くらかわんか手の中碗である。8 はかわらけ小皿である。9 は須恵器坏底部片である。10 ～ 12 は加曾利 E 式土器の深鉢である。13 は弥生土器の壺である。14 は凝灰岩製の砥石である。

時期 出土した陶磁器類の製作年代観から 18 世紀以降と推定される。

【SX01】

遺構（第 17 図 図版 5）

重複関係:SK01、SD01 に切られる。**平面形:**調査区北側に位置し、隅丸方形を呈すると推測される。**規模:**長軸 3.42 m 以上、短軸 2.12 m 以上、確認面からの深さは 0.05 m である。底面には顕著な硬化が認められる。**主軸方位:**N - 40° - E。**覆土:**暗褐色土及び黒褐色土で構成され 3 層に分層される。**所見:**硬化面が住居跡の床を構成している可能性もあるが、その他に同遺構を住居跡とする積極的な証左が確認できないため、性格不明遺構とした。

遺物

出土状況:本遺構の時期を示す遺物は出土していない。**土器:**図示しうる遺物は出土しなかった。

時期 出土遺物が僅かなため明確ではない。但し重複する SD01 から黒浜式土器が出土していることから、縄文時代前期と推定される。

【遺構外】

遺物（第 18 図 図版 6）

出土状況:表土中より出土した。**土器:**15 は瀬戸・美濃系磁器の広東碗であるが近代に帰属する。16 は肥前系陶器の刷毛目碗である。17 は瓦灯皿で内外面に油煙が付着する。

<試掘・確認調査>

1. 中里遺跡（地点：上中里 2-11 第 19・49－1 図 図版 7）

〔調査期間〕 令和 4 年 4 月 8 日

〔調査面積〕 6.2 m²

〔調査概要〕 機材搬入後、対象敷地内の中央部分に南北方向の試掘坑（1.0 × 6.2 m）を設定し、北側部分から表土掘削を行った。現地表面は北側に向かい傾斜していた。北側で地表下 0.9 m、南側で地表下 1.1 m 程掘り下げたが、貝層は確認することができなかった。そこで南端部をさらに深掘りしたところ、地表下 1.8 m 程で貝層上面を確認することができた。ピンポールを刺し、貝層の深さを確認した結果、北側に向かい若干傾斜していた。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地表面下約 0.4 ～ 0.5 m まで攪乱であった。その下に 1 層（暗褐色シルト質土）、2 層（黒褐色シルト質土）、3 層（暗灰色シルト質土）が検出された。1 層には細かい貝片が含まれていた。その下の層からは貝は認められないことから、1 層は人為的に埋め戻したものである。

2. 田端西台通遺跡（地点：田端 5-14-8 第 20・49－3 図 図版 8）

〔調査期間〕 令和 4 年 6 月 16 日

〔調査面積〕 20.5 m²

〔調査概要〕 機材搬入後、対象敷地内に北東－南西方向の試掘坑を 2 本設定した。南側を試掘坑 1（1.0 × 11.0 m）、北側を試掘坑 2（1.0 × 9.5 m）として重機により表土掘削を行った。精査した結果、遺構は確認できなかった。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

試掘坑 1 は現地表面下 0.5 ～ 0.6 m で地山のロームを検出した。一部ソフトロームを検出したが、大半はハードロームであった。部分的に第一黒色帯（立川ローム層第 V 層）まで掘り下げた。中央部は大きく攪乱を受けていた。遺構は確認できなかった。

試掘坑 2 は現地表面下 0.6 ～ 0.8 m で地山のロームを検出した。一部ソフトロームを検出したが、大半はハードロームであった。大半の箇所で大規模に攪乱を受けていた。遺構は確認できなかった。

現地表面下 0.5 ～ 0.8 m までが攪乱及び耕作土であった。地山はソフトローム～ハードローム（立川ローム層第 III～IV 層）であった。

3. 西ヶ原遺跡群（地点：上中里 1-25-9 第 21・49－4 図 図版 9）

〔調査期間〕 令和 4 年 6 月 23 日

〔調査面積〕 12.8 m²

〔調査概要〕 機材搬入後、東西方向に試掘坑（1.5 × 8.5 m）を設定し、重機により表土掘削を行った。

現地表面下 0.6 ～ 0.8 m 程でソフトローム層を検出し、遺構確認面とした。試掘坑内は大部分が攪乱を受けていたが、西壁隅で土師器片を検出し、竪穴住居跡の床面の一部が残存していることを確認した。覆土にカマドに由来すると思われる白色粘土を含んでいることから、古墳時代後期～平安時代と考えられる。

工事による埋蔵文化財への影響は試掘坑内に留まるため、調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地表面から遺構確認面（ソフトローム層）までは、攪乱層である。

4. 田端町遺跡（地点：田端 4-10-11 第 22・49－5 図 図版 10）

〔調査期間〕 令和 4 年 7 月 12 日

〔調査面積〕 15.5 m²

〔調査概要〕 機材搬入後、対象敷地内に南東―北西方向の試掘坑1（1.0 × 8.0 m）と試掘坑2（1.0 × 7.5 m）の2本設定し、重機により表土掘削を行った。試掘坑1の記録後、試掘坑2で検出した溝跡にサブトレンチを入れ断面を記録した。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

試掘坑1は現地地表下0.7～0.8 mまで掘り下げ、遺構覆土と地山であるハードロームを確認した。ハードローム直上まで攪乱されていた。ハードロームは水の影響を受けており、ややシルト化していた。検出した遺構は溝跡で幅0.8 m程である。

試掘坑2は現地地表下0.8～1.0 mまで掘り下げ、遺構覆土と地山であるハードロームを確認した。ハードローム直上まで攪乱されていた。ハードロームは水の影響を受けており、ややシルト化していた。検出した遺構は溝跡で、試掘坑1で検出された溝跡の続きと考えられ、幅0.8 m程である。サブトレンチを入れて断面の調査をした結果、深さ0.23 m程であった。

0.7～1.0 m程まで攪乱で、地山はハードロームである。傾斜地にあり、水の影響をうけたと考えられ、ハードロームはややシルト化していた。

5. 西ヶ原遺跡群 飛鳥山遺跡（地点：西ヶ原2-16 第23～34・49－6図 図版11～15）

〔調査期間〕 令和4年9月12日～9月21日

〔調査面積〕 49.4 m²

〔調査概要〕 敷地内の浸透枿および排水管敷設範囲、ハンドホール敷設範囲を対象に確認調査を実施した。

①排水管敷設範囲調査

機材搬入後、試掘坑1（1.0 × 24.6 m）、試掘坑2（1.0 × 8.3 m）の2本設定し、重機により表土掘削を行った。地表下約1 mでローム層と遺構覆土を確認。これを遺構確認面とした。

遺構は竪穴住居跡4軒、溝跡1条、土坑1基を検出した。

〔遺構・遺物〕

【SI01A】

遺構（第24図 図版11）

重複関係：SI01B・SI01Cを切る。**平面形**：不明。試掘坑1の東側に位置し、調査区外に伸びている。**規模**：検出範囲内において、長軸3.37m以上、短軸1.05 m以上、確認面からの深さ0.64 mを測る。**主軸方位**：不明。**覆土**：黒褐色土と暗褐色土を主体とし、7層に分層される。床面は全体的に軟弱である。**炉**：検出されなかった。**ピット**：検出されなかった。**付帯施設**：貯蔵穴を検出した。平面形は楕円形で、長軸0.49 m、短軸0.36 m以上、深さ0.25 mを測る。

遺物（第32図 図版14）

出土状況：弥生時代中期後半の土器が出土している。**土器**：1～6は宮ノ台式土器である。1・2は甕である。3～6は壺である。

時期 出土遺物や遺構の切り合いから弥生時代中期である。

【SI01B】

遺構（第24・25図 図版11）

重複関係：SI01A・SI01Cに切られる。**平面形**：隅丸長方形を呈すると推測される。試掘坑1の中央から東側に位置し、調査区外に伸びている。第7次調査で検出されているSI229と同遺構と考えられる。**規模**：検出範囲内において、主軸長9.92m、主軸直交長1.02 m以上、確認面からの深さ0.41 mを測る。**主軸方位**：N－60°－W。**覆土**：暗褐色土を主体とし、7層に分層される。床面は主に炉の周辺が硬化している。**炉**：中央よりやや北西寄りに設けられていると推測される。平面形は楕円形で、長軸0.78 m以上、短軸0.63 m、深さ0.09 mを測る。**ピット**：2基検出した。

遺物 (第 32 図 図版 14)

出土状況: 弥生時代中期後半の土器が出土している。**土器:** 7～19 は宮ノ台式土器である。7～9 は甕である。10 は高坏である。11～19 は壺である。

時期 出土遺物や遺構の切り合いから弥生時代中期である。

【SI01C】

遺構 (第 24 図 図版 11)

重複関係: SI01A に切られ、SI01B を切る。**平面形:** 不明。試掘坑 1 の東側に位置し、調査区外に伸びている。**規模:** 検出範囲内において、長軸 0.53m 以上、短軸 0.35 m 以上、確認面からの深さ 0.35 m を測る。**主軸方位:** 不明。**覆土:** 暗褐色土を主体とし、2 層に分層される。床面は全体的に柔らかい。**炉:** 検出されなかった。

遺物 (第 32 図 図版 14)

出土状況: 弥生時代中期後半の土器が出土している。**土器:** 20 は宮ノ台式土器の壺である。

時期 出土遺物や遺構の切り合いから弥生時代中期である。

【SI02】

遺構 (第 26～28 図 図版 12)

重複関係: SK01 に切られる。**平面形:** 隅丸長方形を呈すると推測される。試掘坑 1 の中央から西側に位置し、調査区外に伸びている。南側調査区でも検出されている SI230 と同遺構と考えられる。**規模:** 検出範囲内において主軸長 6.69m 以上、主軸直交長 1.35 m 以上、確認面からの深さは 0.37 m を測る。**主軸方位:** N - 56° - W。**覆土:** 黒褐色土を主体とし、6 層に分層される。床面は P1 の西側から炉の周辺にかけて一部硬化している。**炉:** 中央よりやや北西寄りに設けられていると推測される。平面形は楕円形で、長軸 0.50 m、短軸 0.32 m 以上、深さ 0.09 m を測る。**柱穴:** 1 基検出した。**ピット:** 1 基検出した。

遺物 (第 33・34 図 図版 14・15)

出土状況: 弥生時代中期後半の土器が出土している。**土器:** 21～50 は宮ノ台式土器である。21～25 は甕である。26～29・33～50 は壺である。30 は鉢である。31 は台付甕脚部である。32 は高坏である。

時期 出土遺物から弥生時代中期である。

【SD01】

遺構 (第 29 図 図版 12)

重複関係: なし。**平面形:** 検出範囲において南北に直行する。試掘坑 2 の中央から北側に位置し、調査区外に伸びている。第 7 次調査で検出されている SD07 と同一の可能性はあるが、その場合、未調査範囲でほぼ直角に曲がっていると考えられる。**規模:** 検出範囲内において、主軸長 2.81m 以上、幅 2.80 m、深さは地表面から 1.5 m を越えるため確認面から 0.5 m 程掘り下げ、底面には到達しなかった。**走行方位:** N - 26° - W。**覆土:** 黒褐色土と暗褐色土を主体とし、9 層に分層される。

遺物 (第 34 図 図版 15)

出土状況: 弥生土器・土製勾玉が出土したが、これらは流れ込みである可能性が考えられる。**土器:** 51 は弥生土器の壺である。52 は土製勾玉である。

時期 出土遺物から弥生時代後期以降と推測される。第 7 次調査の SD07 については、弥生土器 (後期) が出土しているのみであるが、古代以降と報告されている。

【SK01】

遺構 (第 30 図 図版 12)

重複関係：SI02 を切る。**平面形**：長楕円形を呈すると推測される。試掘坑 2 のやや西側に位置し、調査区外に伸びている。**規模**：検出範囲内において、長軸 1.24m 以上、短軸 0.60 m 以上、確認面からの深さは 0.80 m を測る。**覆土**：黒褐色土と暗褐色土を主体とし、10 層に分層される。

遺物 (第 34 図 図版 15)

出土状況：弥生土器が出土している。宮ノ台式と後期前半の土器が出土しており、宮ノ台式の土器は SI02 からの流れ込みである可能性が高い。**土器**：53 は弥生土器の壺で、後期前半の所産である。

時期 出土遺物と切り合い関係から、弥生時代後期前半である。

【遺構外】

遺物 (第 34 図 図版 15)

出土状況：54 は SI01B から、55、56 は SI02 から出土したが、遺構に伴わない為、遺構外遺物として報告する。**土器**：54、55 は縄文土器である。56 は磨製石斧である。

②ハンドホール敷設範囲調査

TP (1.5 × 1.5 m) を 5 か所に設定し、人力で掘削を行った。遺構は性格不明遺構 2 基を検出した。地表下 1 m 程でローム層と遺構覆土を確認した。

〔遺構・遺物〕

【TP1】

地表面より 0.9 m 程掘削したところでソフトロームを検出し、これを確認面とした。北東隅に遺構を検出したが、検出範囲が狭く性格は不明であり、SX01 とした。竪穴住居跡の可能性も考えられる。

【TP2】

地表面より 0.8 m 程掘削したところで、調査区内全体に遺構覆土を検出したが、性格が不明であるため、これを SX02 とした。0.2m 程掘削したが、底面は検出されなかった。ピンポールを刺したところ 0.4 m 程で底面に達する。

【TP3】

地表面より 1 m まで掘削したが、遺構覆土または地山には到達しなかった。

【TP4】

石材等の瓦礫が埋められており、地表より 1 m まで掘削したが状況は変わらず、遺構覆土または地山には到達しなかった。

【TP5】

0.7m 程掘削したところでハードロームを検出し、これを地山とした。根による攪乱をひどく受けている。

6. 西ヶ原遺跡群 (地点：西ヶ原 1-29-1 第 35・49 - 7 図 図版 16)

〔調査期間〕 令和 4 年 10 月 4 日

〔調査面積〕 14.5 m²

〔調査概要〕 機材搬入後、建築予定地内に南北方向に試掘坑1(1.0×7.6m)と試掘坑2(1.0×6.9m)の2本設定し、重機により表土掘削を行った。現地表下0.6～0.7m程掘削したところ、遺構覆土及び地山であるソフトロームを検出した。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

試掘坑1は南側で遺構を検出した。南西、北東方向へほぼ直線に伸びる壁を検出し、焼土・粘土が散見されることから、竈を持つ竪穴住居跡と推測される。覆土上より土師器甕・須恵器甕が出土した。

試掘坑2は北側と中央に遺構を検出した。両遺構とも深さ0.5m程のピットであると推測される。0.6～0.7m程で遺構覆土及びソフトロームを確認した。

試掘調査の結果を受けて、本発掘調査を実施した(本書所収「西ヶ原遺跡群 ー西ヶ原1-29-1地点ー」参照)。

7. 中里峽上遺跡 (地点：中里3-17 第36・49－8図 図版17)

〔調査期間〕 令和4年10月13日

〔調査面積〕 8.0㎡

〔調査概要〕 機材搬入後、対象敷地内に南北方向の試掘坑(1.0×8.0m)を設定し、重機により表土掘削を行った。工事予定深度の0.7m程では地山及び遺構確認面を検出できなかった。地山を確認するため、人力で攪乱土の一部を掘削したところ、0.9m程でハードロームを検出した。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地表下0.9～1.3mまでが攪乱であった。

8. 滝野川八幡社裏貝塚 (地点：滝野川5-24 第37・50－9図 図版18)

〔調査期間〕 令和4年10月31日

〔調査面積〕 4.0㎡

〔調査概要〕 機材搬入後、対象敷地内の中央に正方形の試掘坑(2.0×2.0m)を設定し、人力により表土掘削を行った。現地表下は激しく攪乱されていたが、0.5～0.7m程掘削したところ、地山及び遺構覆土を検出した。遺構覆土及び隣接する攪乱中には粘土が散見されることから、竈を持つ竪穴住居跡と推測される。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地表下0.5～0.7m程で遺構覆土及び立川ロームⅡ層下部からⅢ層上部相当の地山を確認した。

試掘調査の結果を受けて、本発掘調査を実施した(本書所収「滝野川八幡社裏貝塚 ー滝野川5-24地点ー」参照)。

9. 桐ヶ丘遺跡 (地点：赤羽北3-21 第38・50－10図 図版19)

〔調査期間〕 令和4年11月7日

〔調査面積〕 36.4㎡

〔調査概要〕 調査は開発予定範囲のうち、深基礎が入る西端と中央の2カ所を対象として行った。機材搬入後、西側の対象敷地内に南北方向の試掘坑を2本、中央の対象敷地は敷地全面を試掘坑とし設定を行った。試掘坑の名称は西側から試掘坑1(1.0×10.0m)、試掘坑2(1.0×8.0m)、対象敷地中央を試掘坑3(4.6×4.0m)とした。設定完了後、重機により表土掘削を行った。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

試掘坑1は現地表下0.8～0.9mで立川ローム第Ⅲ層を検出した。部分的に攪乱を受けていたものの地山の遺存状況は良好であった。遺構は検出されなかった。

試掘坑2は現地表下0.7～0.9mで立川ローム第Ⅲ層を検出した。試掘坑1と同様、部分的に攪乱を受けていたものの地山の遺存状況は良好であった。遺構は検出されなかった。

試掘坑3は現地地表下0.6～0.7mで立川ローム第Ⅲ層を検出した。地山の検出は周辺部にとどまり、中央は既存建物の基礎により広範囲に攪乱を受けていた。遺構は検出されなかった。

現地地表下0.6～0.9mまでが攪乱及び耕作土であった。地山は立川ローム第Ⅲ層(ソフトローム)である。

10. 中里峠上遺跡 (地点：上中里 1-17-10 第39・50－11図 図版20)

〔調査期間〕 令和4年11月14日

〔調査面積〕 13.5㎡

〔調査概要〕 機材搬入後、対象敷地内に南北方向の試掘坑を2本設定し、東側を試掘坑1(1.0×7.0m)、西側を試掘坑2(1.0×6.5m)とした。各試掘坑は重機により表土掘削を行った。精査の結果、試掘坑2より遺構が検出された。各試掘坑の記録後、試掘坑2の西側を拡張し、本調査に移行した。

試掘坑1は現地地表下0.6～0.8mで立川ローム第Ⅳ層を検出した。部分的に攪乱を受けていたが地山の遺存状況は良好であった。遺構は検出されなかった。

試掘坑2は現地地表下0.6～0.9mで立川ローム第Ⅳ層を検出した。試掘坑1と同様、部分的に攪乱を受けていたものの地山の遺存状況は良好であった。遺構は溝跡1条と性格不明遺構1基が検出された。

現地地表下0.6～0.9mまでが攪乱であった。地山は立川ローム第Ⅳ層(ハードローム)である。

11. 桐ヶ丘遺跡 (地点：赤羽北 3-20-13 第40・50－12図 図版21)

〔調査期間〕 令和4年11月16日

〔調査面積〕 5.2㎡

〔調査概要〕 機材搬入後、対象敷地内の中央に南北方向の試掘坑(1.0×5.2m)を設定し調査を行った。重機により表土掘削を行った。精査の結果、現地地表下0.5～0.6mで地山を検出した。部分的に攪乱を受けていたが地山の遺存状況は良好であった。しかしながら、立川ロームの上部は失われており、遺構は検出されなかった。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地地表下0.5～0.6mまでが攪乱であった。地山は立川ローム第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部(ハードローム～第一黒色帯)である。

12. 清水坂遺跡 (地点：十条仲原 4-8-23 第41・50－13図 図版22)

〔調査期間〕 令和5年1月12日

〔調査面積〕 11.0㎡

〔調査概要〕 機材搬入後、敷地内西側の建物深基礎部分に南北方向の試掘坑(1.0×11.0m)を設定し、重機により表土掘削を行った。精査の結果、0.5m程で試掘坑南側にて地山であるハードロームを確認した。地山は中央から南側において検出されたが、大部分は攪乱を受けており、遺構は検出されなかった。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地地表下0.5m程までが攪乱及び耕作土であった。地山はハードロームであった。

13. 田端不動坂遺跡 (地点：田端 1-19 第42・50－14図 図版23)

〔調査期間〕 令和5年1月16日

〔調査面積〕 11.0㎡

〔調査概要〕 機材搬入後、敷地中央の南北方向に試掘坑1(1.0×6.1m)を設定し、掘削を開始した。建築設計深度の現地地表下0.7mまで掘削したが、地山は確認できなかった。ピンポールによる深度確認では、0.9m程で土層の硬さに変化がみられ地山と思われる。試掘坑1の記録と埋戻しの後、試掘坑2の掘削に着手した。敷地南側の深基礎予定地に試掘坑2(1.0×4.9m)を設定した。現地地表下0.7mまで

掘削したが、地山は確認できなかった。ピンポールによる深度確認では、1m 刺しても、地山に至らなかった。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

試掘坑 1 は現地表面下 0.7m まで掘削したが、攪乱・盛土層であった。ピンポールによる深度確認を行い、0.9m で地山に至ると思われる。

試掘坑 2 は現地表面下 0.7m まで掘削したが、攪乱・盛土層であった。ピンポールによる深度確認では、1m 刺しても地山には至らず攪乱・盛土層が続いていると思われる。

14. 西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 2-32-12 第 43・50 - 15 図 図版 24）

〔調査期間〕 令和 5 年 2 月 6 日

〔調査面積〕 8.3 m²

〔調査概要〕 機材搬入後、東西方向に試掘坑（1.0 × 8.3 m）を設定し、重機により表土掘削を行った。

現地表面下 1.0 m 以上を掘り下げたが、近代以降の盛土や廃棄土坑の堆積が続く攪乱層であり、地山は検出されなかった。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地表面から約 1.0m までは、近代以降の盛土や廃棄土坑の堆積が続く攪乱層である。

15. 桐ヶ丘遺跡（地点：桐ヶ丘 1-20 第 44・50 - 16 図 図版 25）

〔調査期間〕 令和 5 年 2 月 8 日

〔調査面積〕 25.0 m²

〔調査概要〕 機材搬入後、東西方向に試掘坑（1.0 × 12.5 m）を 2 本設定し、重機により表土掘削を行った。

現地表面下 0.5 ~ 0.7 m 程でソフトローム層を検出し、遺構確認面とした。試掘坑内は近世以降の畝状の掘り込みと攪乱だけで、遺構は検出されなかった。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地表面から遺構確認面（ソフトローム層）までは、攪乱層である。

16. 十条台遺跡群（地点：王子本町 1-22-4 第 45・51 - 17 図 図版 26）

〔調査期間〕 令和 5 年 2 月 10 日

〔調査面積〕 1.7 m²

〔調査概要〕 調査は既存建物を避け、空閑地において実施した。機材搬入後、東西方向に試掘坑（1.0 × 1.7 m）を設定し、重機により表土掘削を行った。

現地表面下 1.0 m 以上を掘り下げ、近代以降の攪乱層下に、埋没谷を被覆していると思われる堆積層を確認したが、遺構は検出されなかった。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地表面から約 1.0m までは、近代以降の攪乱層下に、埋没谷を被覆する堆積層が続いている。

17. 袋低地遺跡（地点：赤羽北 1-12-7 第 46・51 - 18 図 図版 27・28）

〔調査期間〕 令和 5 年 2 月 14 日～2 月 15 日

〔調査面積〕 24.8 m²

〔調査概要〕 機材搬入後、南北方向に試掘坑 2 本設定し、東側を試掘坑 1（1.0 × 12.8 m）、西側を試掘坑 2（1.0 × 12.0 m）として確認調査を行った。

重機により表土を掘削し、建物設計深度に相当する現地表面下 0.4 m 程で暗褐色土層（1 層）に 2 次堆積の貝が含まれていることを確認した。土層の堆積状況を確認するため、試掘坑内に A ~ G 地点で深掘りを行った。試掘坑 1 は攪乱が大きく不明確であるが、試掘坑 2 でハマグリを主体とする混貝土層を確認した。

混貝土層は上層の黒褐色土層（2～5層）と、下層の暗青灰色土層（9層）である。上層は下層の再堆積の可能性もあるが、地下水位による土層の色調変化を示しているだけであろう。いずれもハマグリを主体とし、マガキ・ヤマトシジミを含む。E地点で南北方向に傾斜して堆積する貝層はD地点に続くと思われる。ただし、D地点下をピンポールで確認したところ、貝を含まない暗青灰色砂層（7層）などがさらに1.0m以上堆積していると想定された。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

現地表面から2次堆積の貝を含む暗褐色土層（1層）までは、攪乱層である。

18. 西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 2-21 第 47・51 - 19 図 図版 29）

〔調査期間〕 令和 5 年 3 月 2 日

〔調査面積〕 18.2 m²

〔調査概要〕 機材搬入後、建設予定範囲中央に東西方向の試掘坑 1（1.0 × 13.0 m）を設定し調査を行った。また、試掘坑 1 内より遺構が検出されたため遺構周辺を拡張し、これを試掘坑 2（2.0 × 2.6 m）とし、遺構の範囲確認を行った。調査は重機により表土を掘削し、現地表面下 0.5 ～ 0.8 m 程で遺構覆土及び地山であるソフトロームを検出した。

試掘坑 1 の南側で土坑と推定される遺構を検出した。覆土中より縄文土器が出土したが、出土量が少数かつ小片のため時期の比定には至らなかった。遺構の東西両端は攪乱を受けて失われていたが、楕円形を呈する土坑と推測される。調査区の記録を作成後、重機による埋め戻しを行い、調査を終了した。

0.5 ～ 0.8 m 程で遺構覆土及びソフトロームを確認した。

引用・参考文献

古代の土器研究会 1992 『古代の土器 1 都城の土器集成 I』

古代の土器研究会 1993 『古代の土器 2 都城の土器集成 II』

古代の土器研究会 1994 『古代の土器 3 都城の土器集成 III』

古代の土器研究会 1996 『古代の土器研究 - 律令的土器様式の西・東 4 煮炊具 -』 古代の土器研究会
第 4 回シンポジウム

後藤健一 2015 『遠江湖西窯跡群の研究』 六一書房

小森俊寛 2005 『京から出土する土器の編年的研究 - 日本律令的土器様式の成立と展開、7 ～ 19 世紀 -』
京都編集工房

鶴間正昭 2019 『律令国家形成期の土器様相』 六一書房

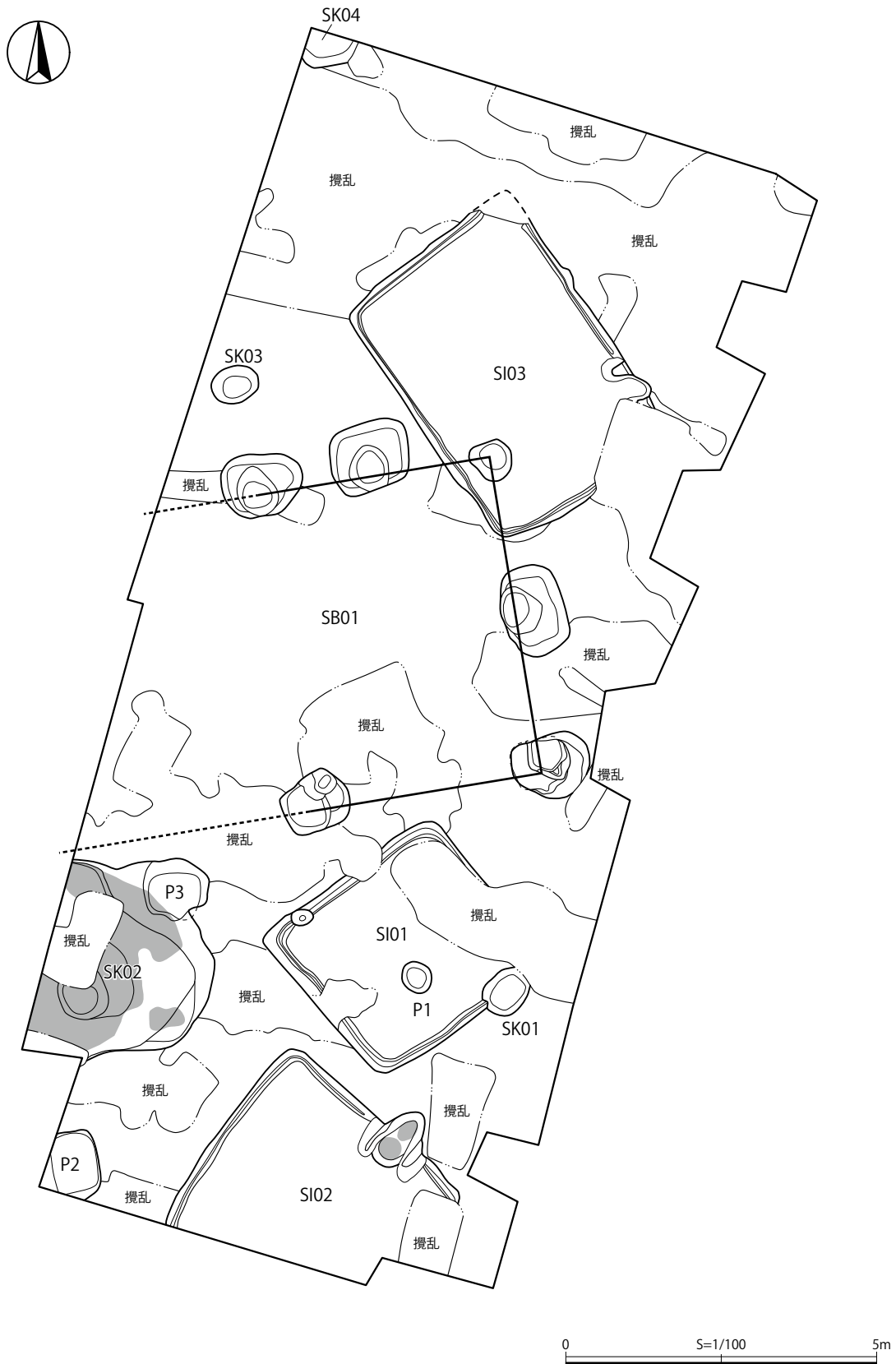
東京都北区教育委員会 1988 『御殿前遺跡』 北区埋蔵文化財発掘調査報告 第 4 集

東京都埋蔵文化財センター 2017 『御殿前遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 第 314 集

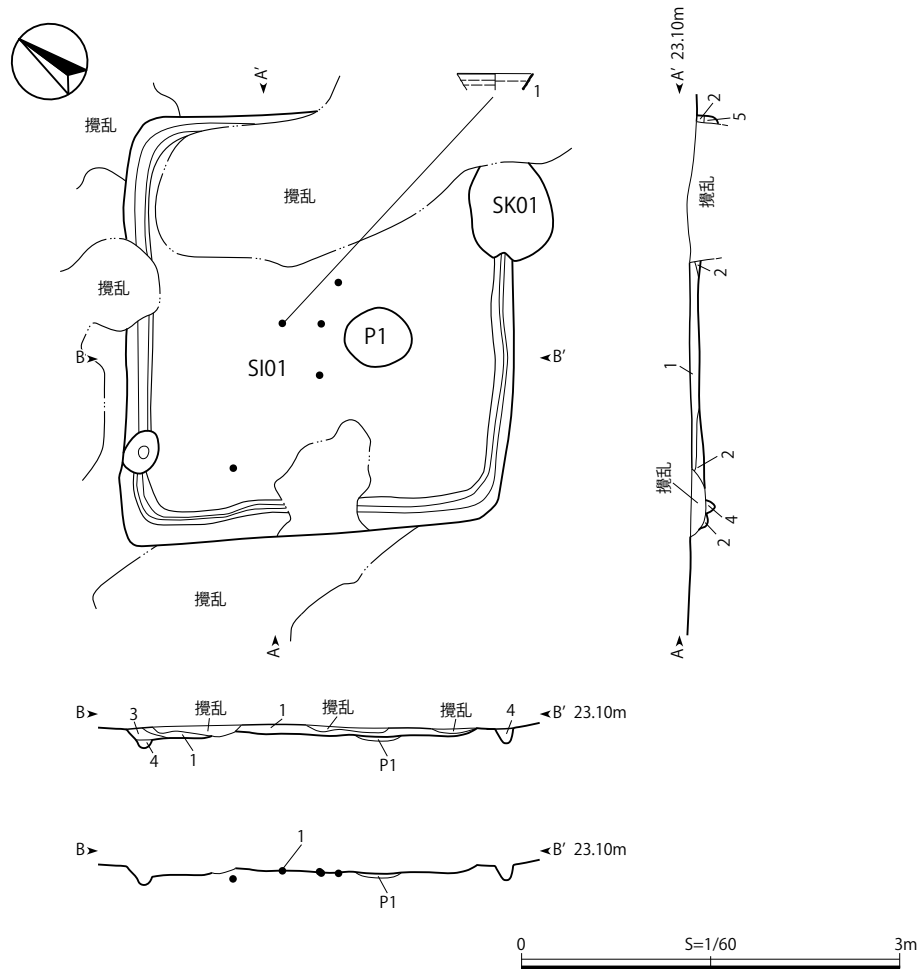
中里遺跡調査団 1989 『中里遺跡 5 - 遺物 II -』 東北新幹線中里遺跡調査会

中島広顕 2020 「豊島評家の誕生 - 北区御殿前遺跡 -」 『飛鳥時代の東国』 高志書院

水口由紀子 1989 「いわゆる“比企型坏”の再検討」 『東京考古』 第 7 号 東京考古談話会



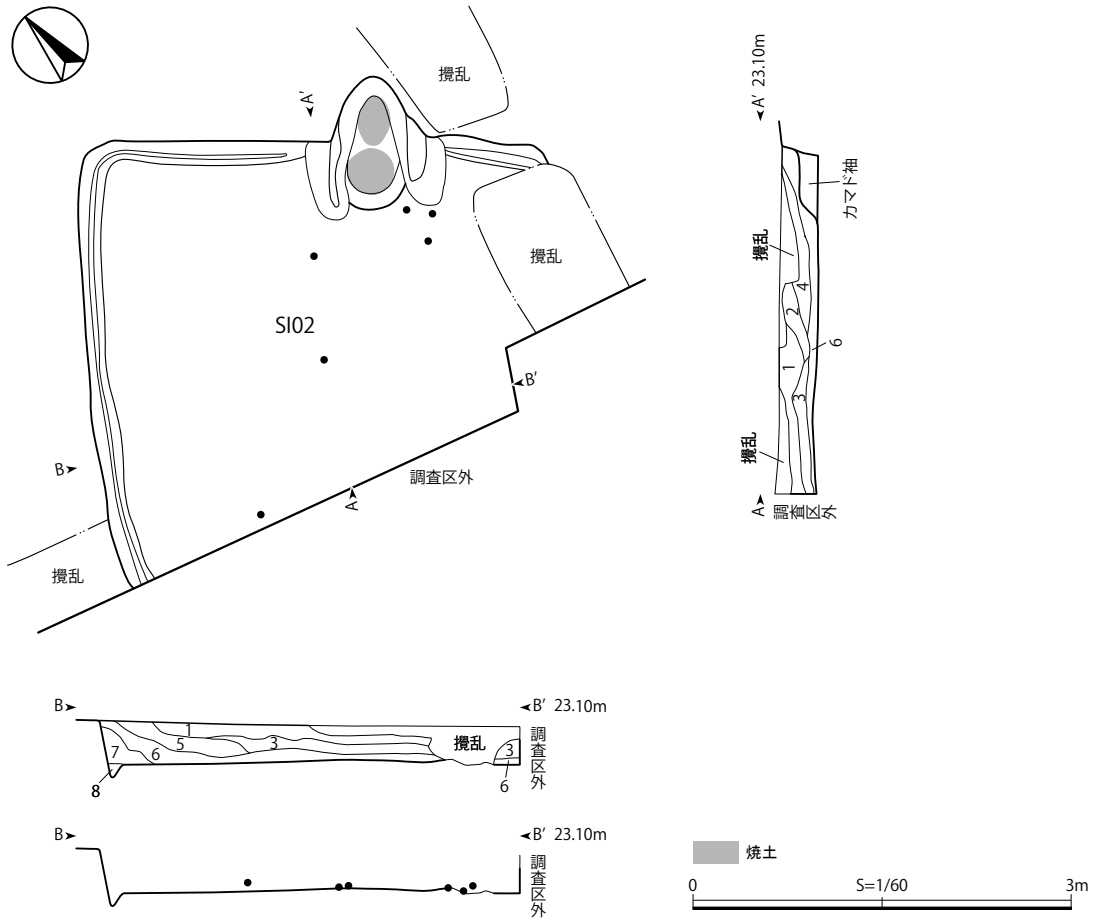
第1図 西ヶ原 1-21-9 地点 調査区全体図



SI01

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い	ローム粒 (φ0.5~2mm) を少量、ロームブロック (φ5~10mm) を微量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	強い	ローム土を斑状に中量含む。
3 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	やや弱い	ローム粒 (φ1~2mm) を微量含む。
4 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ローム土を斑状に中量、ローム粒 (1~2mm) を少量含む。(周溝)
5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	強い	ロームブロック (φ10~20mm) を中量含む。(掘り方)

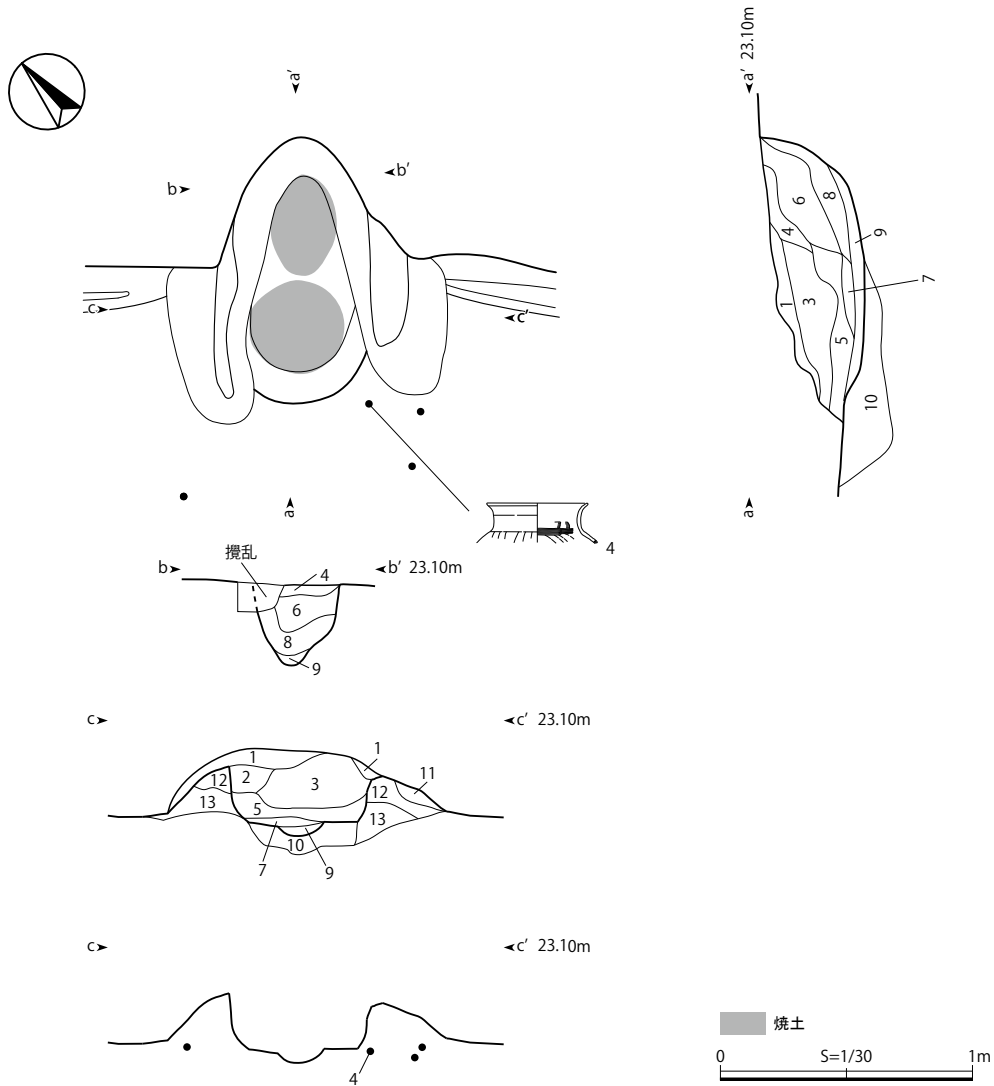
第2図 西ヶ原 1-21-9 地点 SI01 平断面図・遺物出土図



SI02

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗褐色土 (10YR3/3)	やや強い	やや強い	ローム粒 (φ0.5~2mm) を中量、ロームブロック (φ10~50mm) を中量、焼土粒 (φ0.5mm) を微量含む。
2 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	強い	ローム粒 (φ0.5~2mm) を少量、粘土粒 (φ0.5mm) を少量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや強い	ローム粒 (φ1~2mm) を少量、ロームブロック (φ5~20mm) を少量含む。
4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	やや強い	強い	ロームブロック (φ5~20mm) を中量、黒色土 (10YR3/1) を斑状に少量 (炭痕か)、ローム粒 (φ0.5~1mm) を含む。
5 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ロームブロック (φ5~20mm) を少量、黒色土 (10YR3/1) を斑状に少量 (炭痕か)、ローム粒 (φ1~2mm) を多量含む。
6 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	やや強い	ローム粒 (φ0.5~2mm) を微量含む。
7 暗褐色土 (10YR3/3)	やや強い	強い	ローム粒 (φ1~2mm) を微量、ローム土を斑状に多量含む。
8 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	強い	ローム粒 (φ1~2mm) を中量含む。(周溝)

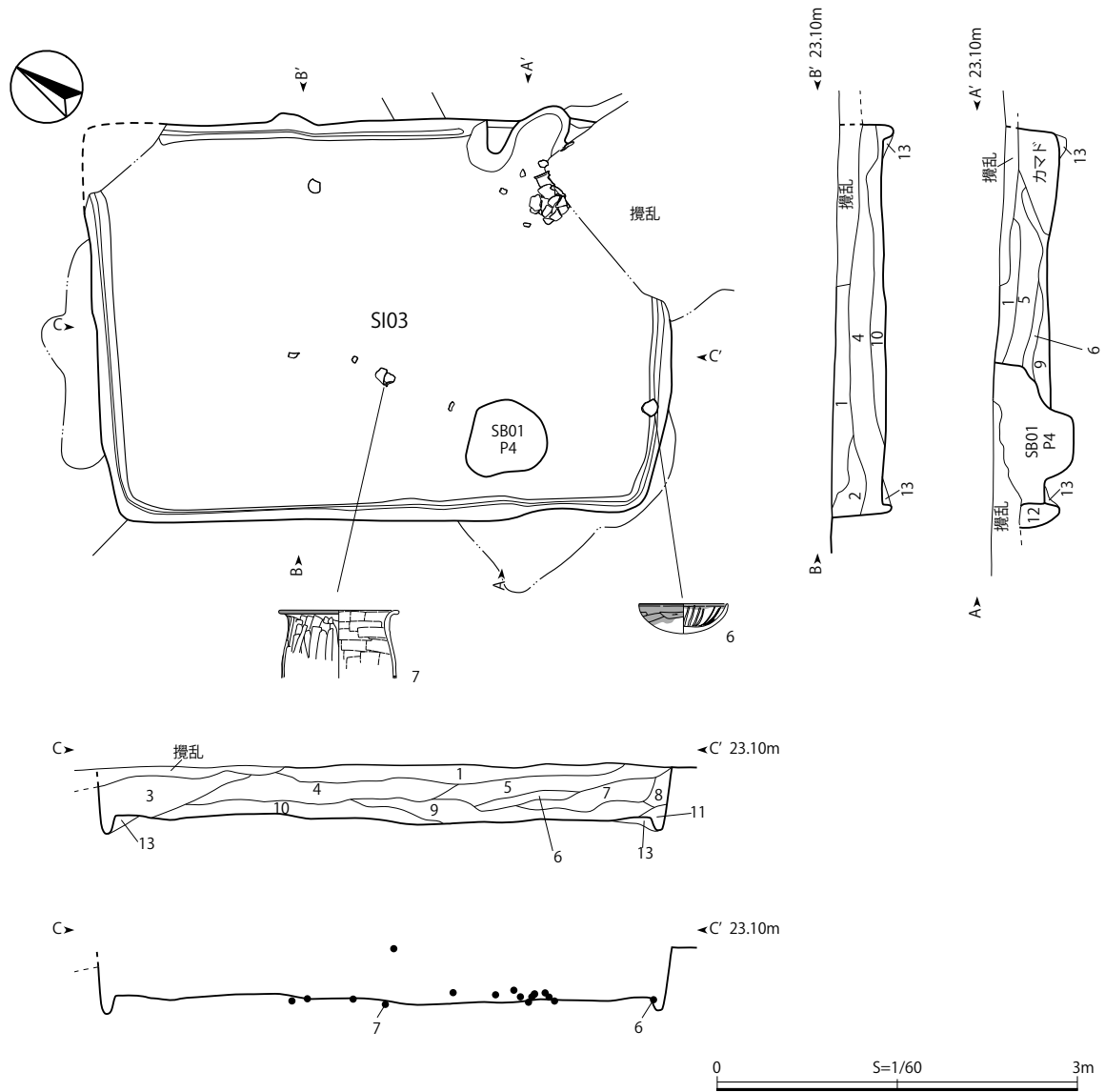
第3図 西ヶ原 1-21-9 地点 SI02 平断面図・遺物出土図



SI02 カマド

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗褐色土 (10YR3/3)	やや強い	やや弱い	ローム粒 (φ1~3mm) を少量、焼土粒 (φ1~2mm) を少量、焼土ブロック (φ5mm) を微量、炭化物 (φ1~3mm) を少量、白色粘土を斑状に少量含む。※カマド天井崩落後の堆積層。
2 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ロームブロック (φ5~20mm) を少量、ローム粒 (φ1~2mm) を少量、焼土粒 (φ1~2mm) を少量、焼土ブロック (φ5~10mm) を少量含む。
3 にぶい黄橙色土 (10YR6/3)	強い	強い	ロームブロック (φ5~10mm) を微量、ローム粒 (φ1~2mm) を微量、焼土粒 (φ1~2mm) を少量、炭化物 (φ1~2mm) を微量含む。※白色粘土を主体とする。褐色土 (7.5YR4/3) が斑状に少量混入。
4 暗赤褐色土 (5YR3/2)	強い	やや弱い	ローム粒 (φ1~2mm) を少量、焼土粒 (φ0.5~2mm) を中量、炭化物 (φ1~2mm) を少量、粘土粒 (φ1~2mm) を少量含む。※天井崩落土、粘土層、焼土層混在。
5 暗褐色土 (7.5YR3/3)	強い	やや弱い	焼土粒 (φ1~2mm) を少量、焼土ブロック (φ5~10mm) を少量、炭化物 (φ1~2mm) を微量含む。
6 にぶい赤褐色土 (5YR4/3)	弱い	強い	ローム粒 (φ1~2mm) を微量、炭化物 (φ5~20mm) を少量を含む。焼土・粘土が斑状に混入。 ※φ50mm 台の焼土ブロックあり。天井崩落土、焼土層混在。
7 暗褐色土 (7.5YR3/3)	やや強い	弱い	焼土ブロック (φ1~2mm) を少量、炭化物 (φ1mm) を少量含む。
8 暗褐色土 (7.5YR3/3)	弱い	やや弱い	焼土ブロック (φ5~10mm) を中量、粘土粒 (φ1~2mm) を少量、炭化物粒 (φ10~20mm) を中量含む。炭化物は底付近に集中する。
9 灰褐色土 (7.5YR4/2)	強い	やや弱い	焼土粒 (φ0.5~2mm) を少量、炭化物 (φ2~5mm) を少量、灰を上面に中量含む。
10 暗褐色土 (10YR3/3)	やや弱い	やや弱い	ロームブロック (φ10~20mm) を中量含む。(住居跡掘り方)
11 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	強い	ローム粒 (φ0.5mm) を微量、焼土粒 (φ0.5~1mm) を微量含む。
12 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	強い	白色粘土主体。焼土粒 (φ0.5~1mm) を微量含む。
13 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ローム土を斑状に中量、ロームブロック (φ10~20mm) を中量含む。

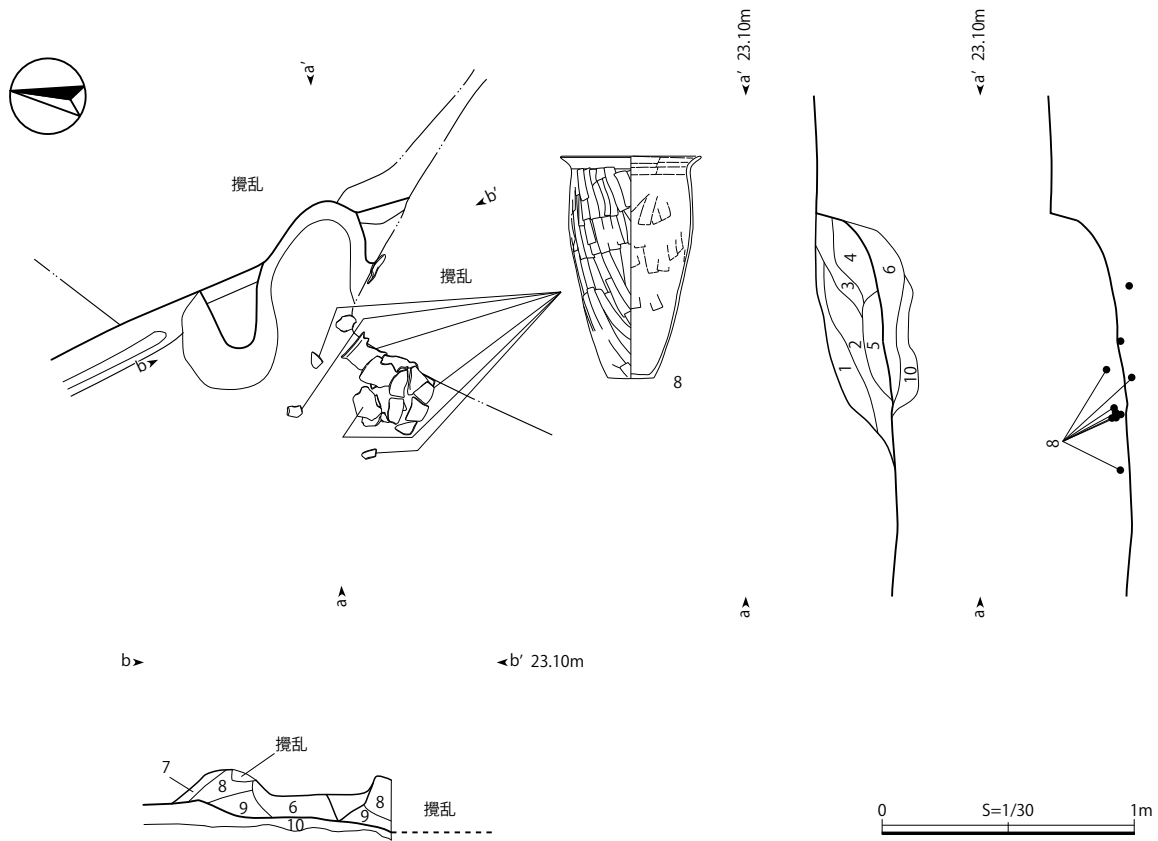
第4図 西ヶ原 1-21-9 地点 SI02 カマド平断面図・遺物出土図



SI03

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/2)	やや弱い	やや弱い	ローム粒 (φ0.5~1mm) を微量、焼土粒 (φ0.5~1mm) を微量、炭化物 (φ0.5~1mm) を微量含む。
2 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	やや強い	ローム粒 (φ0.5~2mm) を少量含む。
3 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い	ローム粒 (φ0.5~2mm) を微量、ロームブロック (φ10~30mm) を少量含む。
4 黒褐色土 (10YR2/3)	やや弱い	やや弱い	ローム粒 (φ0.5~2mm) を少量、焼土粒 (φ0.5~2mm) を少量含む。
5 黒褐色土 (10YR3/2)	やや強い	強い	ローム粒 (φ0.5~2mm) を少量含む。
6 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	強い	ローム粒 (φ0.5~1mm) を微量含む。
7 黒褐色土 (10YR2/2)	やや強い	強い	ローム粒 (φ0.5~1mm) を微量、ロームブロック (φ30mm) を部分的に少量含む。
8 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	強い	黒褐色土を斑状に多量含む。
9 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	強い	ローム粒 (φ1~2mm) を中量、ロームブロック (φ10~20mm) を中量含む。
10 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い	ローム粒 (φ1~2mm) を少量、ロームブロック (φ10~20mm) を少量含む。
11 黒褐色土 (10YR3/1)	やや弱い	強い	ロームブロック (φ10~20mm) を少量、ローム粒 (φ1~2mm) を少量含む。
12 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ローム粒 (φ1~2mm) を少量、ロームブロック (φ5~10mm) を少量含む。A断面のみ。
13 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い	ロームブロック (φ5~10mm) を中量含む。掘り方埋土。

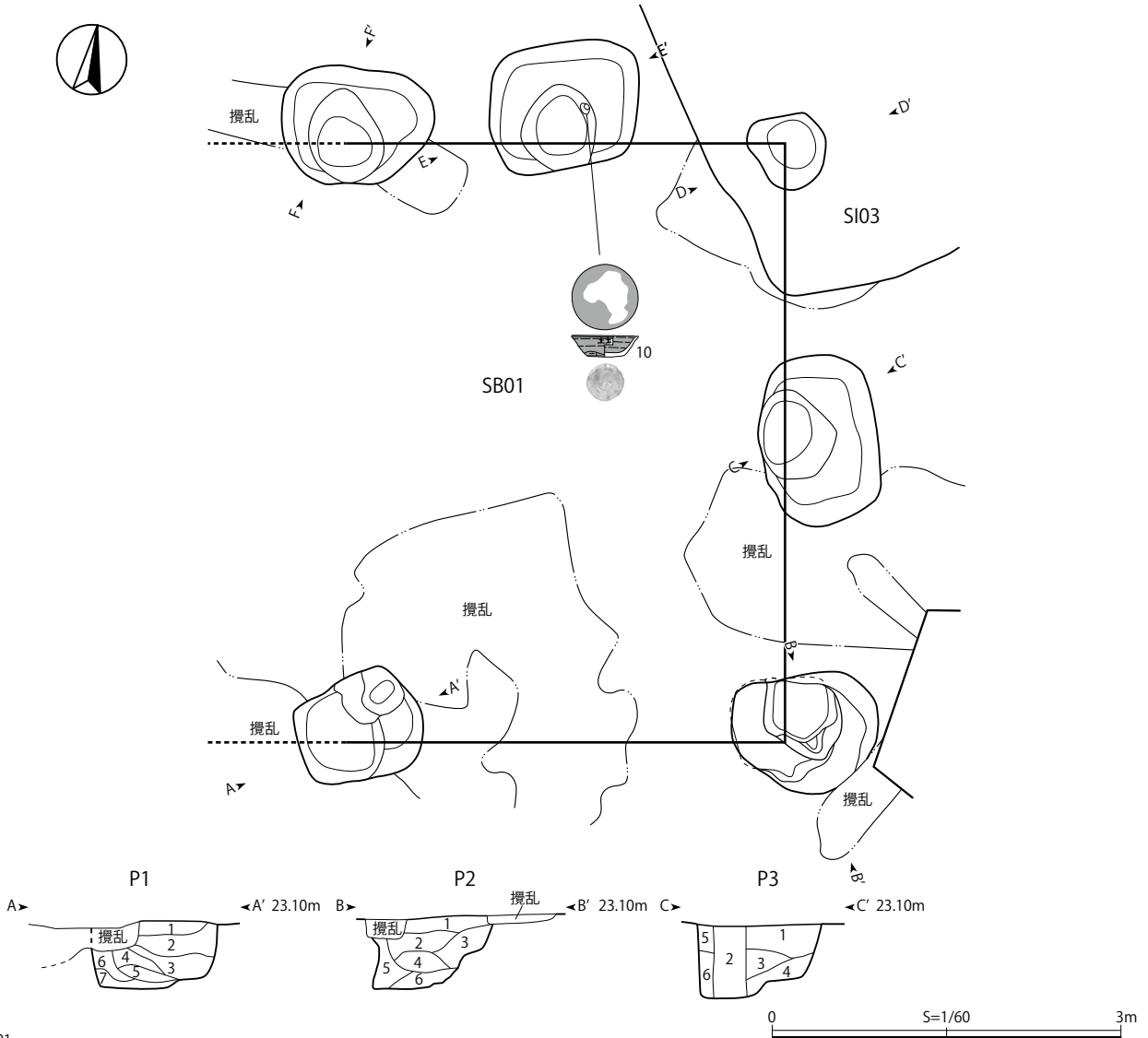
第5図 西ヶ原 1-21-9 地点 SI03 平断面図・遺物出土図



SI03 カマド

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	焼土ブロック (φ5mm) を微量、ローム粒 (φ1~2mm) を微量に含む。
2 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い	粘土粒 (φ0.5~1mm) を中量、粘土ブロック (φ5~10mm) を少量、炭化物 (φ1~2mm) を少量含む。 (崩落天井部)
3 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い	粘土粒 (φ1~2mm) を少量、焼土粒 (φ1~2mm) を微量含む。(崩落天井部)
4 暗褐色土 (7.5YR3/3)	やや弱い	強い	焼土を斑状に中量、焼土粒 (φ1~2mm) を少量含む。
5 暗褐色土 (10YR3/3)	やや弱い	やや弱い	ローム粒 (φ1~2mm) を微量、焼土粒 (φ1~2mm) を微量、粘土粒 (φ1~2mm) を微量含む。
6 暗褐色土 (7.5YR3/3)	やや強い	やや強い	焼土ブロック (φ5~20mm) を少量、灰 (φ0.5mm以下) を中量、黒褐色土 (7.5YR2/2) を斑状に中量含む。 ※掘り方は被熱し硬化するが赤化はあまりない。
7 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	粘土粒 (φ1~2mm) を少量含む。
8 にぶい黄褐色土 (10YR5/4)	強い	やや強い	黄色粘土主体、焼土を斑状に少量含む。(袖主体部)
9 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	焼土粒 (φ1~2mm) を微量、粘土粒 (φ1~2mm) を微量含む。(袖主体部)
10 黒褐色土 (10YR2/3)	やや弱い	やや強い	ロームブロック (φ5~20mm) を中量含む。

第6図 西ヶ原 1-21-9 地点 SI03 カマド平面断面図・遺物出土図



P1

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を中量、ロームブロック ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) を微量含む。
2 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	強い	ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を少量含む。
3 黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱い	強い	ローム粒 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 40\text{mm}$) を少量含む。
4 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を中量、ロームブロック ($\phi 10\text{mm}$) を微量含む。
5 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	強い	ロームブロック ($\phi 20 \sim 30\text{mm}$) を中量含む。
6 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を中量、ローム土を斑状に多量含む。
7 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い	ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を中量含む。

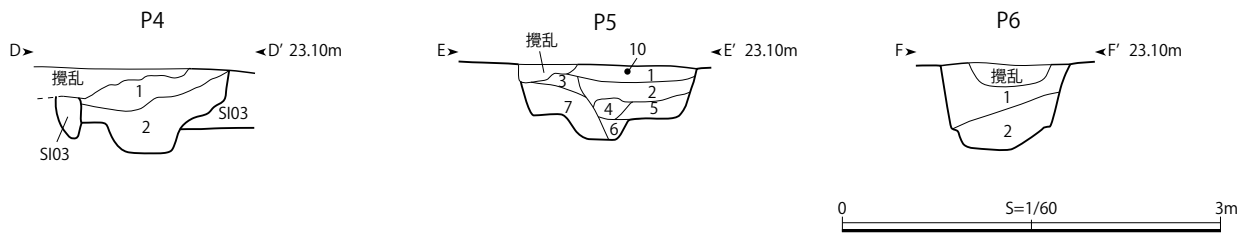
P2

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い	ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を少量、粘土粒 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を微量含む。
2 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	強い	ローム粒 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を少量、炭化物 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を微量含む。
3 黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱い	強い	ローム粒 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を多量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を中量、黒色土を斑状に少量含む。
4 黒褐色土 (10YR2/2)	やや強い	強い	ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を少量、炭化物 ($\phi 1 \sim 5\text{mm}$) を少量含む。
5 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い	ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を多量、ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を中量含む。
6 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を中量含む。

P3

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	非常に強い	やや強い	ローム ($\phi 10 \sim 40\text{mm}$) を中量含む。
2 黒褐色土 (10YR2/2)	強い	やや強い	ローム ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を微量含む。
3 黒褐色土 (10YR3/2)	非常に強い	強い	ローム ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) を微量含む。
4 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い	ローム ($\phi 10 \sim 40\text{mm}$) を斑状に中量含む。
5 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや強い	ローム ($\phi 5 \sim 20\text{mm}$) を少量含む。
6 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い	ローム ($\phi 20 \sim 40\text{mm}$) を微量含む。

第7図 西ヶ原 1-21-9 地点 SB01 平断面図 (1)・遺物出土図

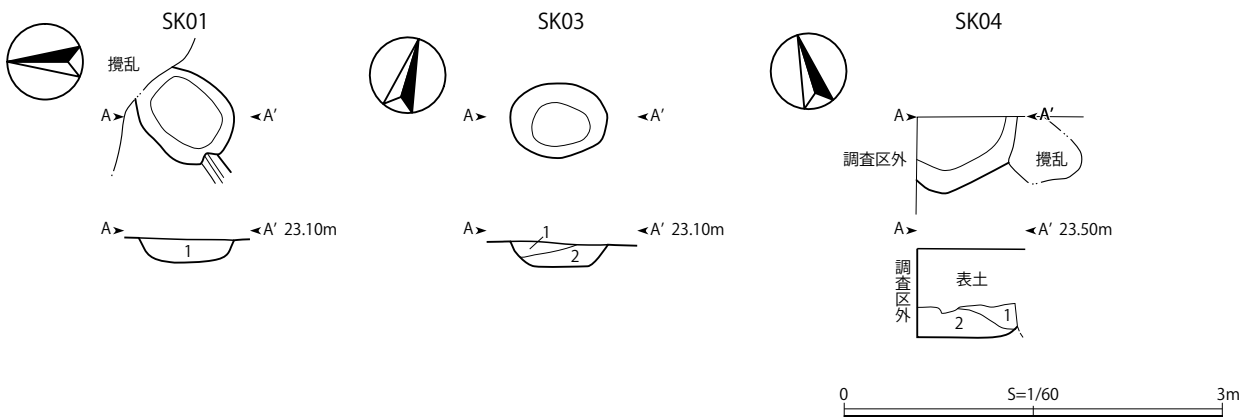


P4			
土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	強い	ローム粒 (φ0.5 ~ 2mm) を微量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや強い	ローム粒 (φ0.5 ~ 1mm) を微量含む。

P5			
土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや強い	ローム (φ1 ~ 30mm) を少量含む。
2 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い	ローム (φ1 ~ 5mm) を少量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/3)	やや強い	やや強い	ローム (φ10 ~ 50mm) を斑状に多量含む。
4 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	強い	ローム (φ1 ~ 3mm) を少量含む。
5 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ローム (φ20 ~ 40mm) を斑状に中量含む。
6 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い	ローム (φ20 ~ 50mm) を斑状に多量含む。
7 褐色土 (10YR4/4)	強い	強い	ローム (φ20 ~ 50mm) を少量、黒色土 (φ20 ~ 40mm) を斑状に少量含む。

P6			
土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い	ローム (φ5 ~ 30mm) を斑状に中量含む。
2 褐色土 (10YR4/4)	強い	強い	黒色土 (φ10 ~ 40mm) を斑状に中量含む。

第8図 西ヶ原 1-21-9 地点 SB01 平断面図 (2)

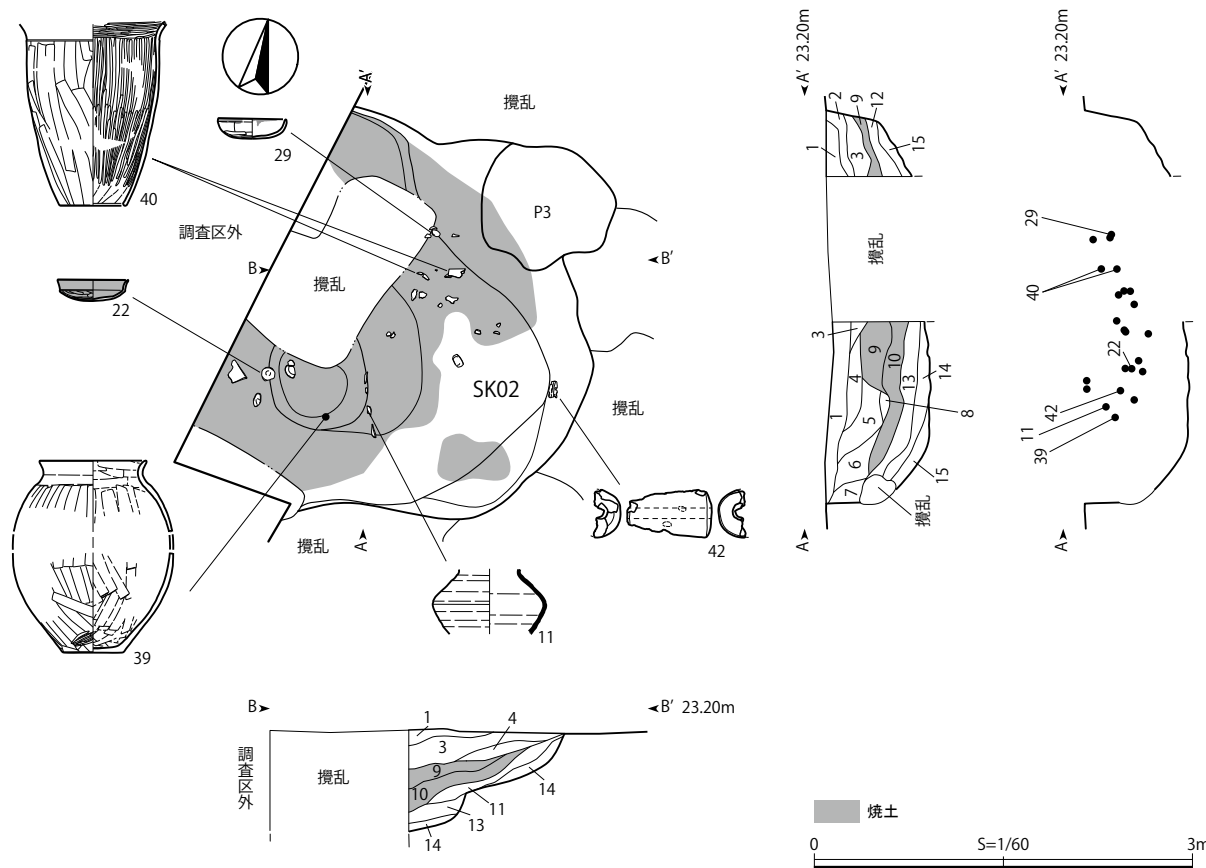


SK01			
土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR3/1)	強い	弱い	ローム粒 (φ1 ~ 2mm) を少量、炭化物 (φ2 ~ 5mm) を少量、焼土粒 (φ1mm) を微量含む。 貝殻 (ハイガイ) 混入。

SK03			
土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/2)	強い	強い	ローム粒 (φ0.5 ~ 5mm) を少量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い	ローム粒 (φ1 ~ 3mm) を少量、ロームブロック (φ10 ~ 30mm) を少量、黒色土を斑状に含む。

SK04			
土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1 ~ 5mm) を少量、焼土 (φ1 ~ 3mm) を少量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	やや強い	ローム (φ1 ~ 10mm) を少量含む。

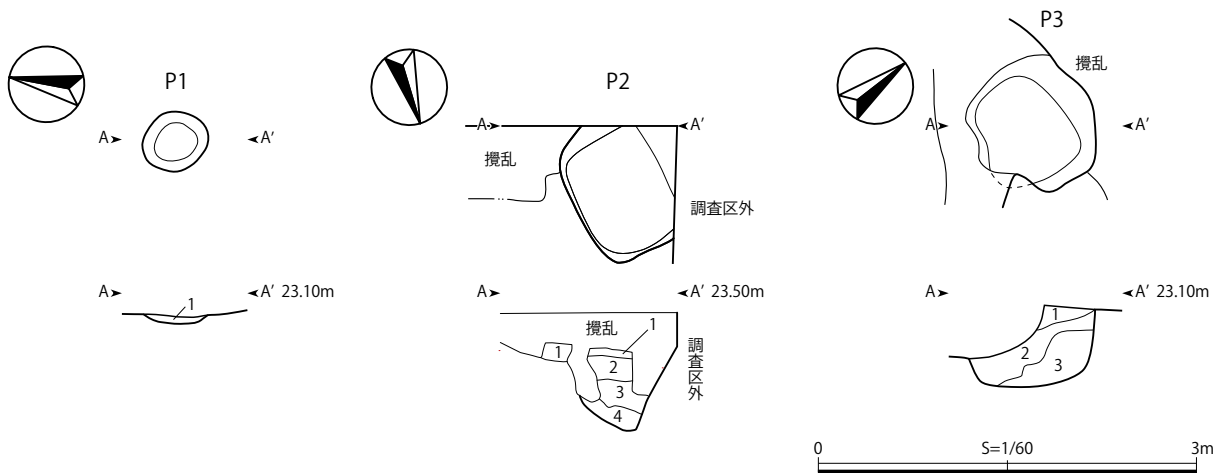
第9図 西ヶ原 1-21-9 地点 SK01・SK03・SK04 平断面図



SK02

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	強い	焼土粒、ローム粒 (φ0.5 ~ 2mm) を少量、炭化物 (φ2 ~ 5mm) を微量含む。
2 黒褐色土 (7.5YR3/1)	やや強い	強い	焼土粒 (φ1 ~ 2mm) を少量、ローム粒 (φ1mm) を少量含む。
3 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い	焼土粒 (φ0.5 ~ 2mm) を微量、ローム粒 (φ0.5 ~ 2mm) を微量、粘土粒 (φ0.5 ~ 1mm) を少量含む。 ※10 ~ 20mm 台の焼土ブロックあり。
4 黒褐色土 (5YR2/2)	やや弱い	やや強い	焼土粒 (φ1 ~ 2mm) を微量、粘土粒 (φ0.5mm) を微量、炭化物 (φ2 ~ 5mm) を微量含む。
5 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	やや弱い	焼土粒 (φ0.5mm 以下) を中量、炭化物 (φ1 ~ 2mm) を少量含む。
6 黒褐色土 (10YR2/2)	強い	強い	焼土粒 (φ0.5 ~ 2mm) を中量、ロームブロック (φ5 ~ 10mm) を少量、炭化物 (φ2 ~ 5mm) を少量含む。 ※ロームブロックは被熱。
7 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い	焼土粒 (φ0.5mm) を微量、ローム粒 (φ5 ~ 10mm) を少量、炭化物 (φ2 ~ 5mm) を微量含む。
8 黒褐色土 (7.5YR2/2)	やや強い	やや弱い	焼土粒 (φ0.5 ~ 1mm) を少量、炭化物 (φ1mm) を少量含む。
9 暗褐色土 (7.5YR3/4)	やや強い	やや弱い	焼土粒 (φ0.5 ~ 2mm) を少量、炭化物 (φ5 ~ 10mm) を少量含む。焼土が斑状に大きく入る。焼土主体。
10 黒褐色土 (7.5YR3/2)	やや強い	弱い	焼土粒 (φ0.5 ~ 2mm) を中量、炭化物 (φ5 ~ 10mm) を少量含む。焼土主体。
11 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	やや強い	焼土粒 (φ0.5 ~ 1mm) を少量、ローム粒 (φ1 ~ 2mm) を少量、炭化物 (φ10 ~ 30mm) を少量、ロームブロック (φ10 ~ 20mm) を少量含む。
12 黒褐色土 (7.5YR3/1)	やや強い	強い	ロームブロック (φ5 ~ 10mm) を少量含む。ローム土が斑状に入る。
13 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い	ローム粒 (φ0.5 ~ 2mm) を少量、ロームブロック (φ5 ~ 30mm) を中量含む。ロームブロックは被熱して硬質化する。
14 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い	ローム土を斑状に少量含む。
15 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	強い	ローム土を斑状に中量含む。

第10図 西ヶ原 1-21-9 地点 SK02 平断面図・遺物出土図

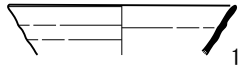


P1
 土色 締り 粘性 混入物・備考
 1 黒褐色土 (7.5YR3/1) やや強い やや弱い 弱い 焼土粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を中量含む。

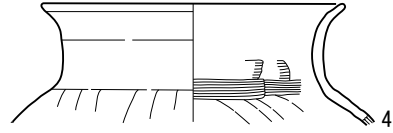
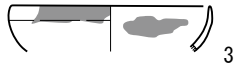
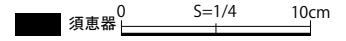
P2
 土色 締り 粘性 混入物・備考
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 非常に強い 強い 強い ローム粒 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を微量含む。
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 強い 強い 強い ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を中量、ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を少量含む。
 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 強い 強い 強い ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を中量、炭化物 ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) を微量含む。
 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 強い 強い 強い ロームブロック ($\phi 20 \sim 40\text{mm}$) を多量、炭化物 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を微量含む。

P3
 土色 締り 粘性 混入物・備考
 1 黒褐色土 (10YR3/2) 強い やや弱い 弱い ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を少量含む。
 2 黒褐色土 (10YR2/2) 強い やや強い 弱い ローム粒 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 40\text{mm}$) を中量含む。
 3 暗褐色土 (10YR3/4) 強い 強い 強い ロームブロック ($\phi 10 \sim 40\text{mm}$) を多量含む。

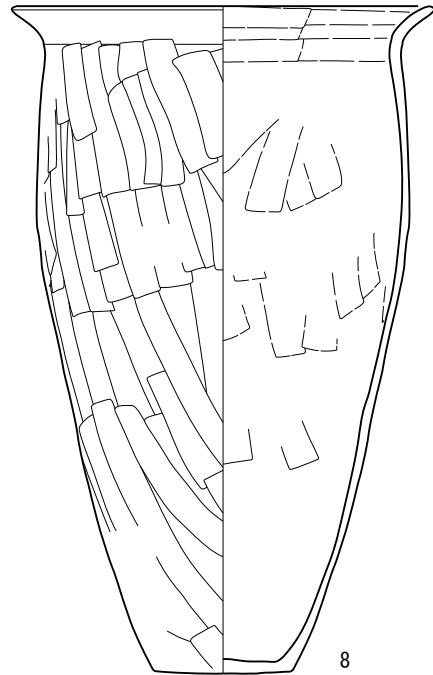
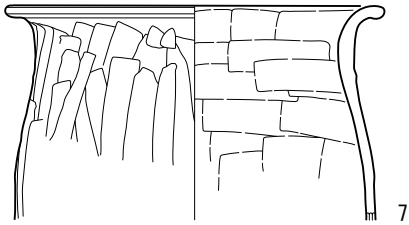
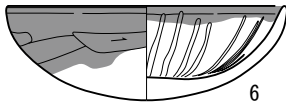
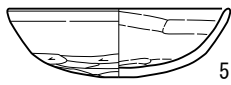
第 11 図 西ヶ原 1-21-9 地点 P1 ～ P3 平断面図



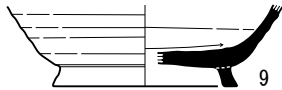
SI01



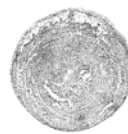
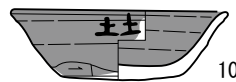
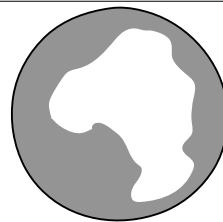
SI02



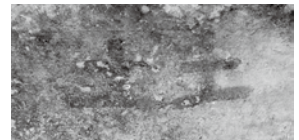
SI03



SB01-P1

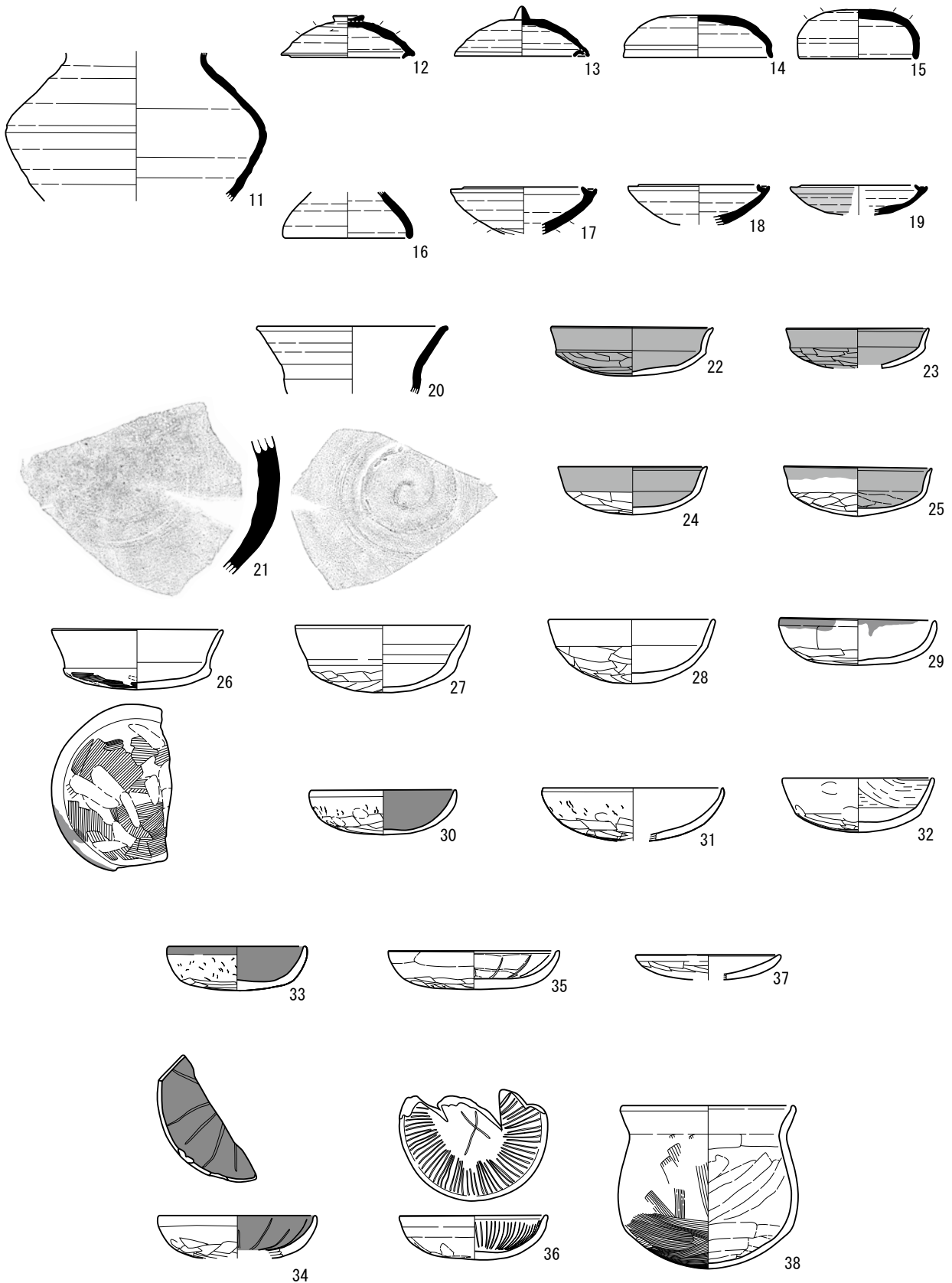


SB01-P5



(S=1/1)

第 12 図 西ヶ原 1-21-9 地点 出土遺物実測図 (1)



SK02

須恵器
 釉薬
 赤彩
 煤
 黒色処理

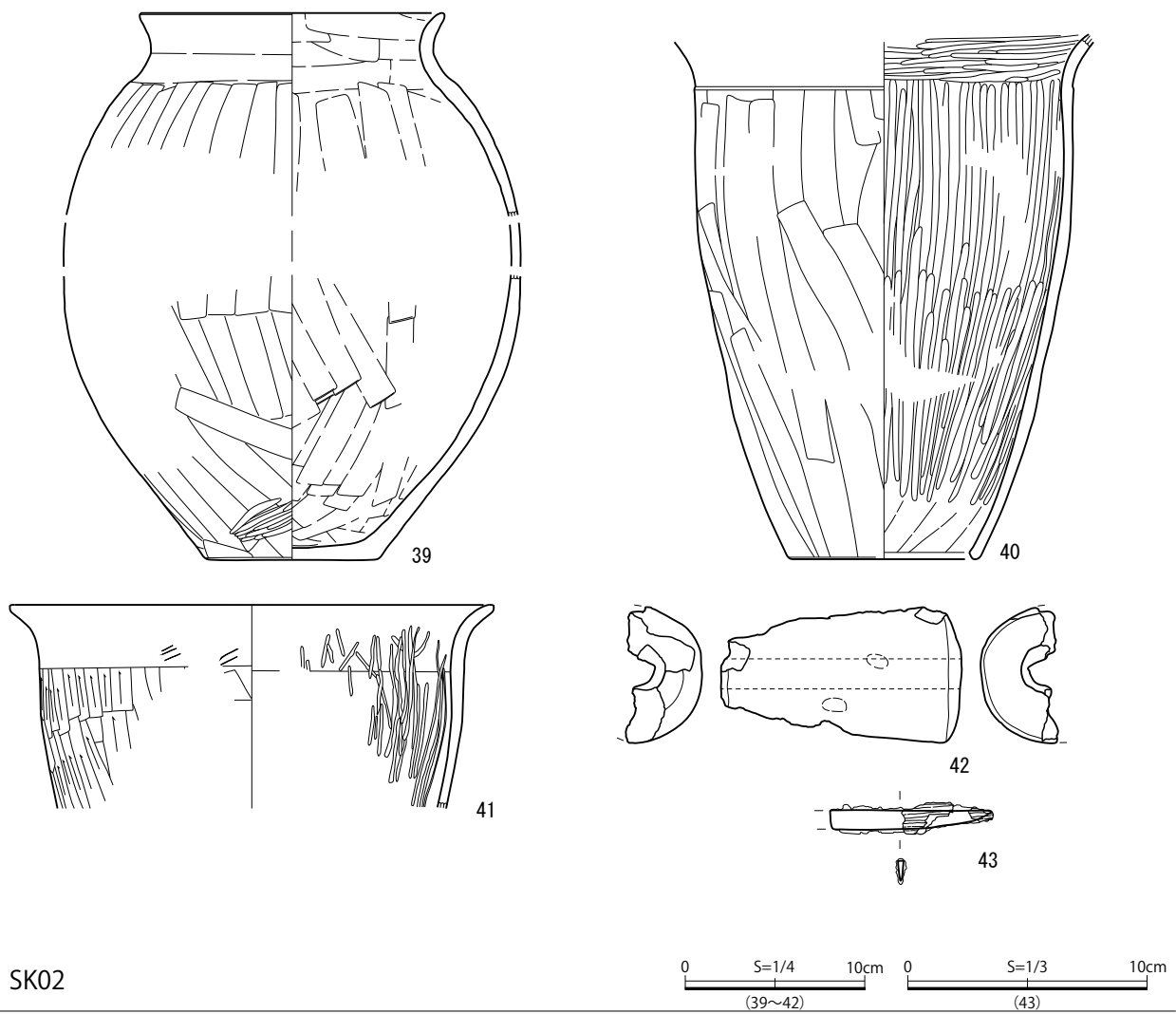
0 S=1/4 10cm

0 S=1/3 10cm

(11~20・22~38)

(21)

第13図 西ヶ原 1-21-9 地点 出土遺物実測図 (2)



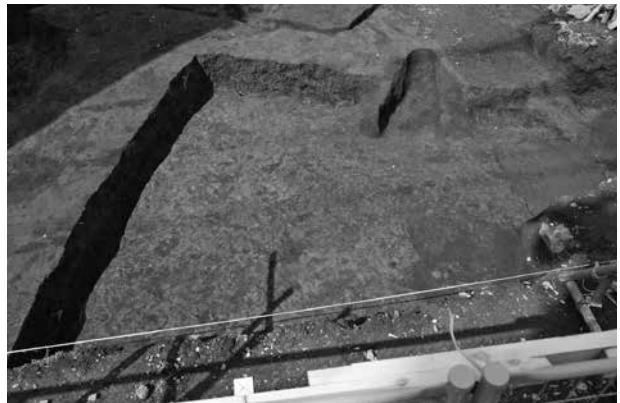
第14図 西ヶ原 1-21-9 地点 出土遺物実測図 (3)



完掘全景合成写真（上が北）



SI01 完掘（南西から）



SI02 完掘（南西から）



SI02 カマド完掘（南西から）



SI03 完掘（南西から）

図版1 西ヶ原 1-21-9 地点（1）



SI03 遺物出土状況（南西から）



SI03 カマド付近遺物出土状況 1（南東から）



SI03 カマド完掘（南西から）



SI03 カマド付近遺物出土状況 2（南西から）



SB01P5 完掘（南東から）



SB01P6 完掘（南東から）

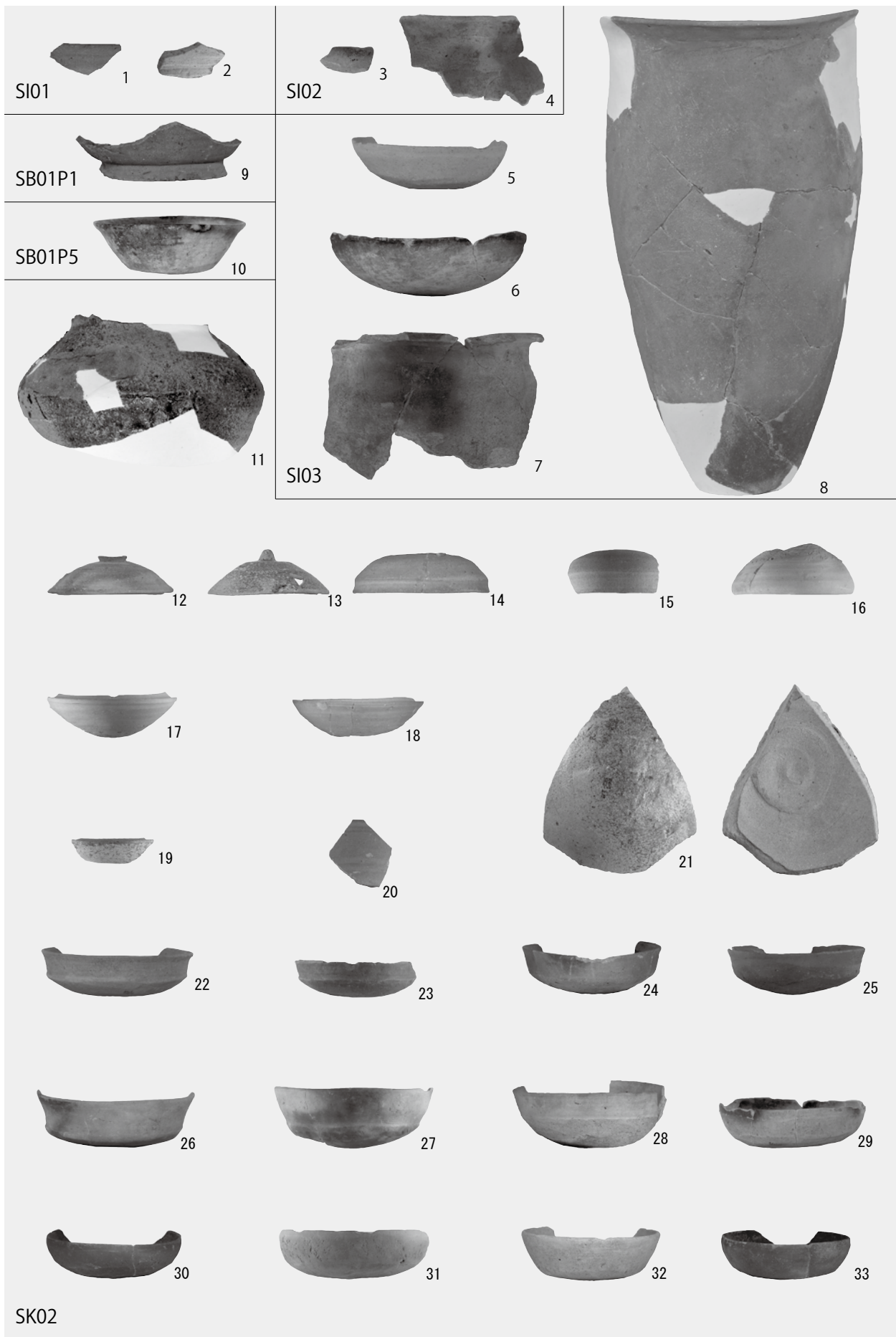


SK02 完掘（南東から）



SK02 遺物出土状況（南から）

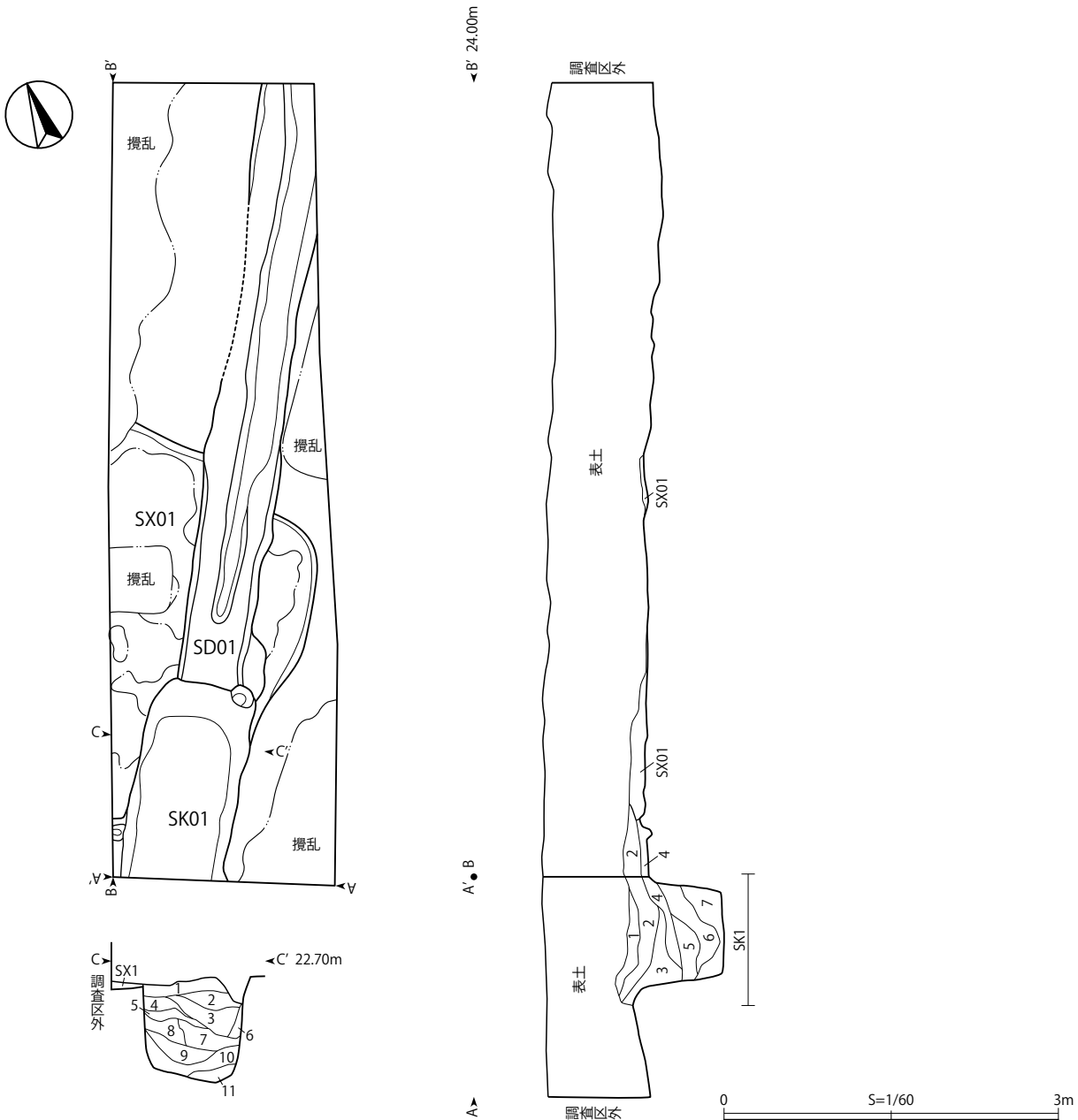
図版 2 西ヶ原 1-21-9 地点 (2)



図版3 西ヶ原 1-21-9 地点 出土遺物 (1)



図版4 西ヶ原 1-21-9 地点 出土遺物 (2)



SK01 (南壁・西壁)

土色	締り	粘性
1 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い
2 黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱い	強い
3 黒褐色土 (10YR2/3)	やや弱い	やや強い
4 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	強い
5 黒褐色土 (10YR3/1)	やや弱い	強い
6 暗褐色土 (10YR3/3)	やや弱い	強い
7 黒褐色土 (10YR3/2)	強い	強い

SK01 (C 断面)

土色	締り	粘性
1 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや弱い
2 黒褐色土 (10YR3/2)	弱い	やや強い
3 灰黄褐色土 (10YR4/2)	やや強い	やや強い
4 黒褐色土 (10YR2/3)	やや弱い	やや強い
5 暗褐色土 (10YR3/3)	やや強い	強い
6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	やや弱い	強い
7 黒褐色土 (10YR3/2)	やや強い	やや強い
8 黒褐色土 (10YR3/2)	強いやや	強い
9 黒褐色土 (10YR2/2)	やや強い	やや強い
10 暗褐色土 (10YR3/3)	やや強い	強い
11 黒色土 (10YR2/1)	やや強い	強い

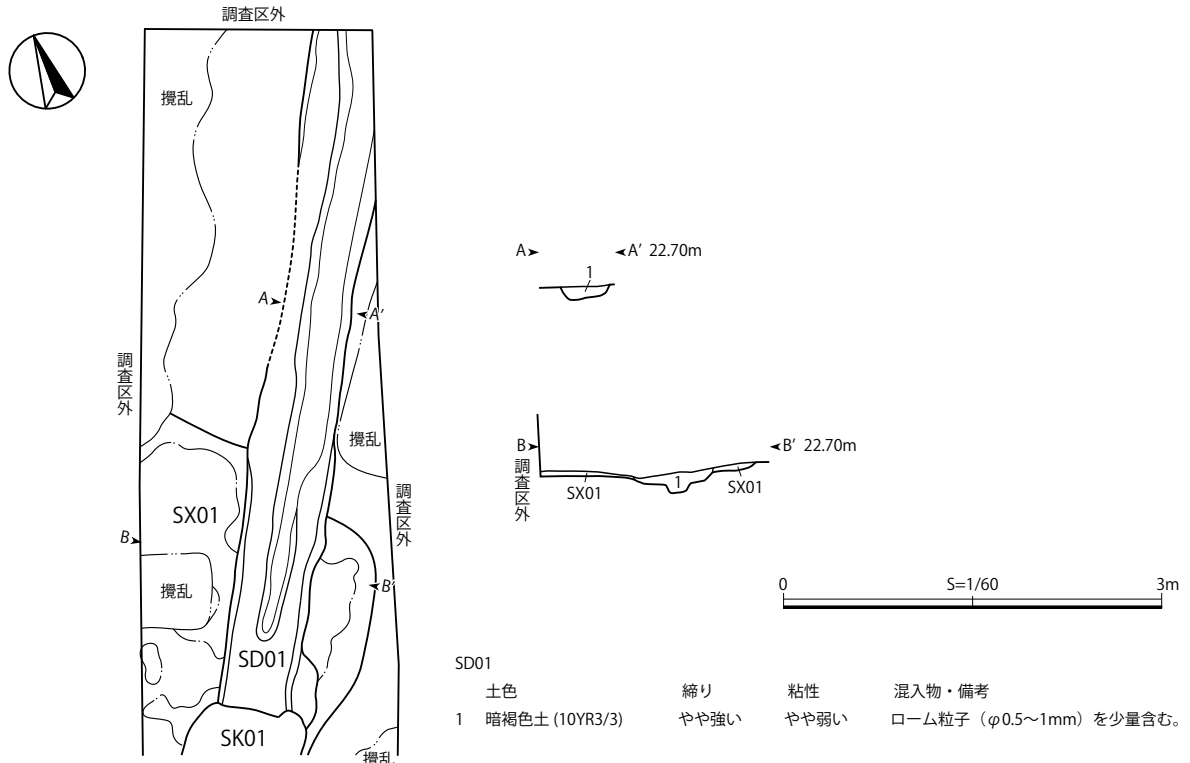
混入物・備考

ローム粒子 (φ0.5~2mm) を少量、ロームブロック (φ10~30mm) 少量含む。
 ローム (φ0.5~1mm) を微量、ロームブロック (φ5~10mm) を微量、小礫 (φ20~30mm) を少量、炭化物 (φ5~10mm) を少量含む。
 ローム粒子 (φ1~2mm) を少量、ロームブロック (φ5~20mm) を少量、粘土粒 (φ0.5~1mm) を微量含む。
 ローム土を斑状に多量、ローム粒子 (φ1~2mm) を少量含む。※ロームは下部にまとまる。
 ローム粒子 (φ0.5~1mm) を微量、ロームブロック (φ10~20mm) 微量含む。
 ローム粒子 (φ0.5~2mm) を中量、ロームブロック (φ5~10mm) を少量含む。
 ロームブロック (φ10~50mm) を多量、ローム粒子 (φ1~2mm) を少量含む。

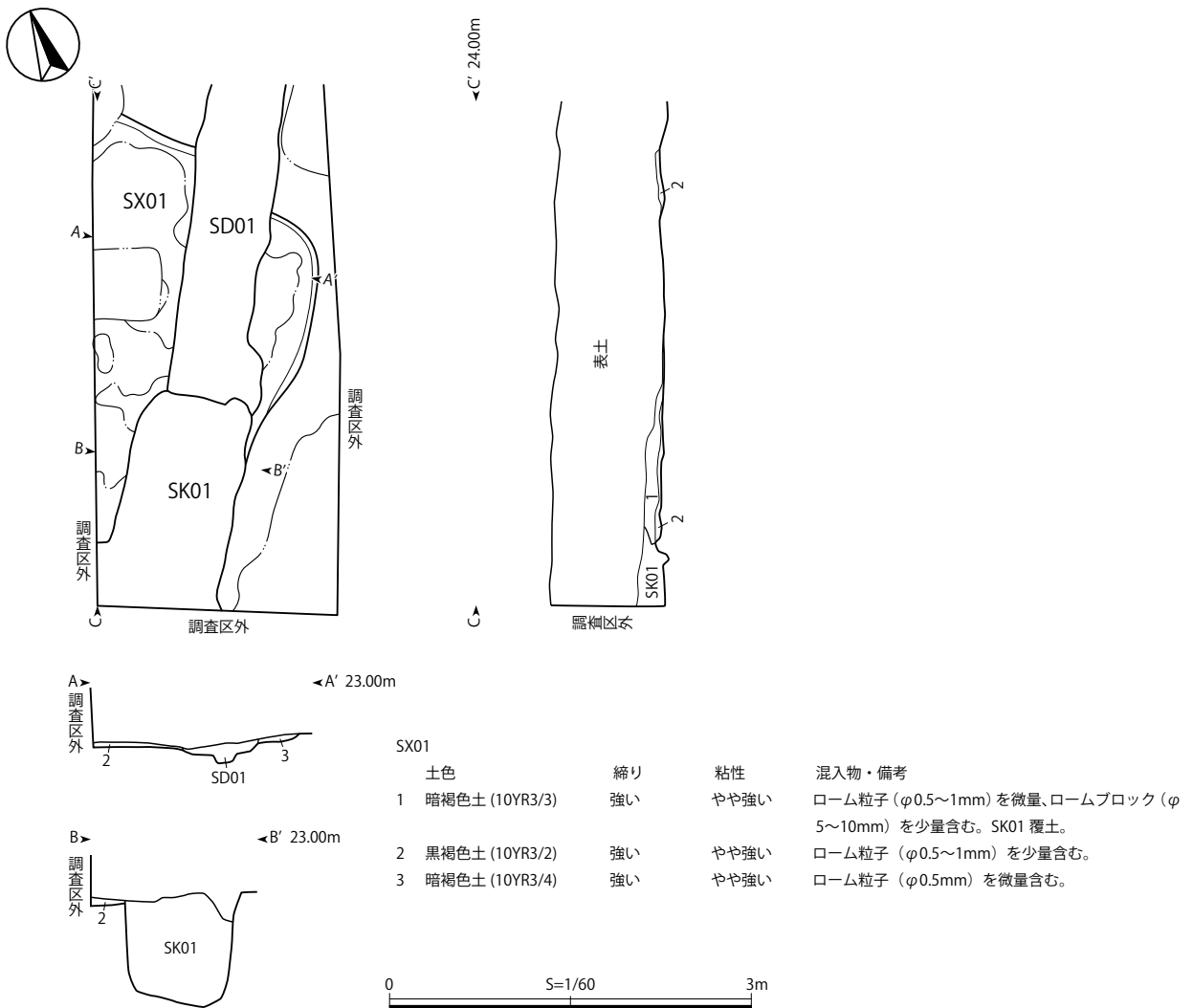
混入物・備考

ローム粒子 (φ0.5~2mm) を少量含む。
 ローム粒子 (φ0.5mm) を微量含む。
 ローム粒子 (φ1~2mm) を少量、ロームブロック (φ5~20mm) を少量、部分的にロームブロック集まる。
 ローム粒子 (φ0.5mm) を極微量含む。
 ローム粒子 (φ0.5~2mm) を中量、ロームブロック (φ10~20mm) を中量含む。
 ローム粒子 (φ0.5~1mm) を少量、ロームブロック (φ10~30mm) を多量含む。
 ローム粒子 (φ1~2mm) を少量含む。
 ローム粒子 (φ0.5~1mm) を微量含む。
 ローム粒子 (φ0.5~2mm) を微量含む。
 ローム粒子 (φ1~2mm) を中量、ロームブロック (φ10~30mm) を少量含む。
 ローム粒子 (φ1~2mm) を微量含む。

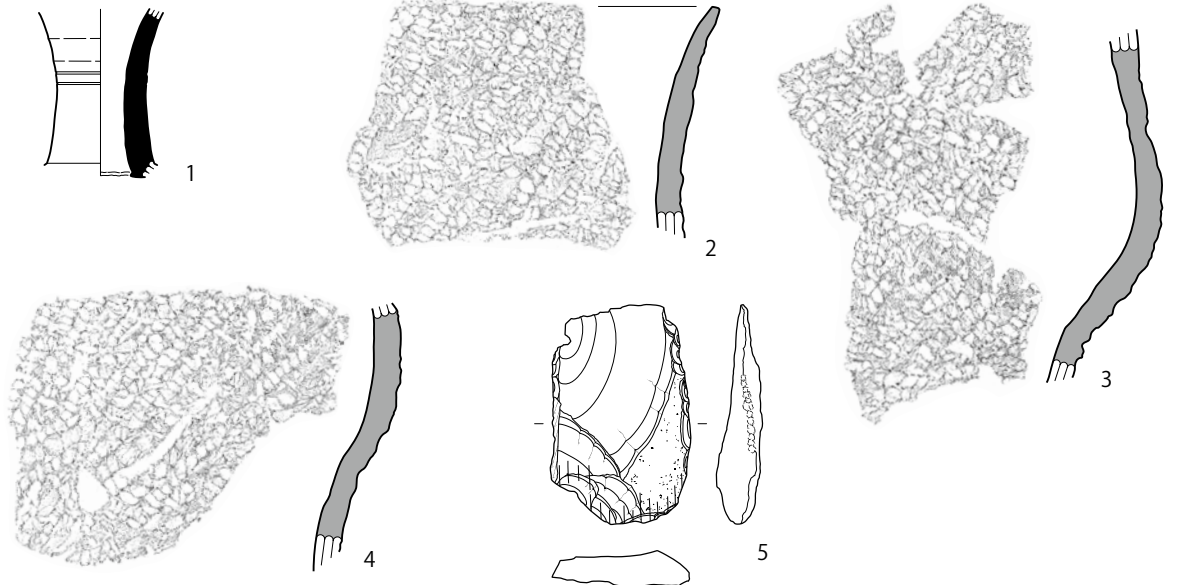
第 15 図 上中里 1-17-10 地点 調査区全体図



第16図 上中里 1-17-10 地点 SD01 平断面図

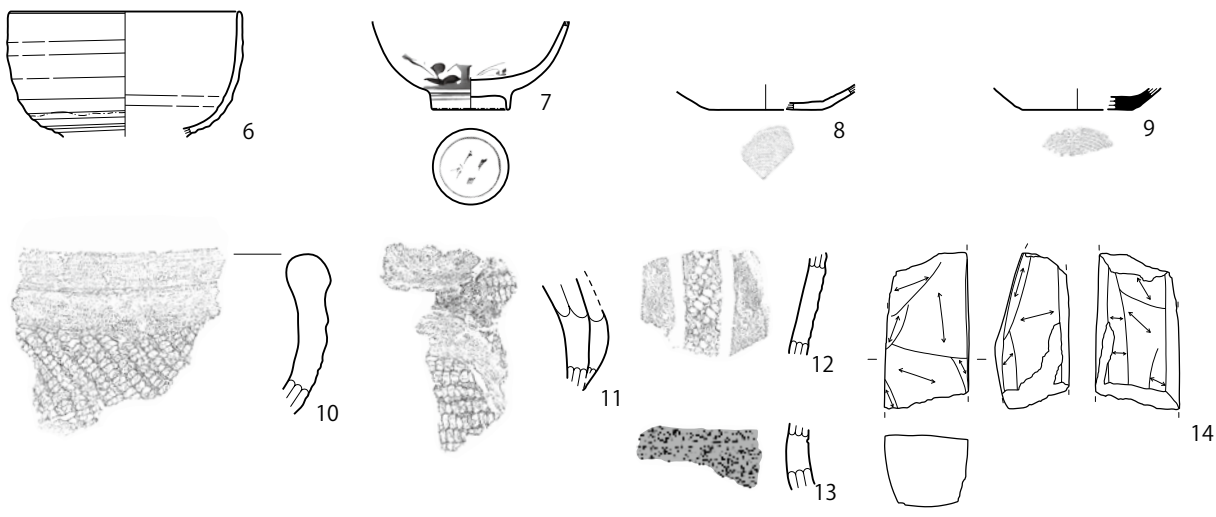


第17図 上中里 1-17-10 地点 SX01 平断面図



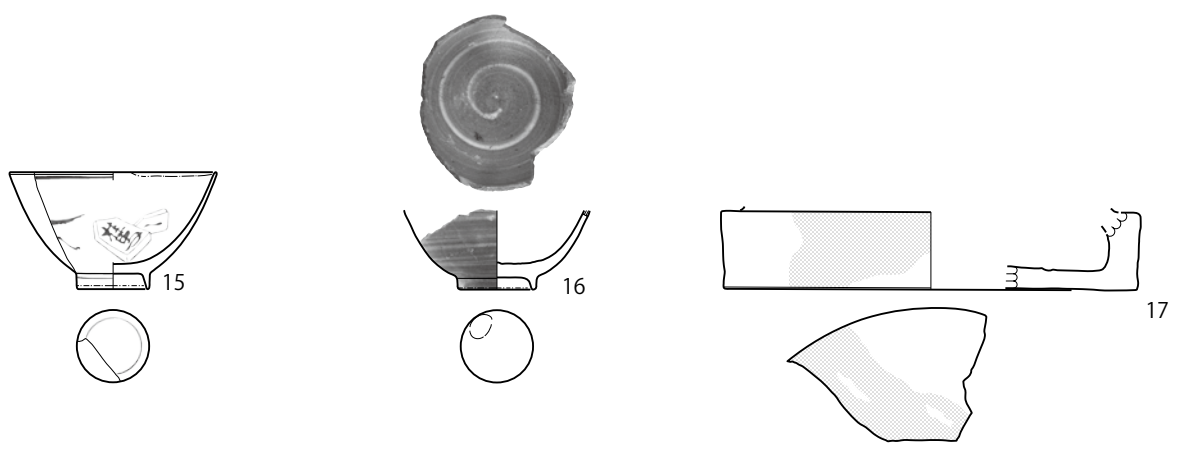
SD01

須恵器
 繊維
 0 S=1/4 10cm 0 S=1/3 10cm
 (1) (2~5)



SK01

須恵器
 赤彩
 0 S=1/4 10cm 0 S=1/3 10cm
 (6~9) (10~14)



遺構外

油煙
 0 S=1/4 10cm

第 18 図 上中里 1-17-10 地点 出土遺物実測図



調査区全景（北から）



調査区西壁（北から）



SD01 完掘（北から）

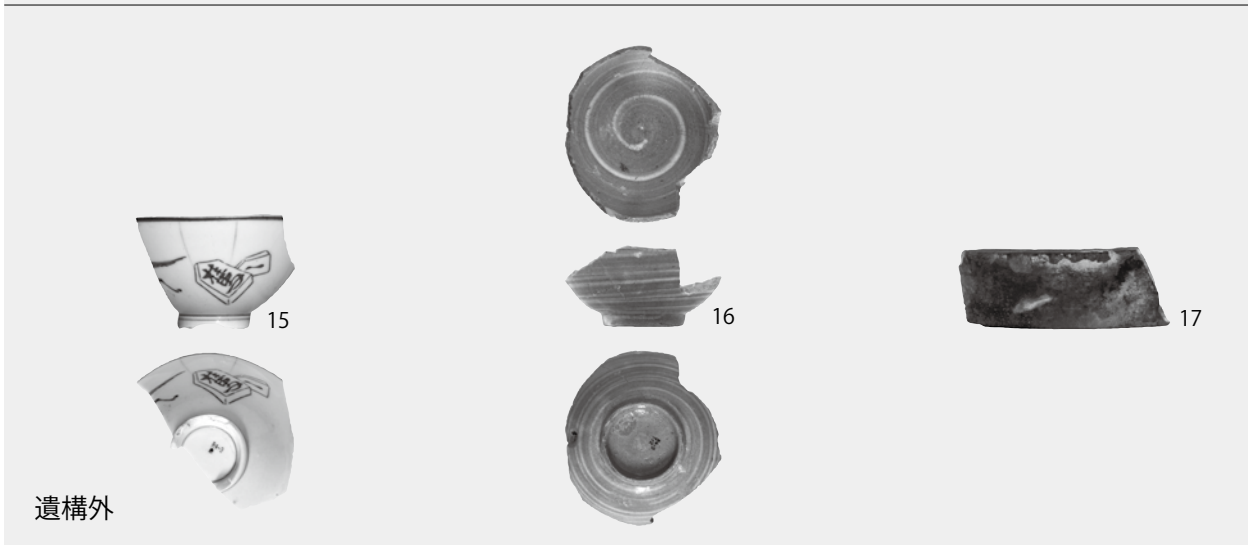
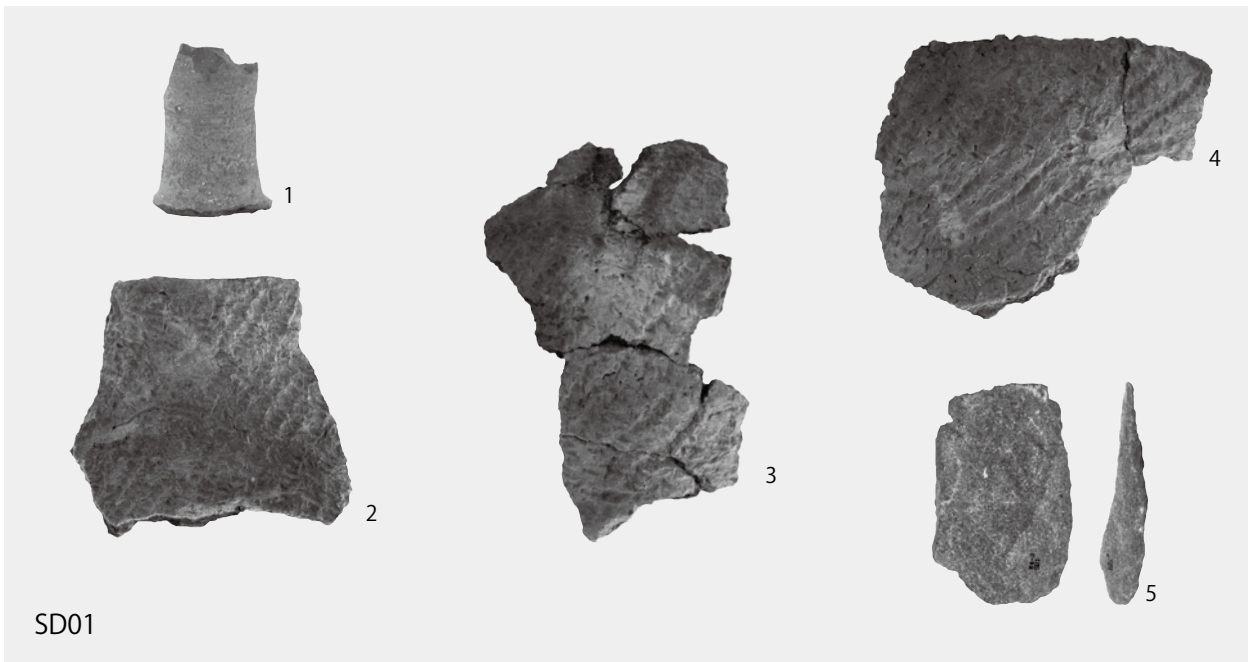


SK01 完掘（西から）

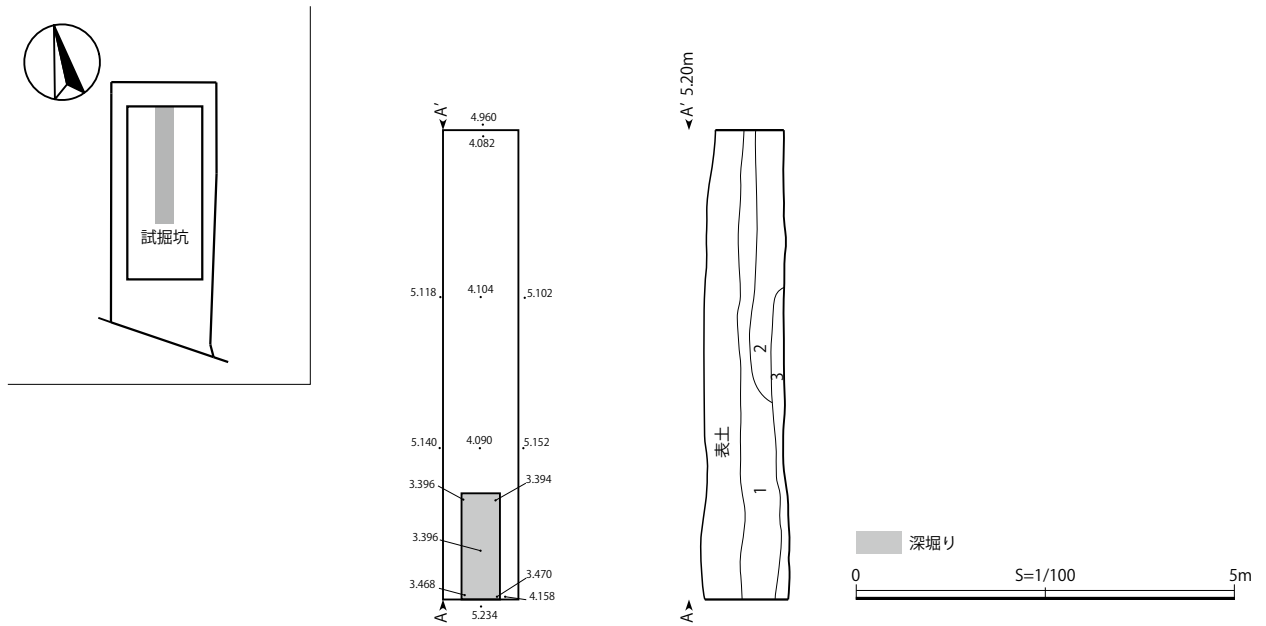


SX01 完掘（東から）

図版5 上中里 1-17-10 地点



図版6 上中里 1-17-10 地点 出土遺物



土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗褐色シルト質土 (10YR3/3)	やや強い	強い	貝片 (φ 1~10mm) を筋状に中量含む。
2 黒褐色シルト質土 (10YR3/2)	やや強い	強い	暗褐色土 (φ 10~30mm) を少量、鉄分を少量含む。
3 暗灰色シルト質土 (N3/0)	強い	強い	鉄分を多量含む。

第 19 図 上中里 2-11 調査平断面図



試掘坑全景 (南から)

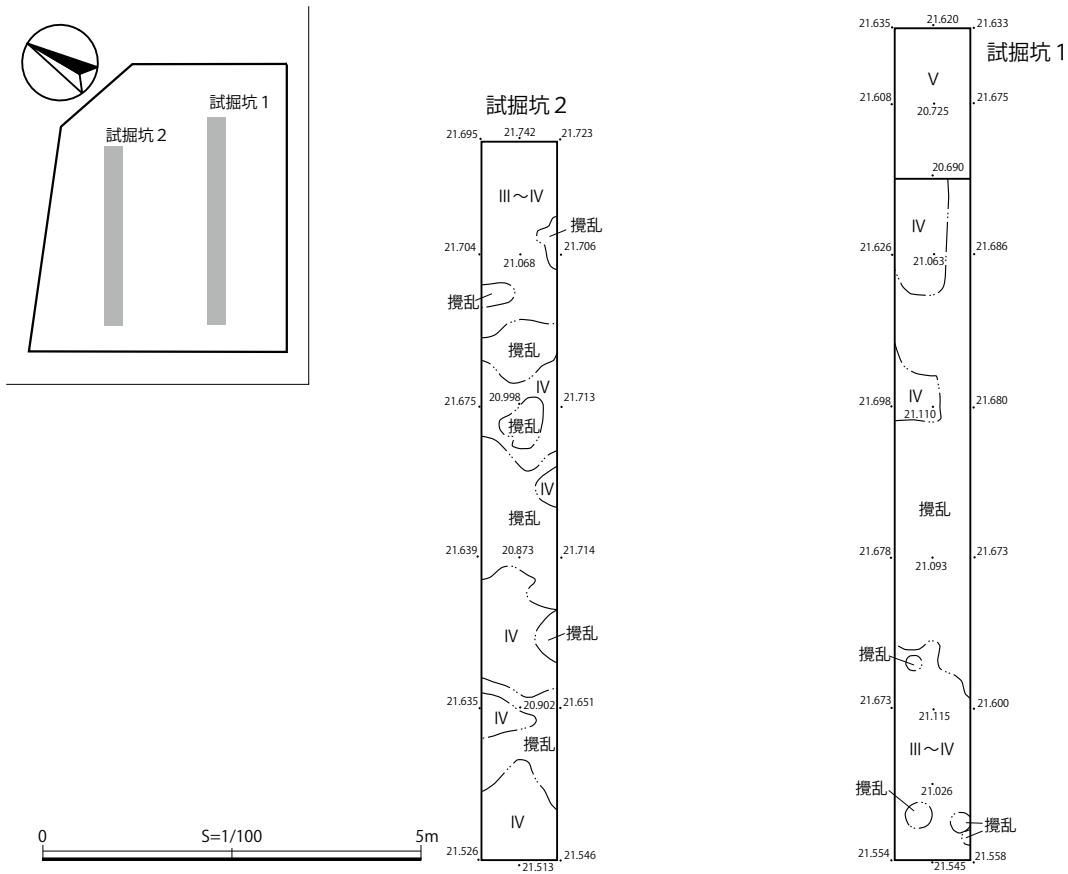


試掘坑深堀り① (北から)



試掘坑深堀り② (北から)

図版 7 上中里 2-11 地点



第 20 図 田端 5-14-8 調査平面図

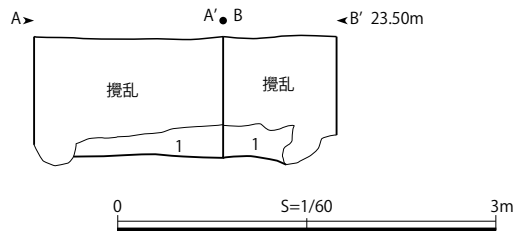
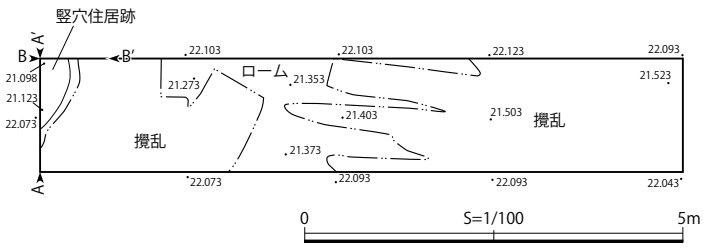
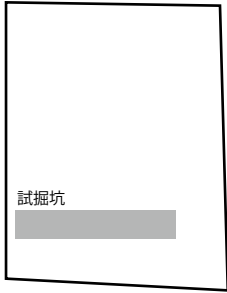


試掘坑 2 全景 (西から)



試掘坑 1 全景 (西から)

図版 8 田端 5-14-8 地点



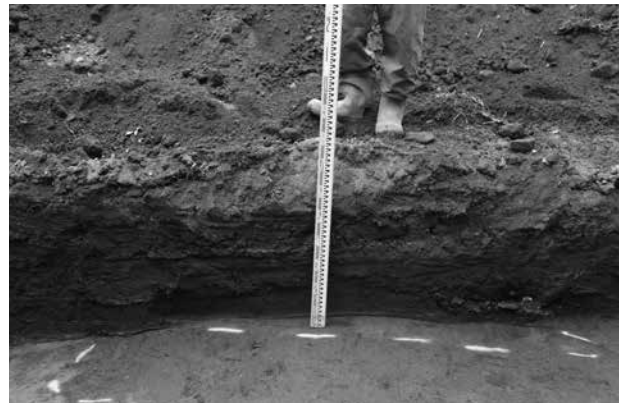
竪穴住居跡

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱い	強い	ローム (φ1~10mm) を中量、炭化物 (φ1~2mm)、焼土 (φ1~10mm)、白色粘土 (φ1~10mm) を微量含む。

第 21 図 上中里 1-25-9 調査平断面図



試掘坑全景 (東から)

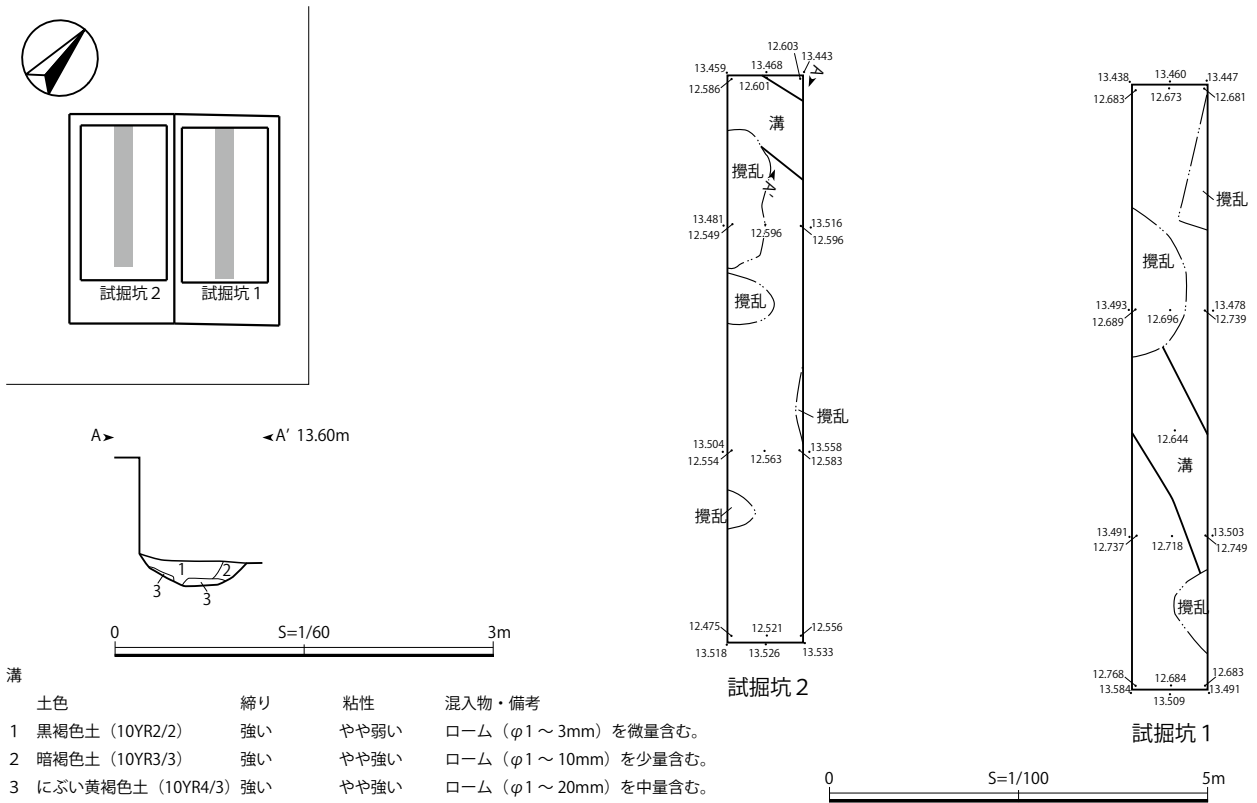


土層堆積状況 (南から)



竪穴住居跡 (南東から)

図版 9 上中里 1-25-9 地点



第 22 図 田端 4-10-11 調査平断面図



試掘坑 2 全景 (南東から)



試掘坑 1 全景 (南東から)

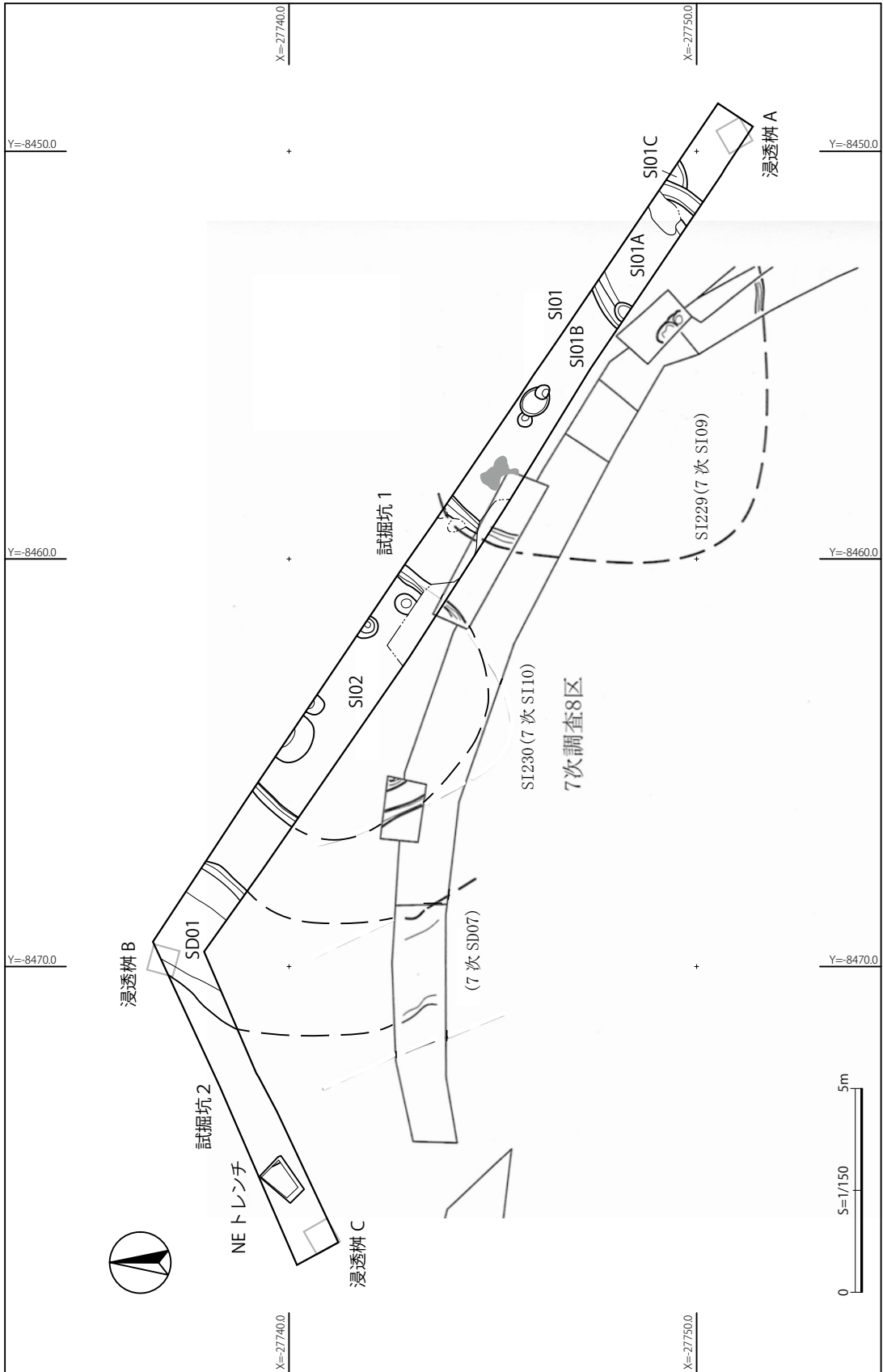


溝検出状況 (南西から)

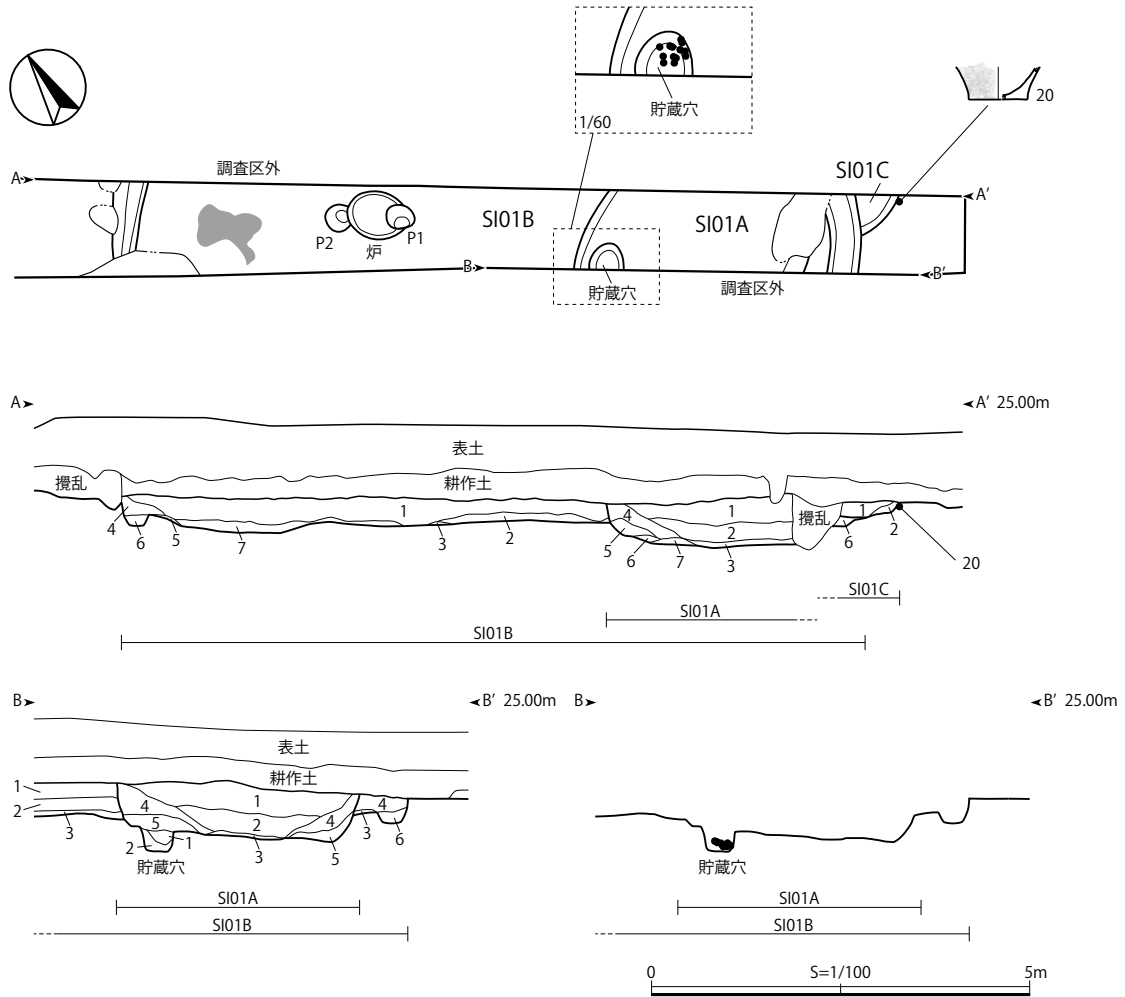


溝断面 (西から)

図版 10 田端 4-10-11 地点



第 23 図 西ヶ原 2-16 地点 調査平面図と 7 次調査



SI01A

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を微量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を中量含む。
4 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を少量含む。
5 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を中量含む。
6 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~5mm) を少量含む。
7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~20mm) を多量含む。

SI01B

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量、焼土 (φ1~5mm) を微量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量、焼土 (φ1~5mm) を少量含む。
3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を中量、焼土 (φ1~5mm) を中量含む。
4 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を少量含む。
5 褐色土 (10YR4/4)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を多量含む。
6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~5mm) を中量含む。周溝。
7 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~5mm) を微量含む。

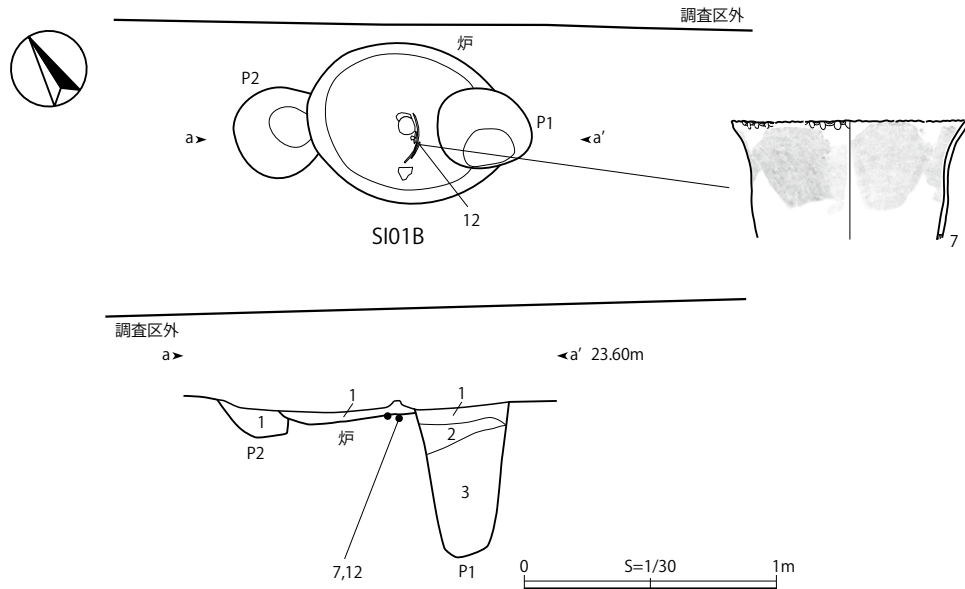
SI01C

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量含む。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を中量含む。

SI01A 貯蔵穴

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を中量含む。

第24図 西ヶ原2-16地点 SI01 平断面図・遺物出土図



SI01B 炉

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量、焼土 (φ1~5mm) を少量含む。

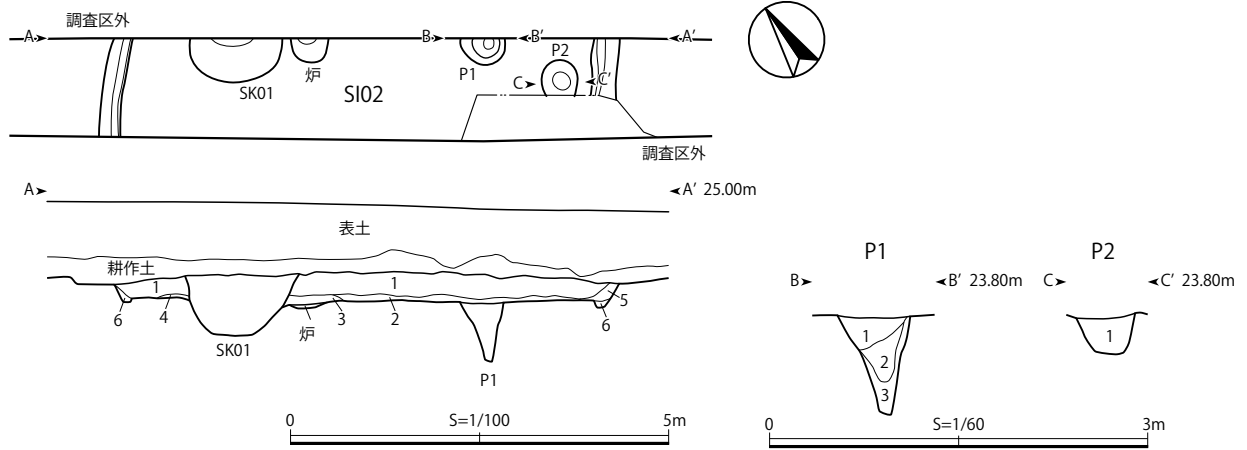
P1

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量、焼土 (φ1~5mm) を微量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム (φ5~10mm) を微量、焼土 (φ1~5mm) を微量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム (φ5~10mm) を少量、焼土 (φ1~10mm) を少量含む。

P2

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量含む。

第25図 西ヶ原 2-16 地点 SI01B 炉、ピット平面図・遺物出土図



SI02

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1mm) を少量、焼土 (φ1mm) を少量、炭化物 (φ1mm) を微量含む。
2 黒褐色土 (10YR2/2)	強い	やや弱い	ローム (φ1~2mm) を微量、焼土 (φ1mm) を微量、炭化物 (φ1mm) を微量含む。
3 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1mm) を微量、焼土 (φ1mm) を少量、炭化物 (φ1~2mm) を微量含む。
4 暗褐色土 (10YR3/3)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1mm) を微量、焼土 (φ1~2mm) を多量含む。
5 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~5mm) を中量、焼土 (φ1mm) を微量含む。
6 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム (φ1~5mm) を多量含む。

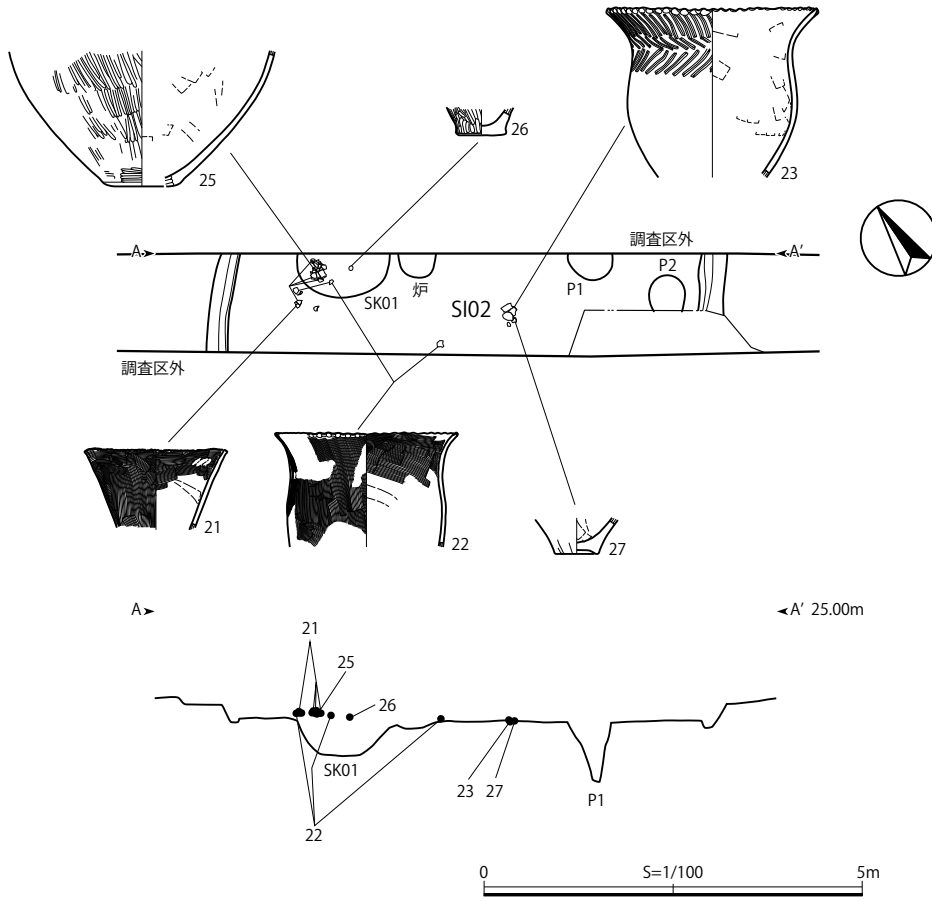
P1

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/2)	やや弱い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量含む。
2 黒褐色土 (10YR2/3)	やや弱い	やや弱い	ローム (φ1~5mm) を少量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を多量含む。

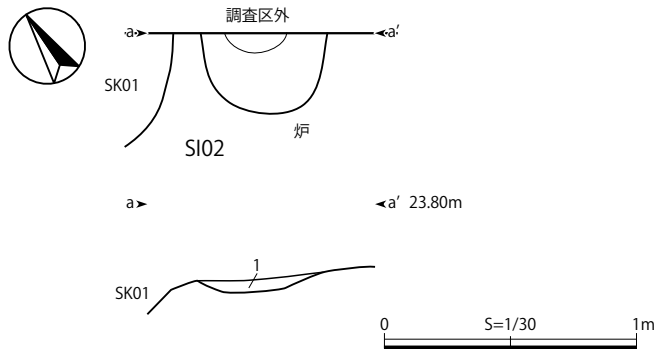
P2

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を少量含む。

第26図 西ヶ原 2-16 地点 SI02 平断面図



第 27 図 西ヶ原 2-16 地点 SI02 遺物出土図



SI02 炉

土色

1 黒褐色土 (10YR2/3)

締り

やや強い

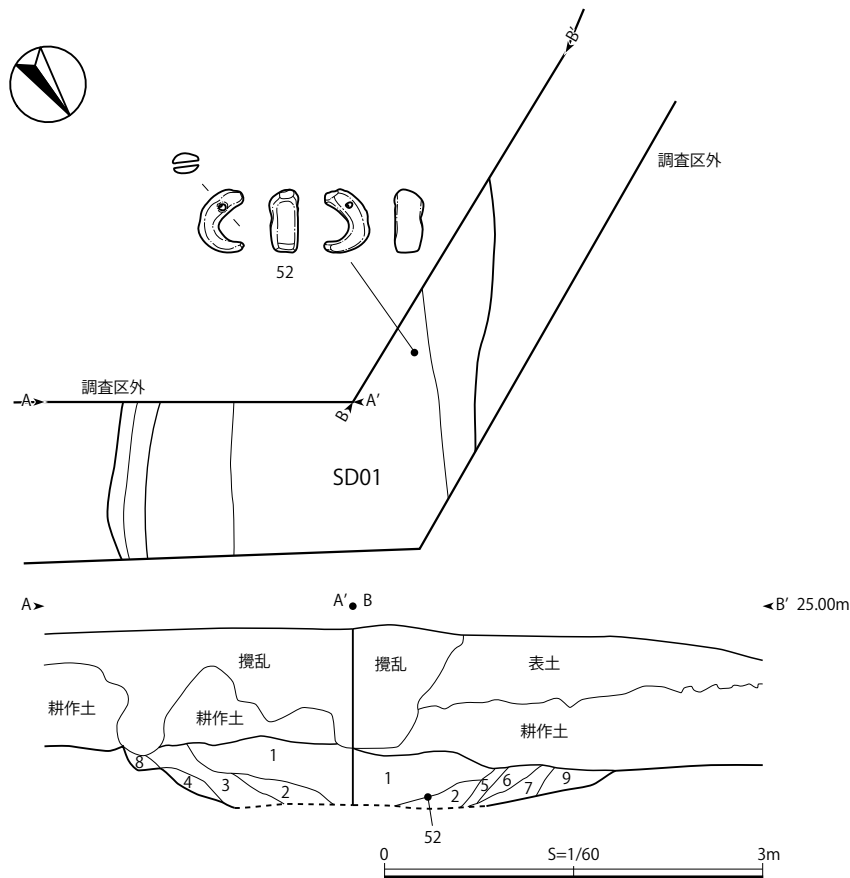
粘性

やや強い

混入物・備考

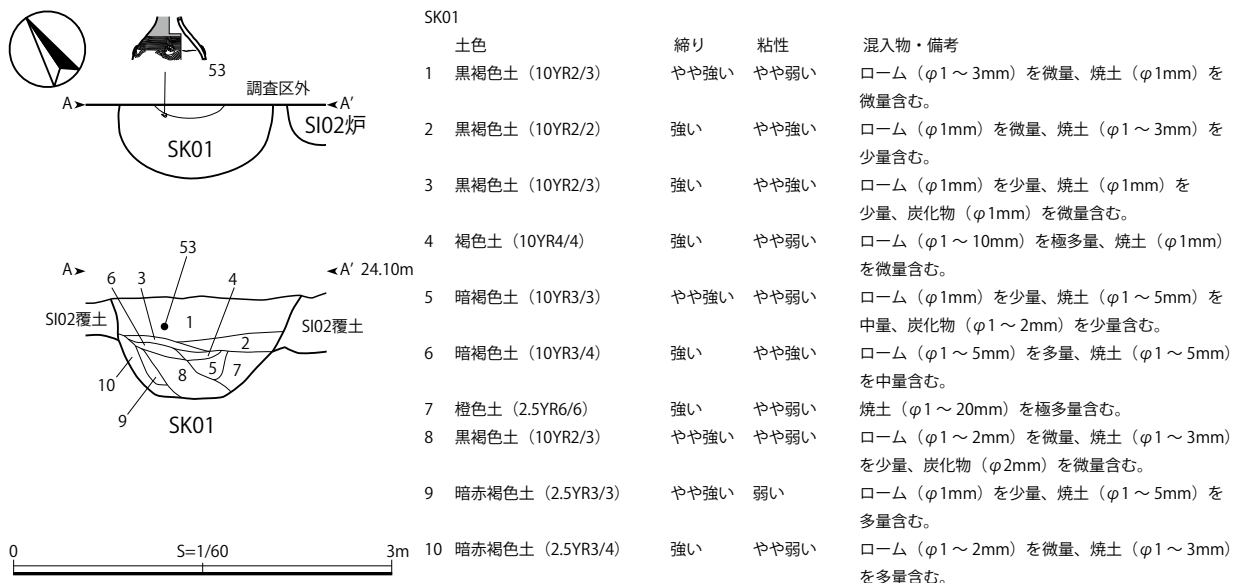
口一ム ($\phi 1\text{mm}$) を微量、焼土 ($\phi 1\sim 5\text{mm}$) を中量含む。

第 28 図 西ヶ原 2-16 地点 SI02 炉平断面図



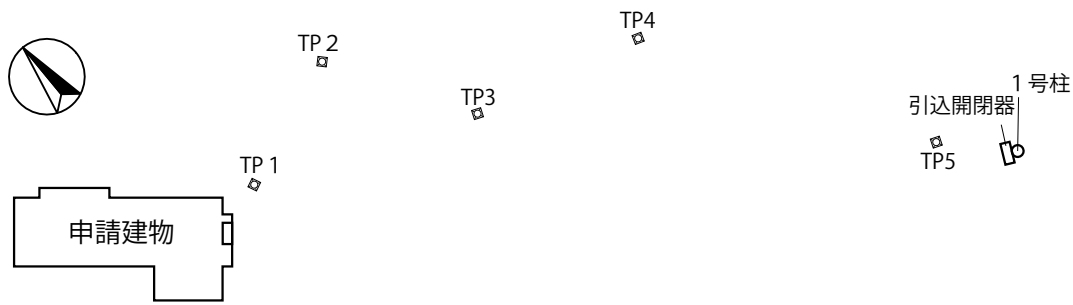
土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量含む。
2 黒褐色土 (10YR3/2)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量含む。
4 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を中量含む。
5 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を少量含む。
6 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を中量含む。
7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を多量含む。
8 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を多量含む。
9 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を中量含む。

第29図 西ヶ原 2-16 地点 SD01 平断面図・遺物出土図

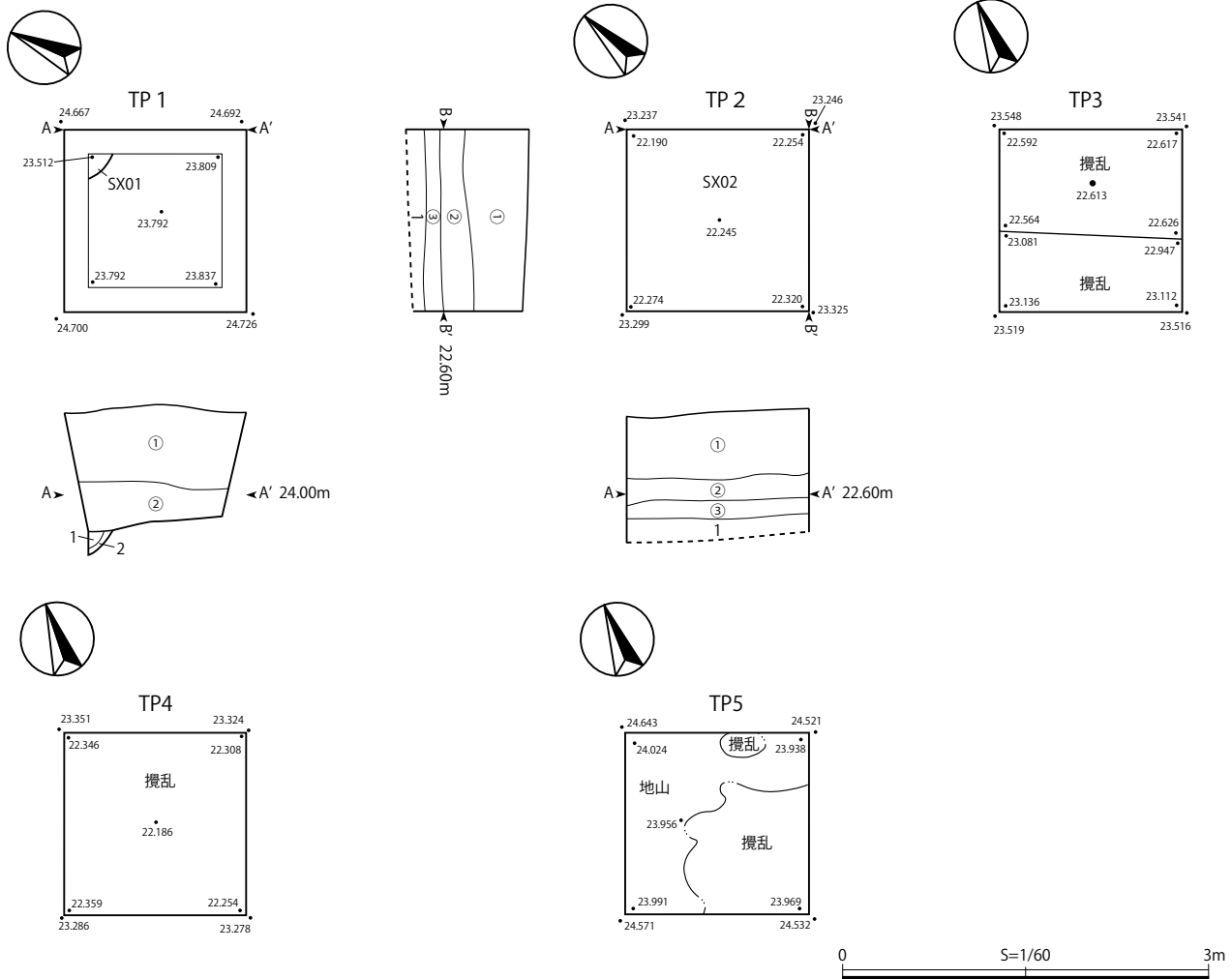


土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1~3mm) を微量、焼土 (φ1mm) を微量含む。
2 黒褐色土 (10YR2/2)	強い	やや強い	ローム (φ1mm) を微量、焼土 (φ1~3mm) を少量含む。
3 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや強い	ローム (φ1mm) を少量、焼土 (φ1mm) を少量、炭化物 (φ1mm) を微量含む。
4 褐色土 (10YR4/4)	強い	やや弱い	ローム (φ1~10mm) を極多量、焼土 (φ1mm) を微量含む。
5 暗褐色土 (10YR3/3)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1mm) を少量、焼土 (φ1~5mm) を中量、炭化物 (φ1~2mm) を少量含む。
6 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや強い	ローム (φ1~5mm) を多量、焼土 (φ1~5mm) を中量含む。
7 橙色土 (2.5YR6/6)	強い	やや弱い	焼土 (φ1~20mm) を極多量含む。
8 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	やや弱い	ローム (φ1~2mm) を微量、焼土 (φ1~3mm) を少量、炭化物 (φ2mm) を微量含む。
9 暗赤褐色土 (2.5YR3/3)	やや強い	弱い	ローム (φ1mm) を少量、焼土 (φ1~5mm) を多量含む。
10 暗赤褐色土 (2.5YR3/4)	強い	やや弱い	ローム (φ1~2mm) を微量、焼土 (φ1~3mm) を多量含む。

第30図 西ヶ原 2-16 地点 SK01 平断面図・遺物出土図



ハンドホール埋設位置図



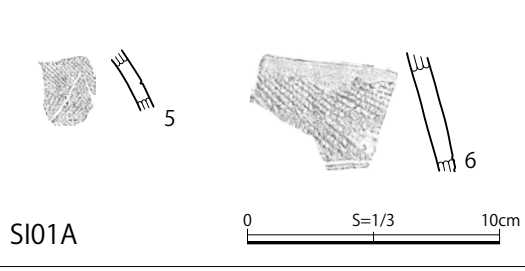
TP1

土色	締り	粘性	混入物・備考
① 褐色 (10YR4/6)	強い	弱い	ローム ($\phi 10\sim 50\text{mm}$) を極多量含む。
② 暗褐色 (10YR3/4)	強い	弱い	ローム ($\phi 1\sim 5\text{mm}$) を少量含む。耕作土。
1 黒褐色 (10YR2/3)	やや強い	やや弱い	ローム ($\phi 1\sim 3\text{mm}$) を微量含む。
2 暗褐色 (10YR3/4)	やや弱い	やや強い	ローム ($\phi 1\sim 3\text{mm}$) を中量含む。

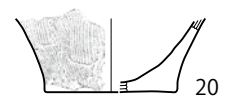
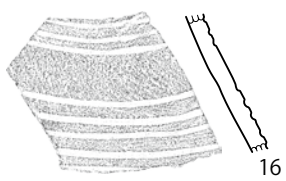
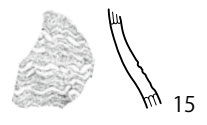
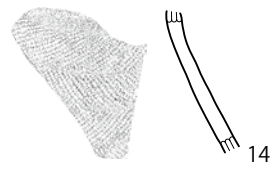
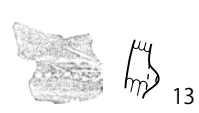
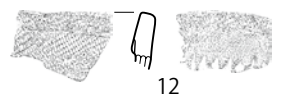
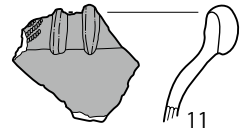
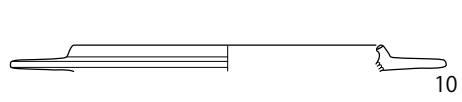
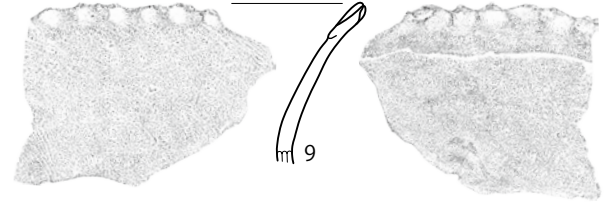
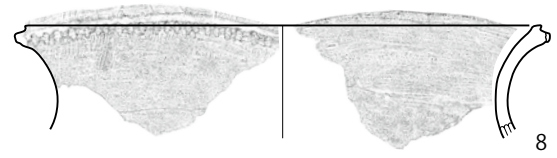
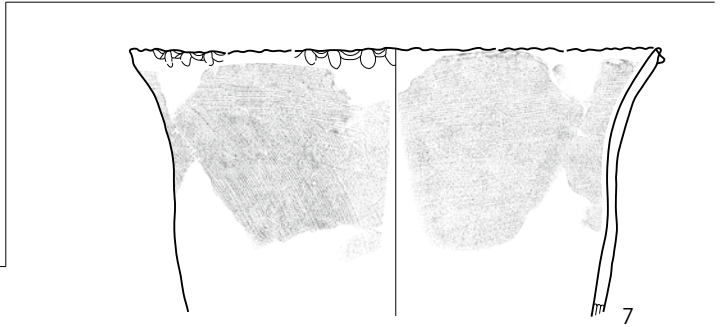
TP2

土色	締り	粘性	混入物・備考
①			礫、コンクリート。
② 褐色 (10YR4/6)	強い	弱い	ローム ($\phi 10\sim 50\text{mm}$) を極多量含む。
③ 暗褐色 (10YR3/4)	強い	弱い	ローム ($\phi 1\sim 5\text{mm}$) を少量含む。耕作土。
1 黒褐色 (10YR2/3)	やや弱い	やや強い	ローム ($\phi 1\sim 3\text{mm}$) を微量含む。

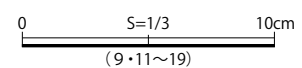
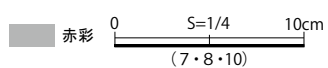
第 31 図 西ヶ原 2-16 地点 TP 平断面図



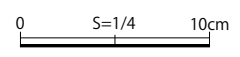
SI01A



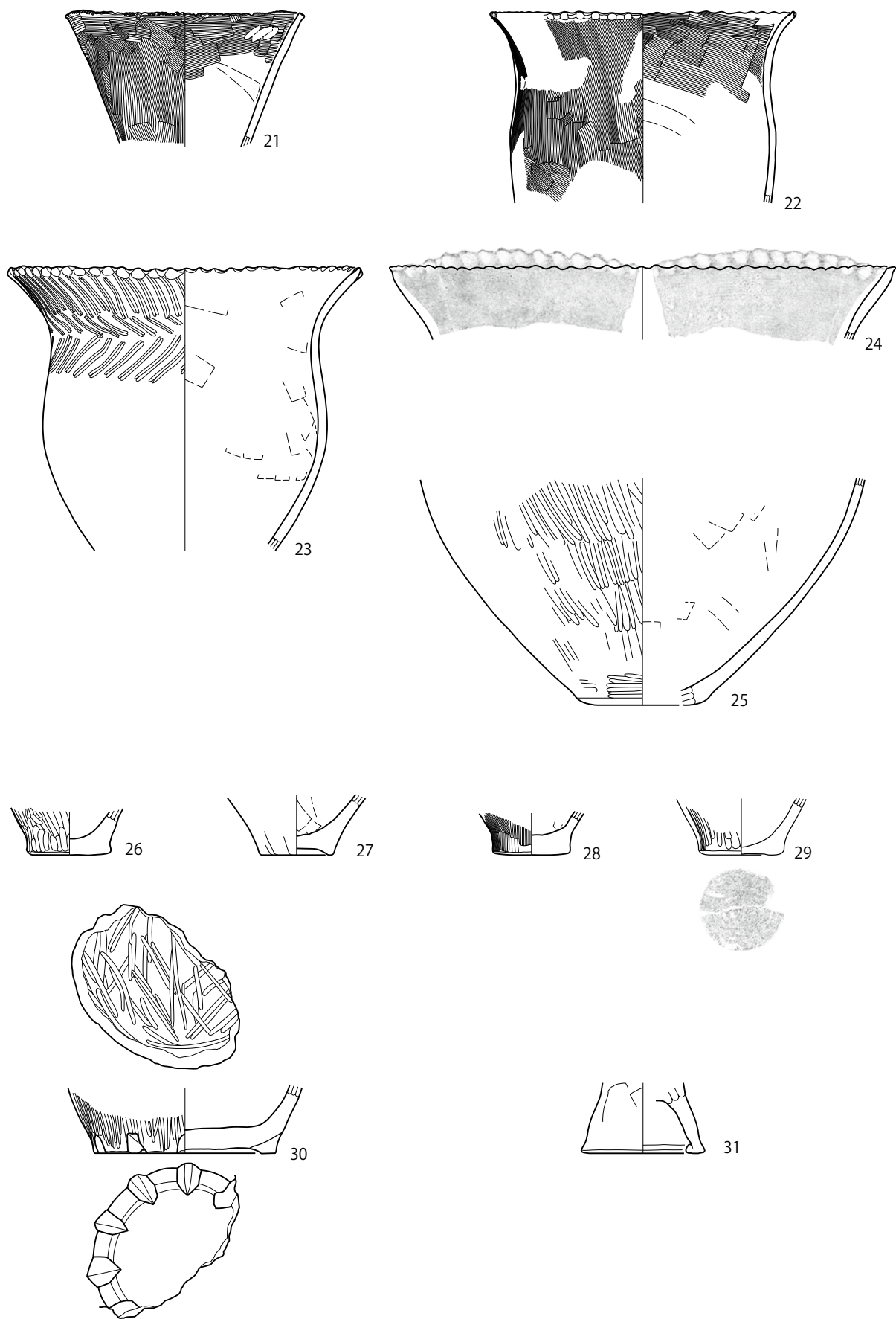
SI01B



SI01C



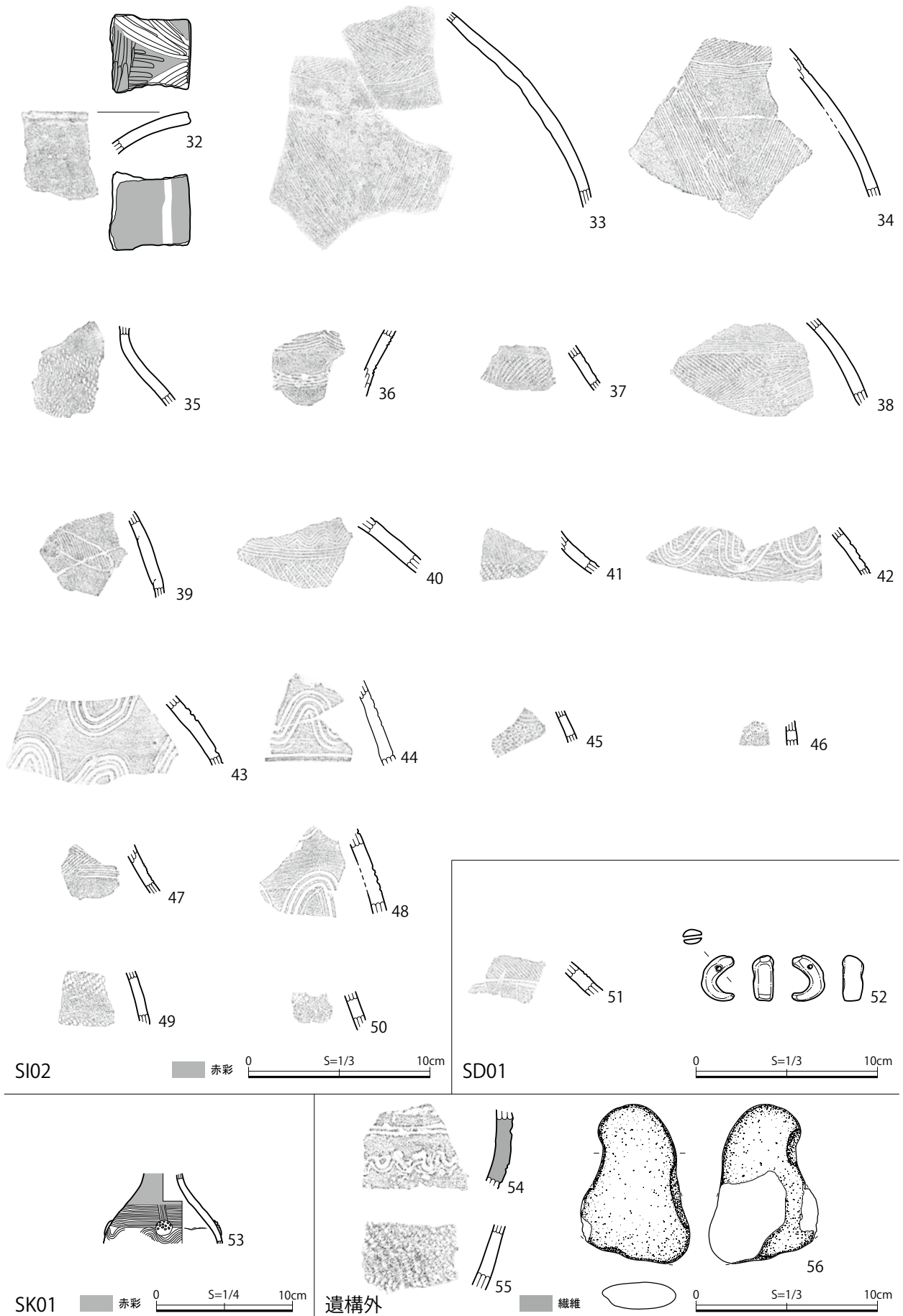
第32図 西ヶ原2-16地点 出土遺物実測図(1)



SI02

赤彩 0 S=1/4 10cm

第33図 西ヶ原2-16地点 出土遺物実測図(2)



第34図 西ヶ原2-16地点 出土遺物実測図(3)



試掘坑1 全景 (東から)



試掘坑2 全景 (南から)



SI01A・SI01B・SI01C 完掘 (東から)



SI01A・SI01B 土層堆積状況 (北から)



SI01B 炉完掘 (西から)

図版 11 西ヶ原 2-16 地点 (1)



SI02・SK01 完掘（西から）



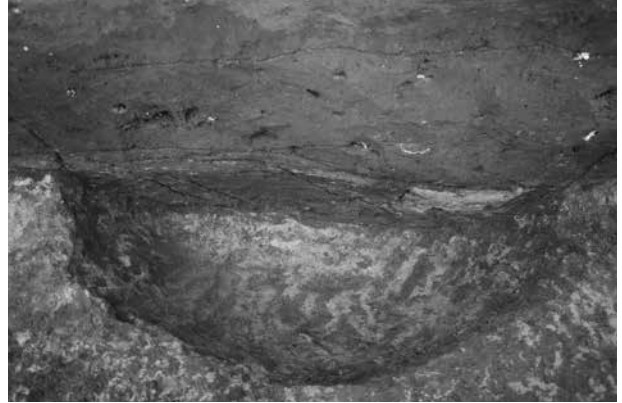
SI02 遺物出土状況 1（西から）



SI02 遺物出土状況 2（西から）



SD01 完掘（北から）



SK01 完掘（南から）



TP1 全景（南から）



TP1 土層堆積状況（西から）



TP2 全景 (南から)



TP2 土層堆積状況 (南から)



TP3 全景 (南から)



TP3 土層堆積状況 (西から)



TP4 全景 (南から)



TP4 土層堆積状況 (南から)

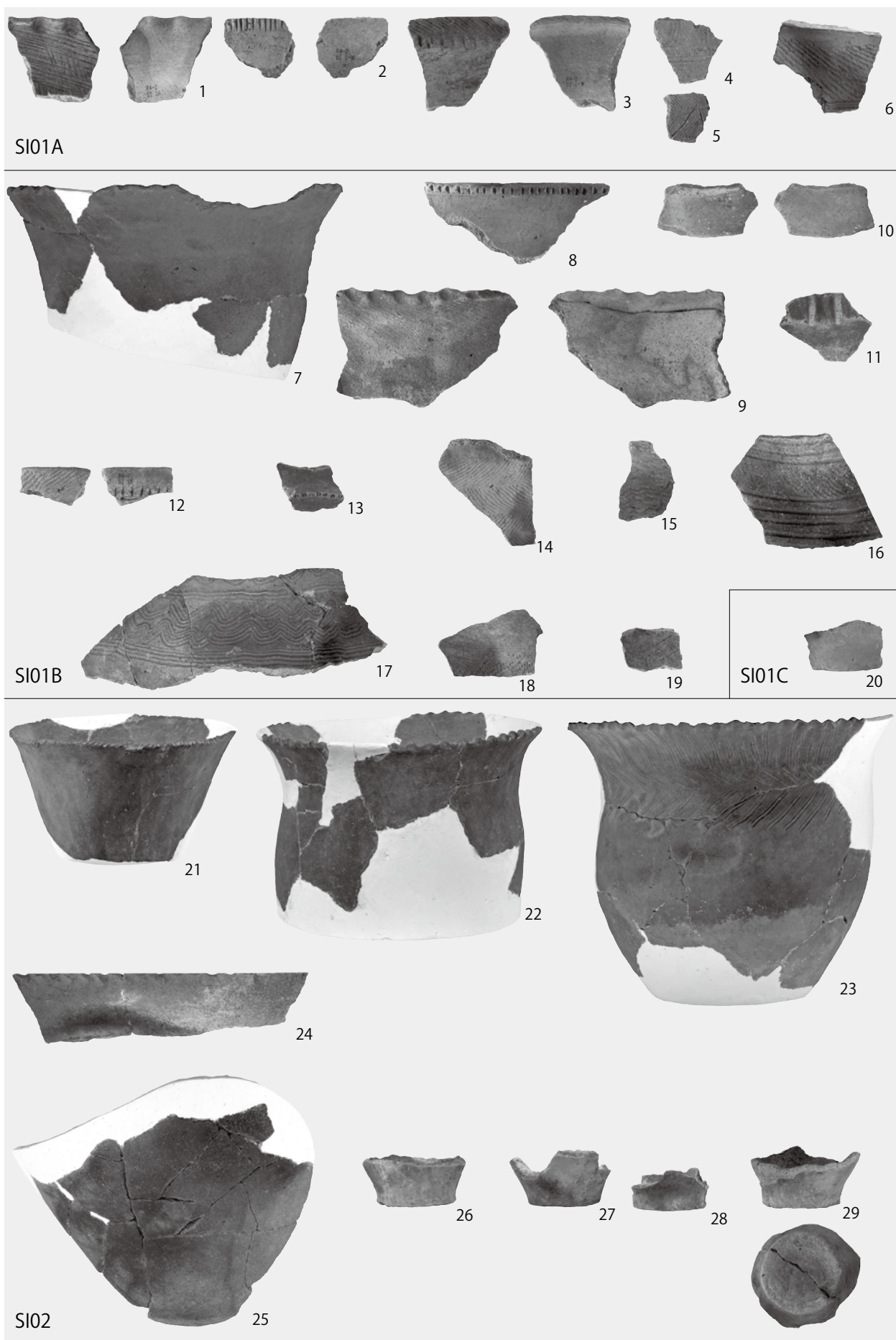


TP5 全景 (東から)

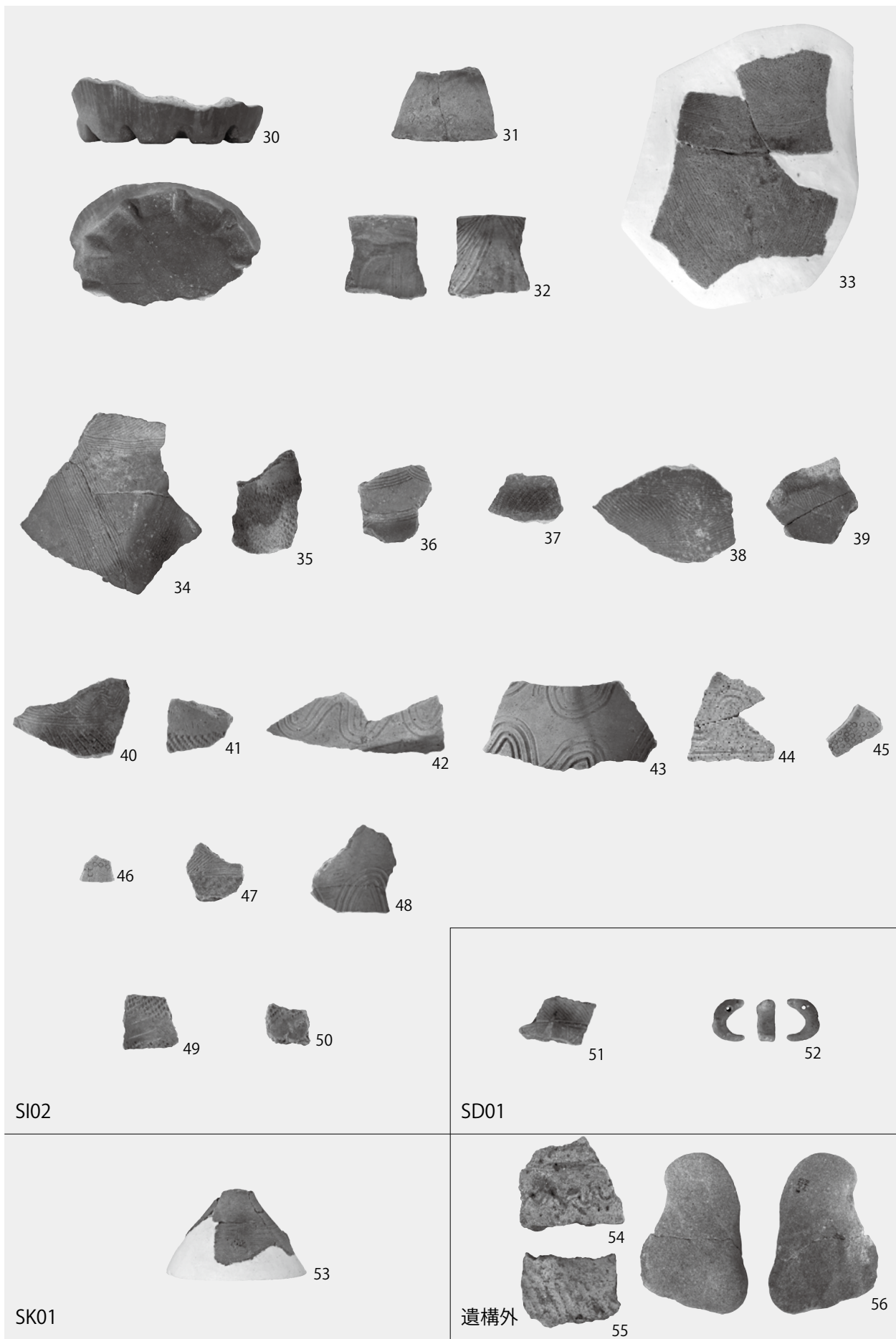


TP5 土層堆積状況 (南から)

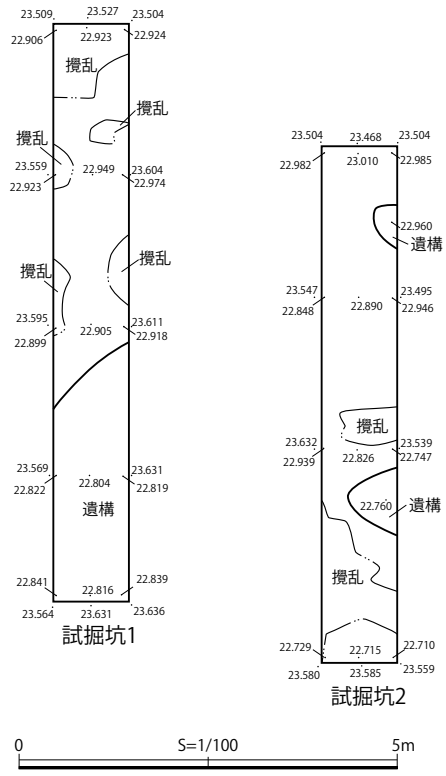
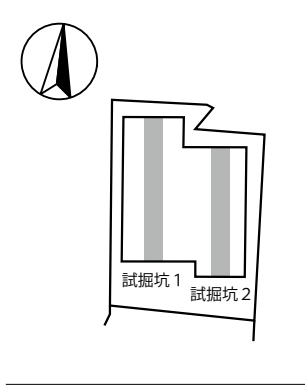
図版 13 西ヶ原 2-16 地点 (3)



図版 14 西ヶ原 2-16 地点 出土遺物 (1)



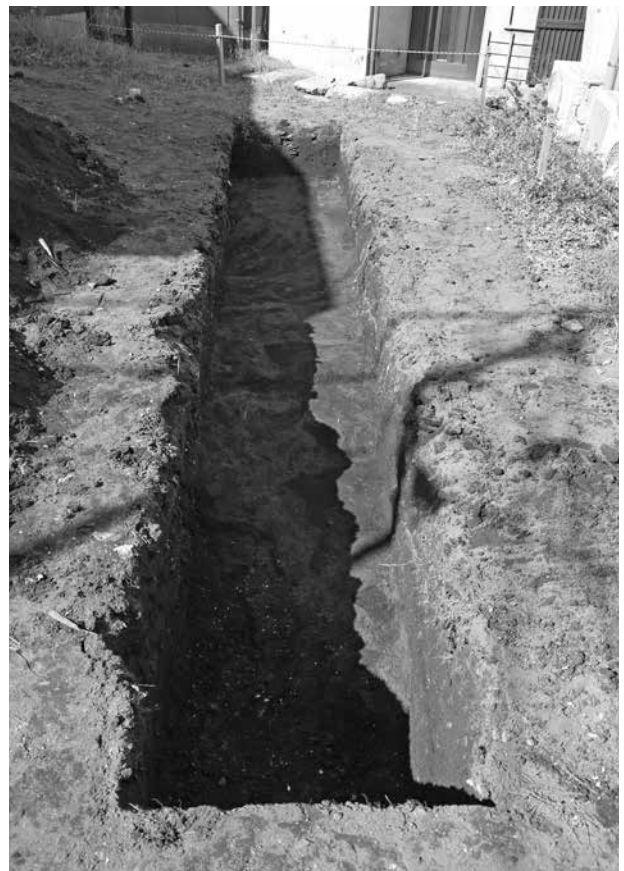
図版 15 西ヶ原 2-16 地点 出土遺物 (2)



第 35 図 西ヶ原 1-29-1 調査平面図

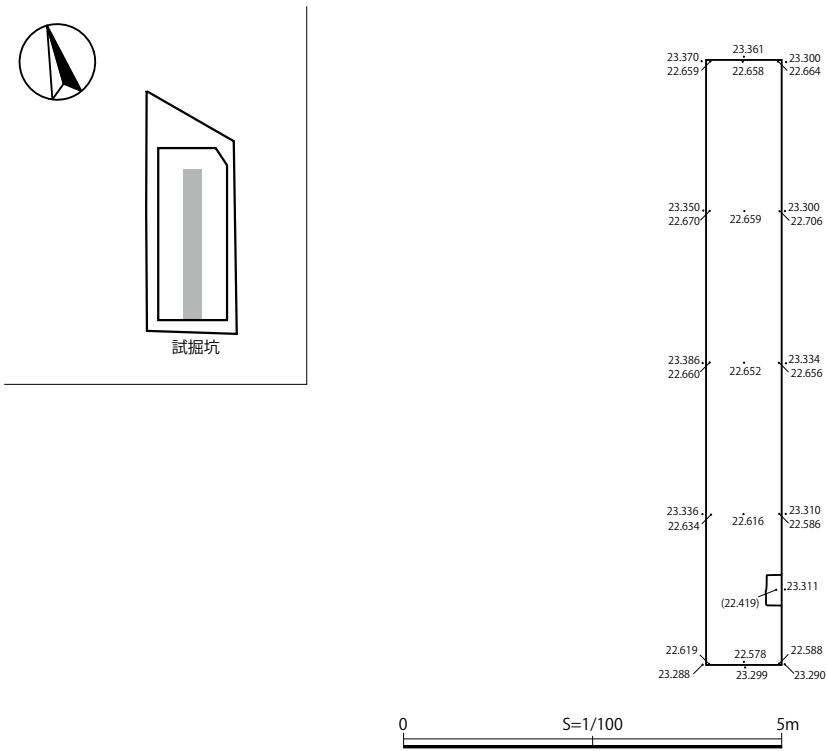


試掘坑 1 全景 (南から)



試掘坑 2 全景 (南から)

図版 16 西ヶ原 1-29-1 地点



第 36 図 中里 3-17 調査平面図



試掘坑全景 (南から)

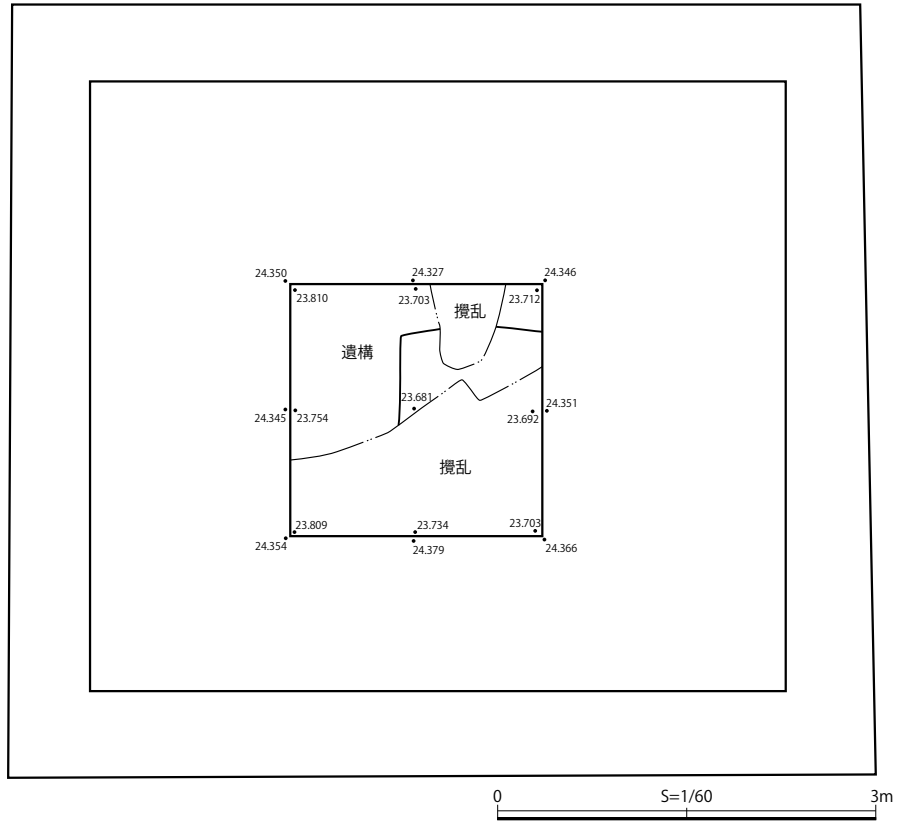


試掘坑深堀り① (北から)

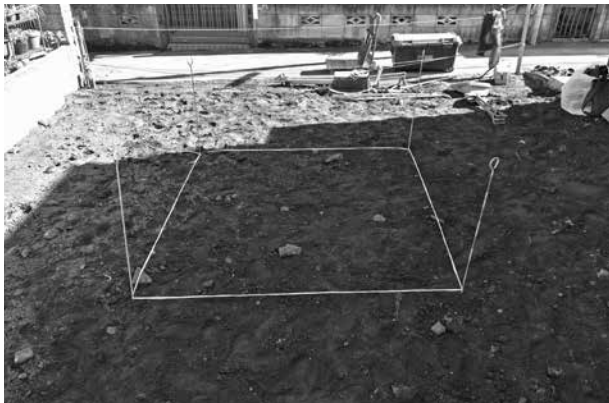


試掘坑深堀り② (北から)

図版 17 中里 3-17 地点



第 37 図 滝野川 5-24 調査平面図



試掘坑設定状況（西から）



試掘坑全景（西から）

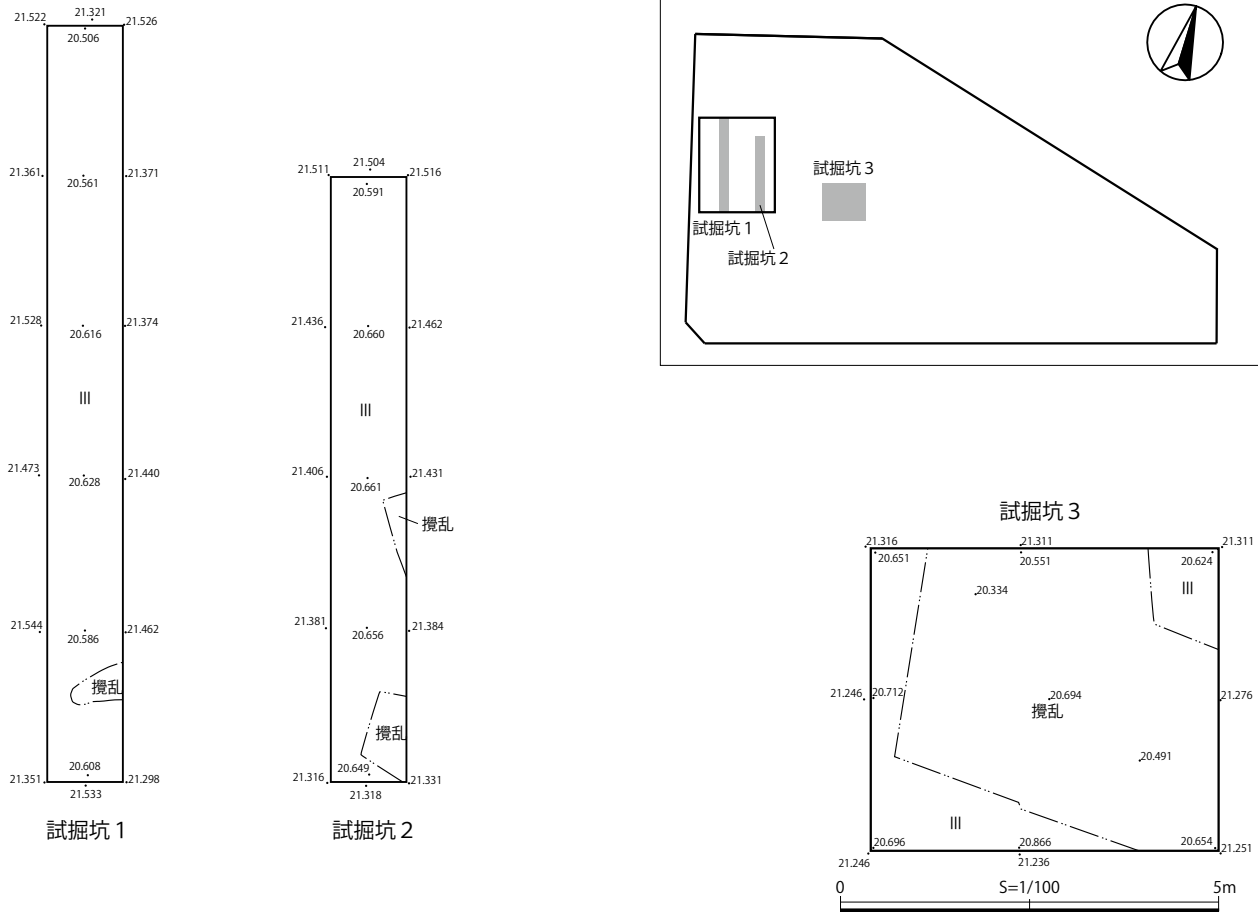


土層堆積状況（南から）



遺構検出状況（南東から）

図版 18 滝野川 5-24 地点



第 38 図 赤羽北 3-21 調査平面図



試掘坑 1 全景 (南から)



試掘坑 2 全景 (南から)

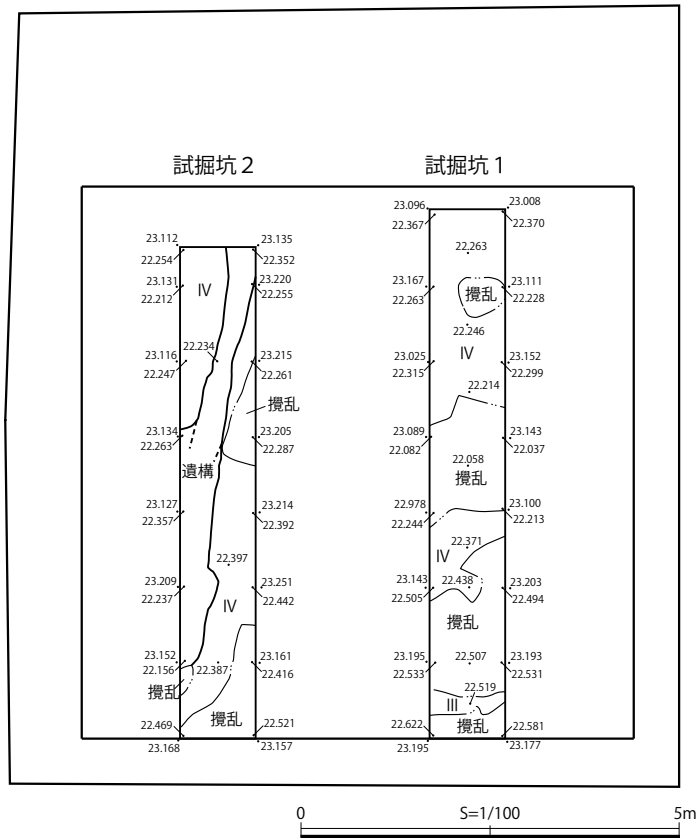


試掘坑 3 全景 (東から)



敷地全景 (南西から)

図版 19 赤羽北 3-21 地点



第 39 図 上中里 1-17-10 調査平面図

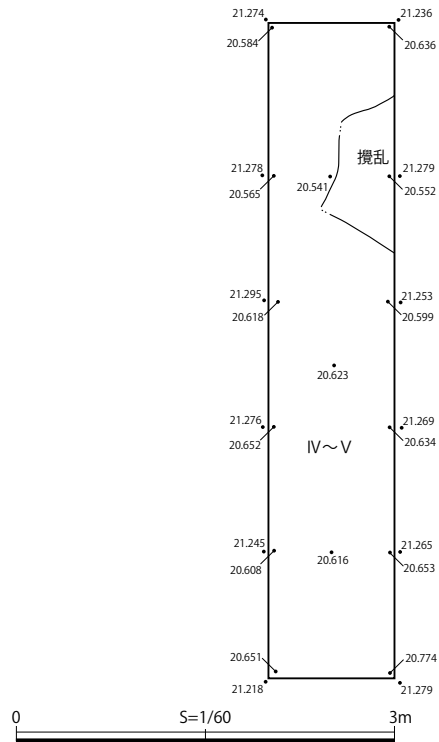
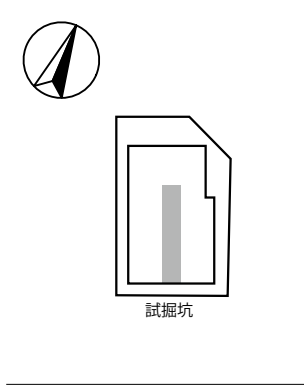


試掘坑 2 全景 (北から)



試掘坑 1 全景 (北から)

図版 20 上中里 1-17-10 地点



第 40 図 赤羽北 3-20-13 調査平面図



試掘坑全景 (南から)

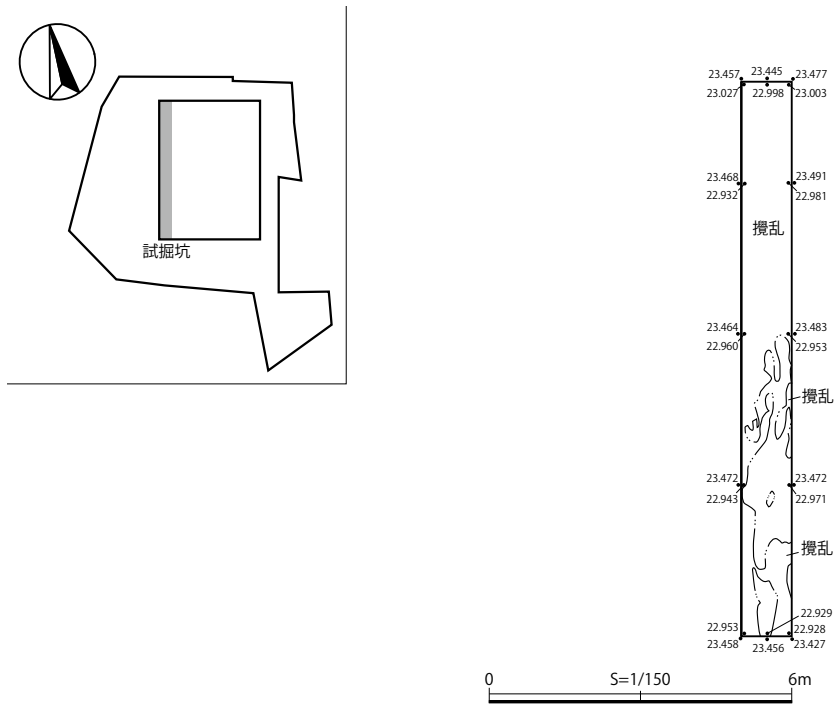


試掘坑土層堆積状況 1 (西から)



試掘坑土層堆積状況 2 (西から)

図版 21 赤羽北 3-20-13 地点



第 41 図 十条仲原 4-8-23 調査平面図

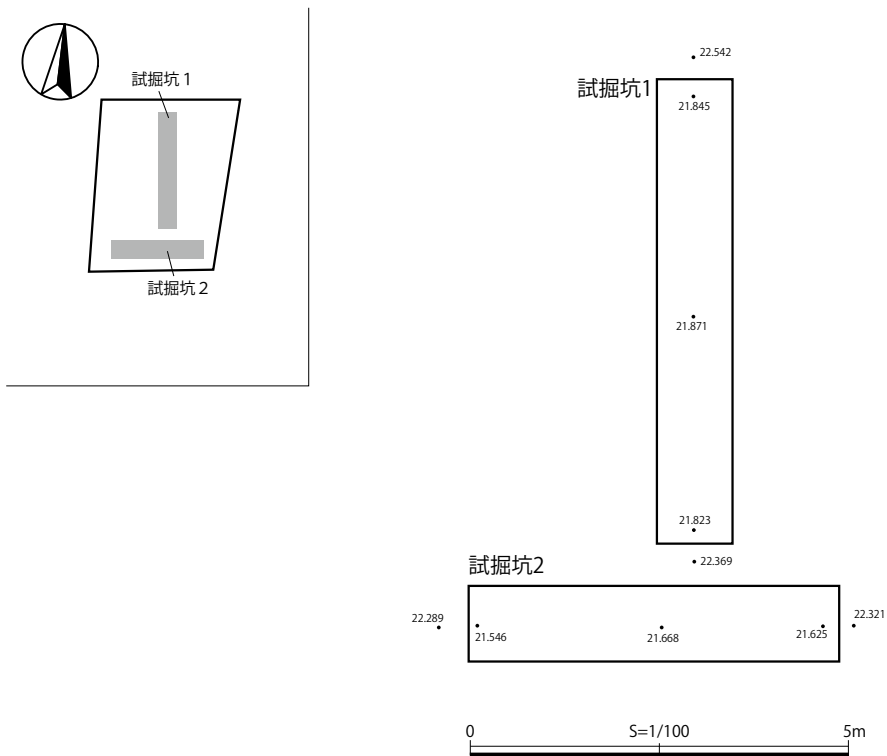


試掘坑全景（南から）



試掘坑全景（北から）

図版 22 十条仲原 4-8-23 地点



第 42 図 田端 1-19 調査平面図

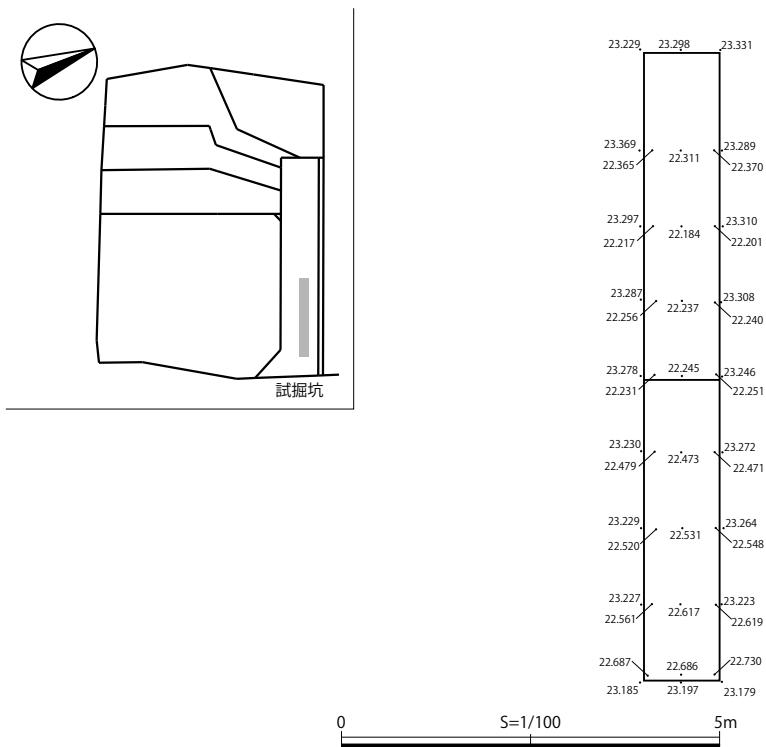


試掘坑 1 全景 (南から)



試掘坑 2 全景 (西から)

図版 23 田端 1-19 地点



第 43 図 西ヶ原 2-32-12 調査平面図



試掘坑全景 (南東から)

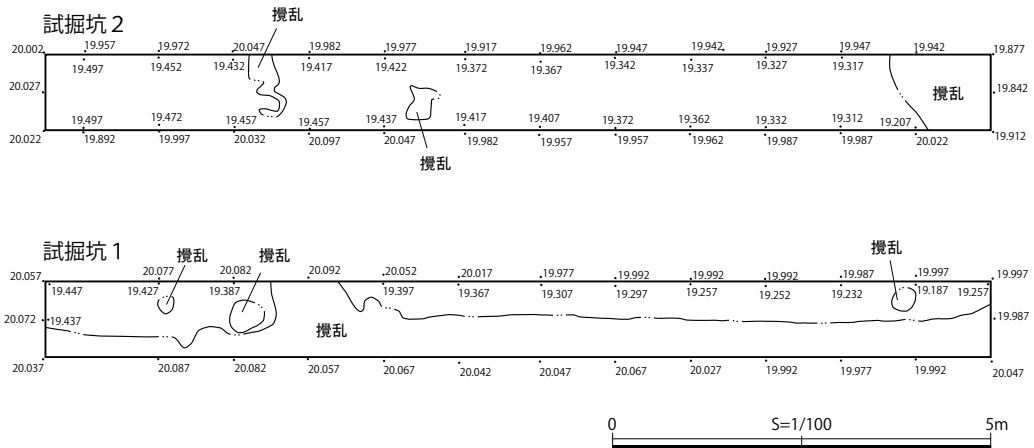
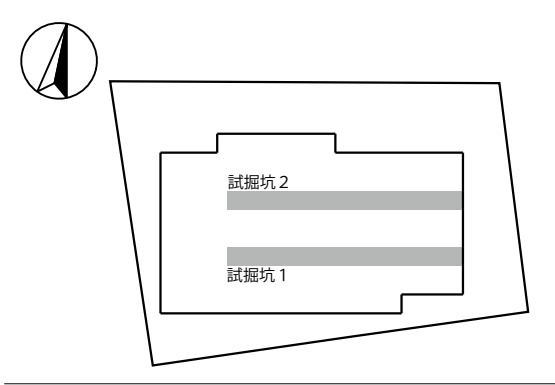


試掘坑土層堆積状況 1 (南から)



試掘坑土層堆積状況 2 (南から)

図版 24 西ヶ原 2-32-12 地点



第 44 図 桐ヶ丘 1-20 調査平面図

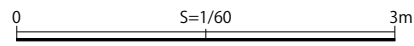
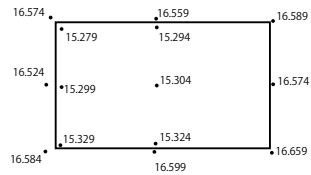
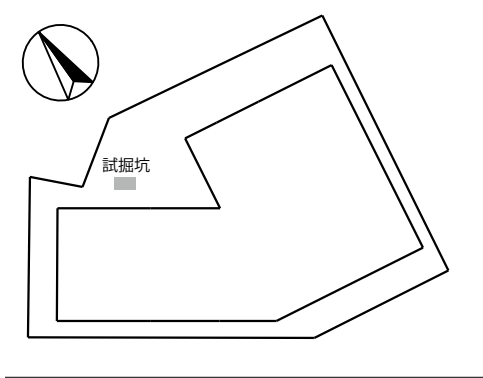


試掘坑 1 全景 (西から)



試掘坑 2 全景 (西から)

図版 25 桐ヶ丘 1-20 地点



第 45 図 王子本町 1-22-4 調査平面図



試掘坑全景（東から）

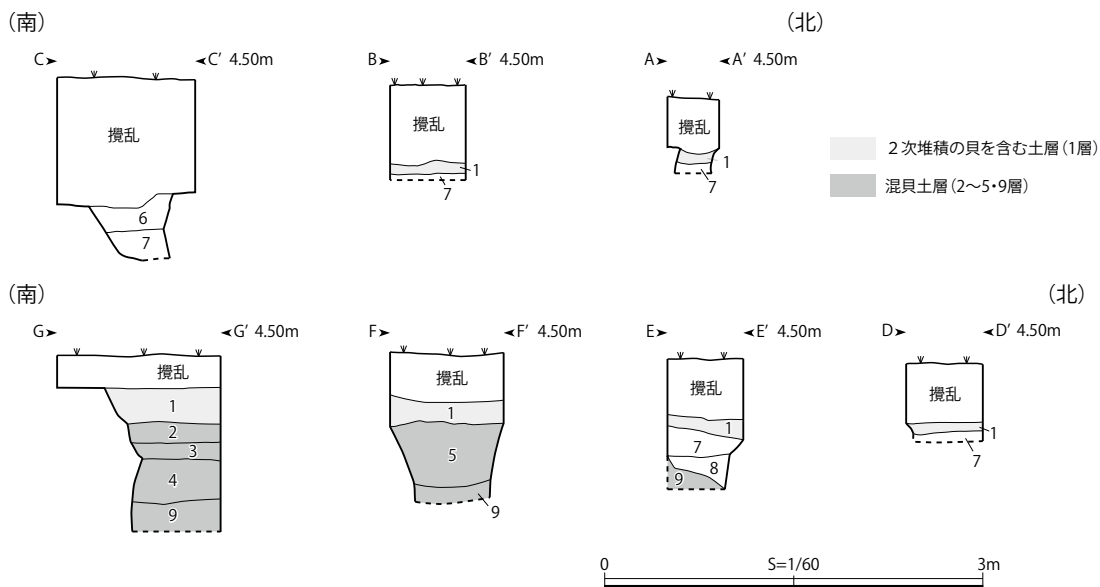
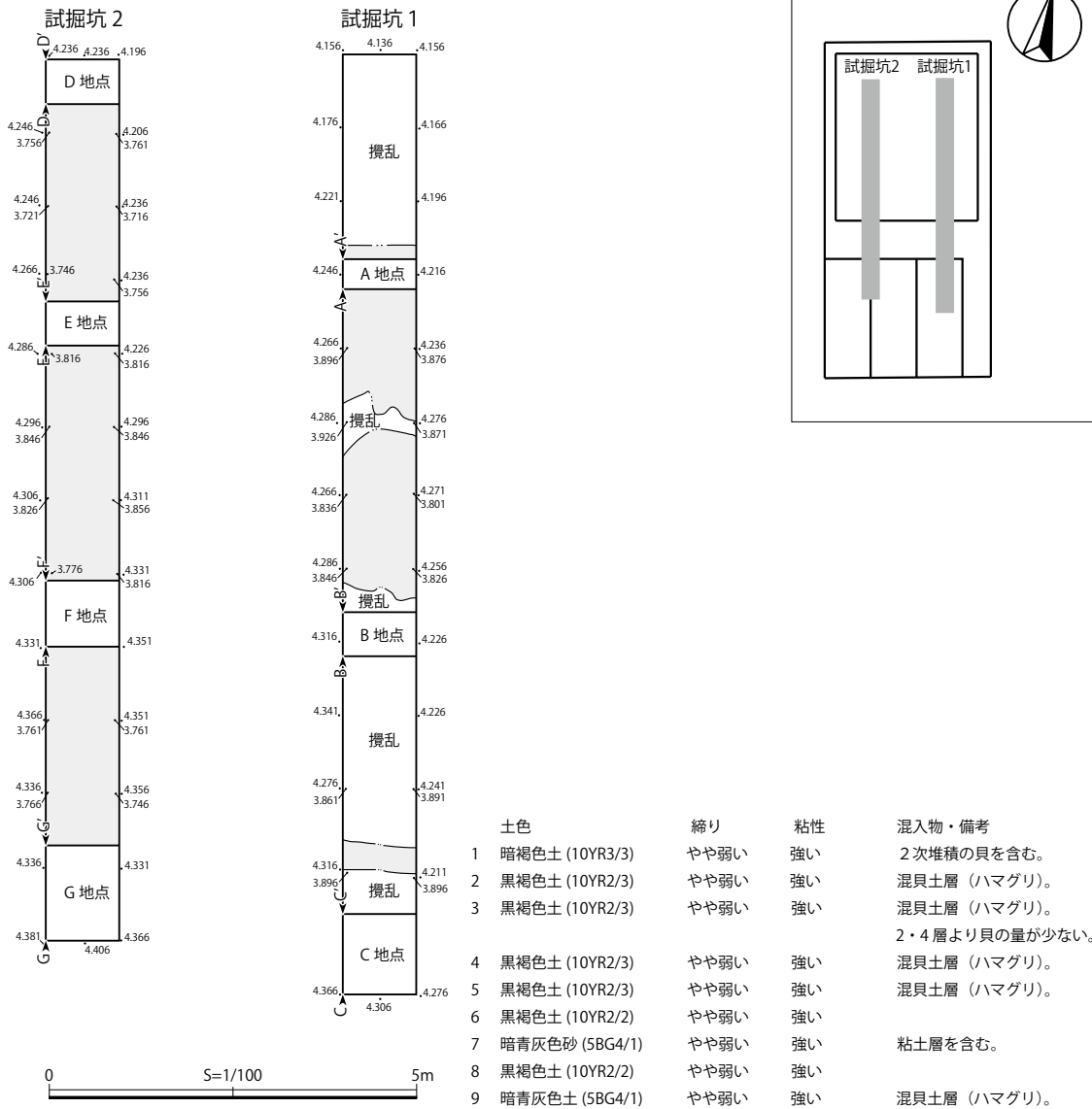


試掘坑設定状況（東から）



試掘坑土層堆積状況（北から）

図版 26 王子本町 1-22-4 地点



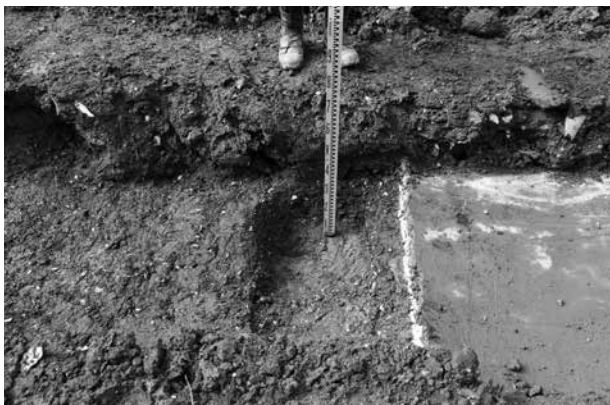
第 46 図 赤羽北 1-12-7 地点 TP 平面断面図



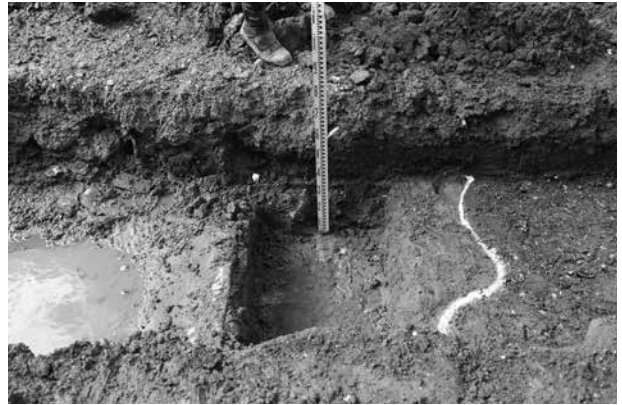
試掘坑1 全景（南から）



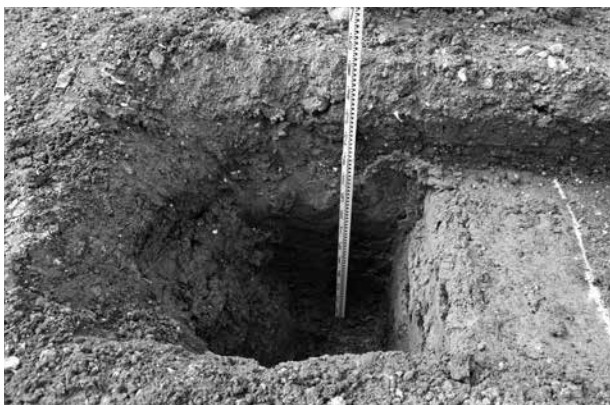
試掘坑1 全景（北から）



試掘坑1 土層堆積状況 A 地点（東から）



試掘坑1 土層堆積状況 B 地点（東から）



試掘坑1 土層堆積状況 C 地点（東から）

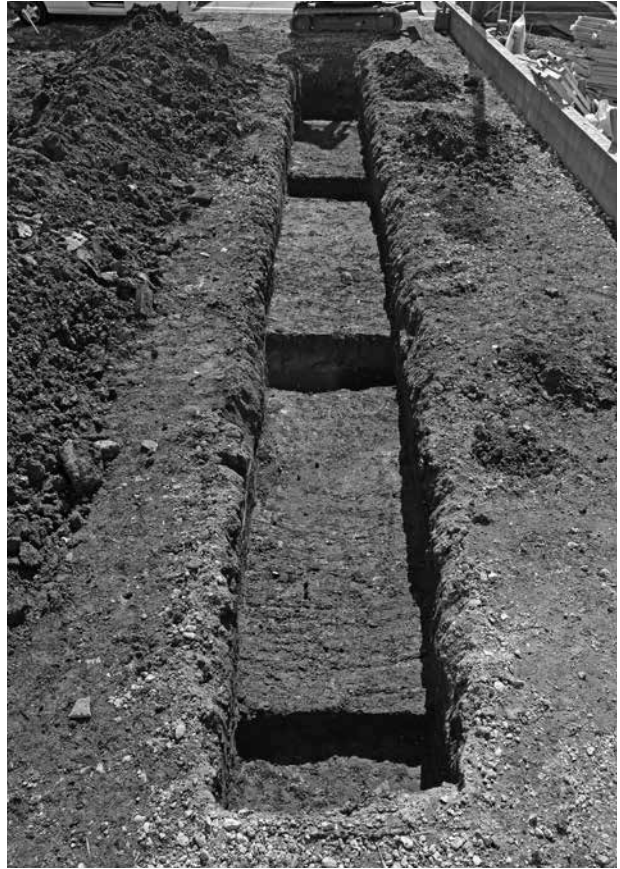


試掘坑1 土層堆積状況（東から）

図版 27 赤羽北 1-12-7 地点（1）



試掘坑2全景（南から）



試掘坑2全景（北から）



試掘坑2土層堆積状況D地点（東から）



試掘坑2土層堆積状況E地点（東から）

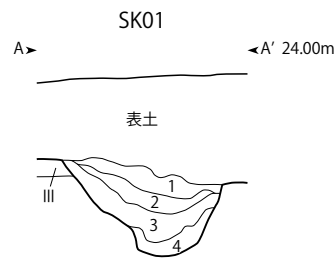
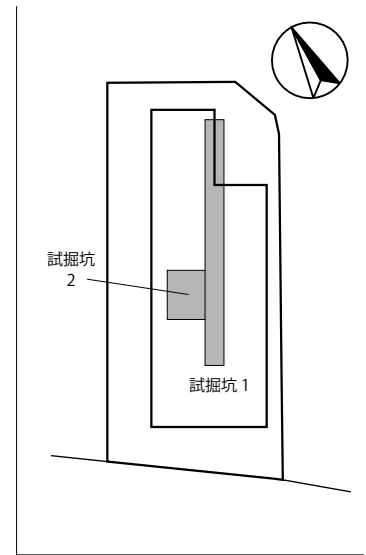
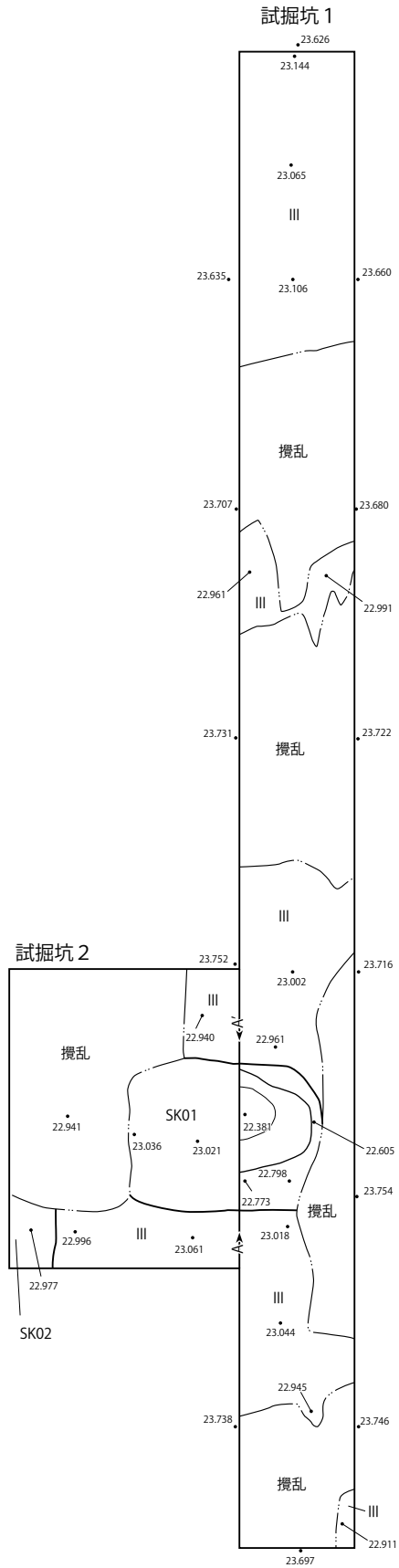


試掘坑2土層堆積状況F地点（東から）



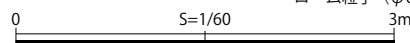
試掘坑2土層堆積状況G地点（東から）

図版 28 赤羽北 1-12-7 地点（2）



SK01

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR3/2)	やや強い	やや弱い	ローム粒子 (φ0.5~1mm) を微量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/3)	やや強い	やや強い	ローム粒子 (φ0.5mm) を微量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや強い	ローム粒子 (φ0.5~1mm) を少量含む。
4 褐色土 (10YR4/4)	強い	強い	ロームブロック (φ10~20mm) を中量、 ローム粒子 (φ0.5~2mm) を少量含む。



第 47 図 西ヶ原 2-21 地点 平断面図



試掘坑1 全景 (南から)



試掘坑1 土層堆積状況1 (西から)



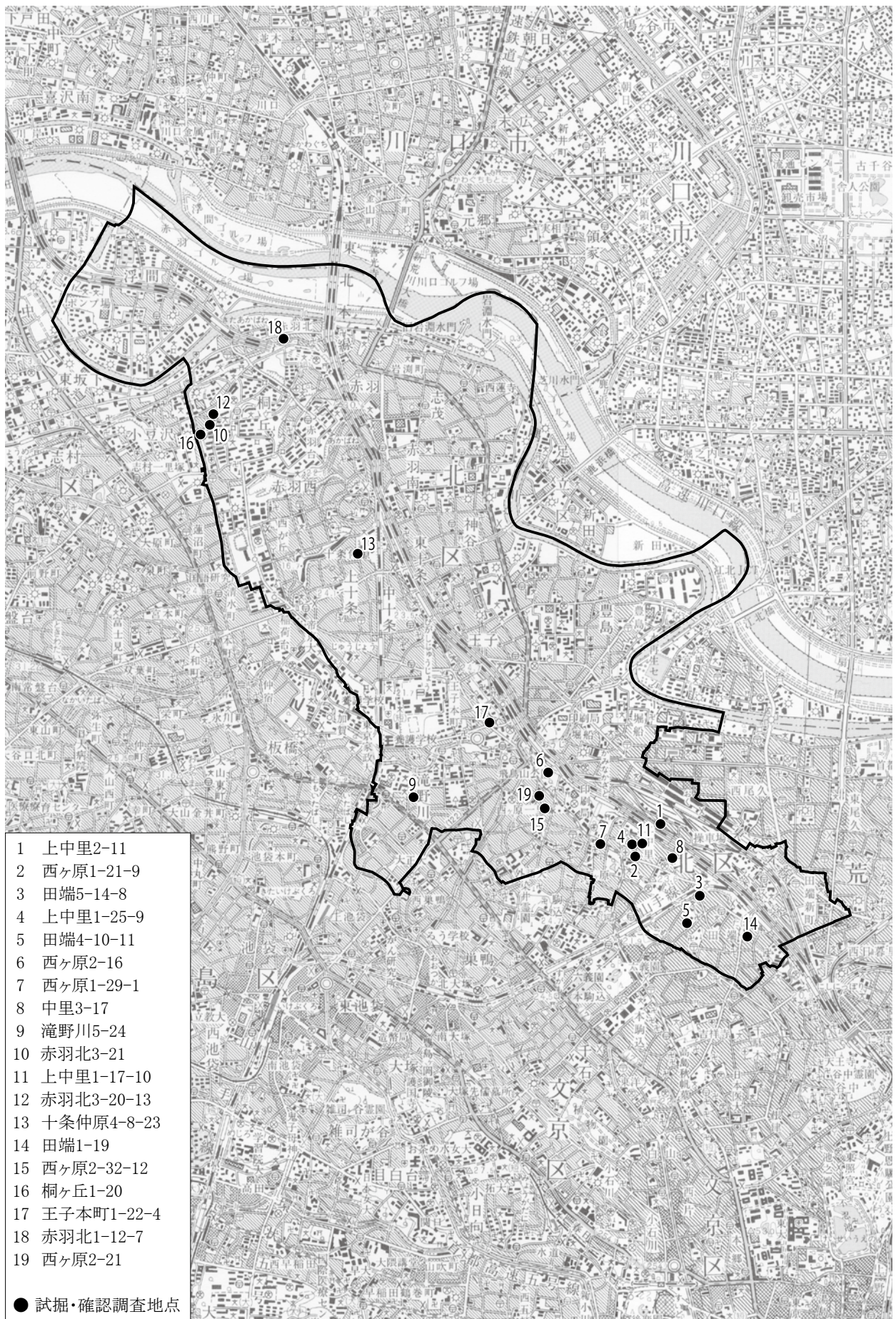
試掘坑1 土層堆積状況2 (西から)



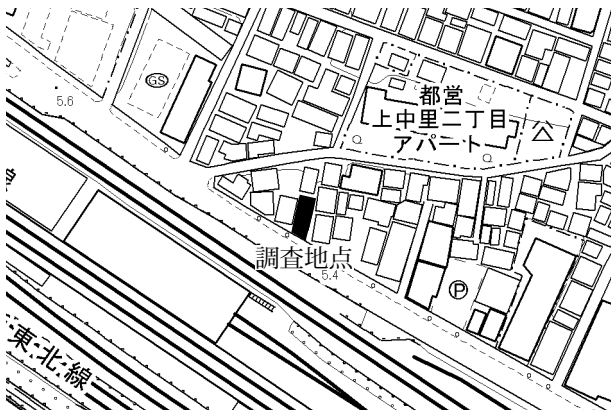
試掘坑2 全景 (東から)



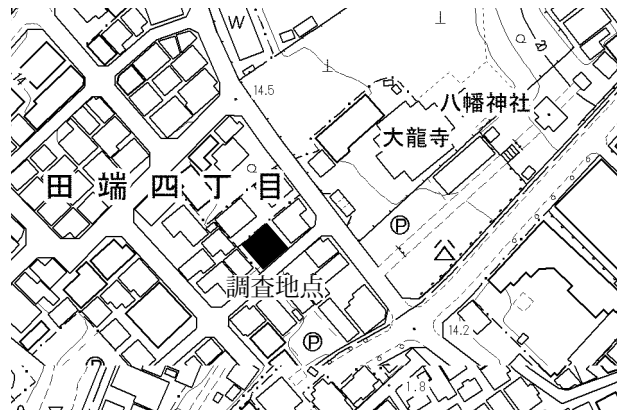
試掘坑2 土層堆積状況 (南から)



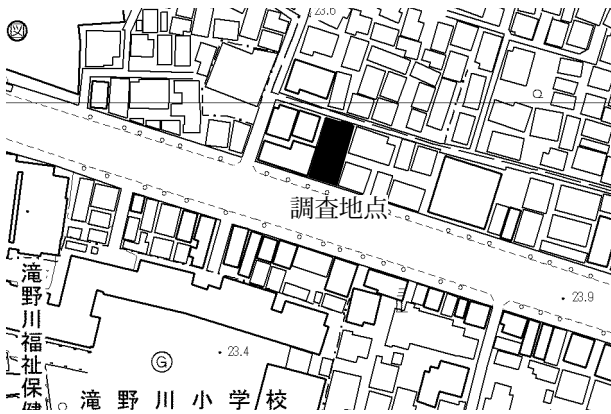
第 48 図 国庫補助金対象事業調査地点位置図 (S=1/50,000)



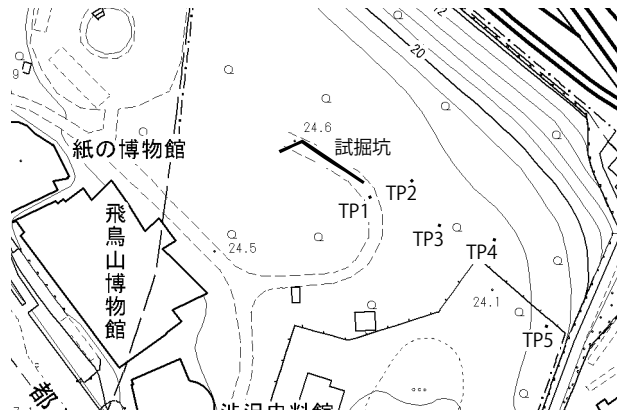
1. 上中里 2-11



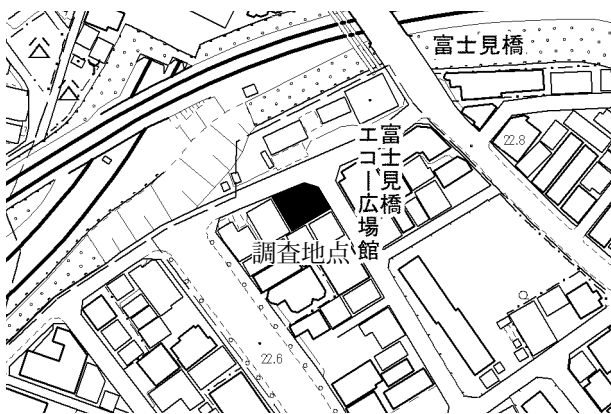
5. 田端 4-10-11



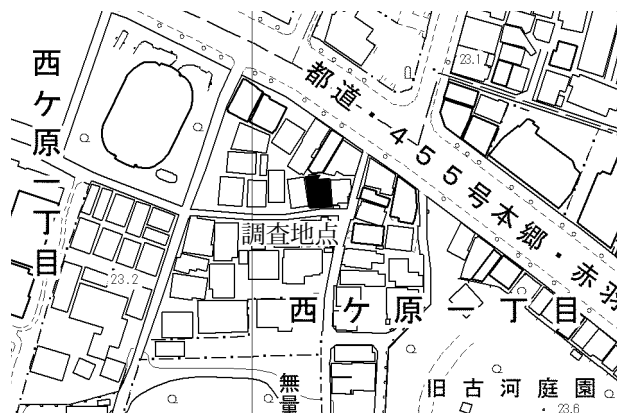
2. 西ヶ原 1-21-9



6. 西ヶ原 2-16 (飛鳥山公園内)



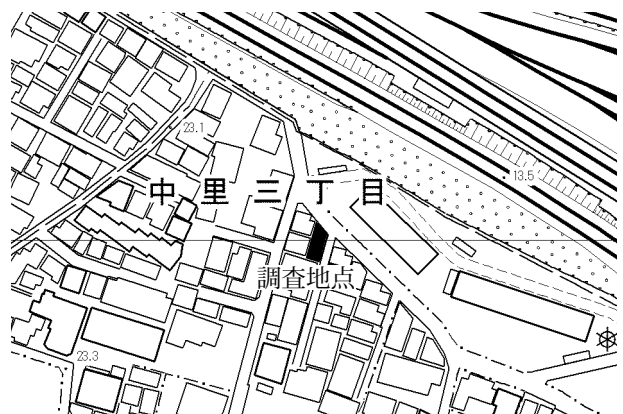
3. 田端 5-14-8



7. 西ヶ原 1-29-1



4. 上中里 1-25-9

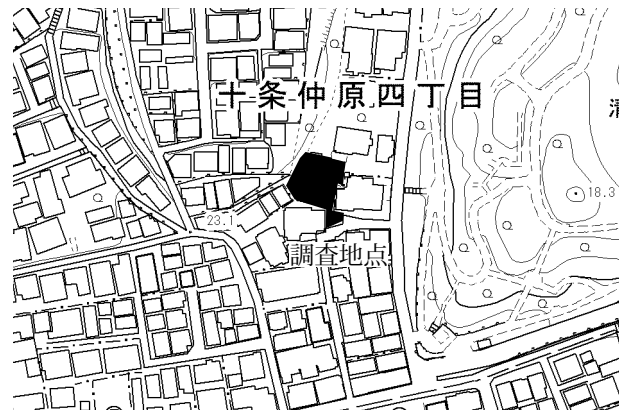


8. 中里 3-17

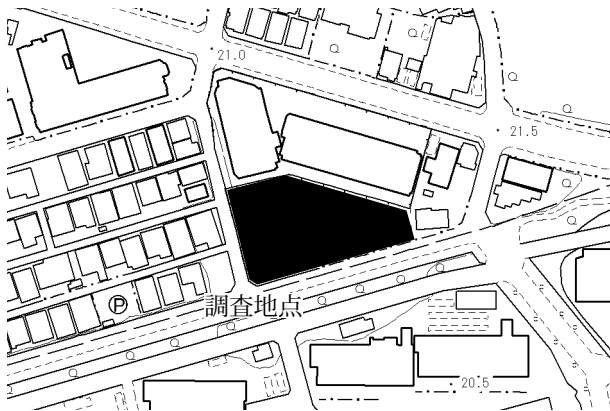
第 49 図 国庫補助金対象事業調査地点詳細図① (S=1/2,500)



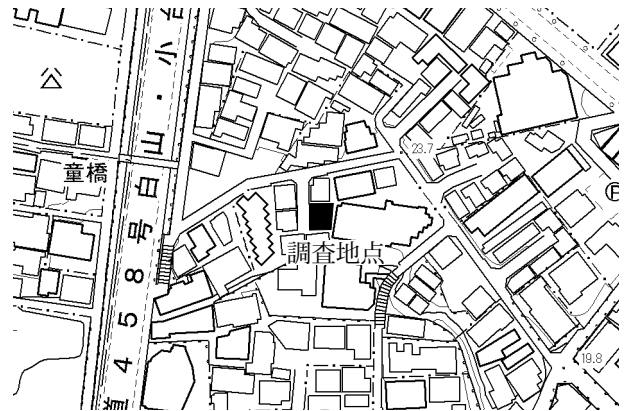
9. 滝野川 5-24



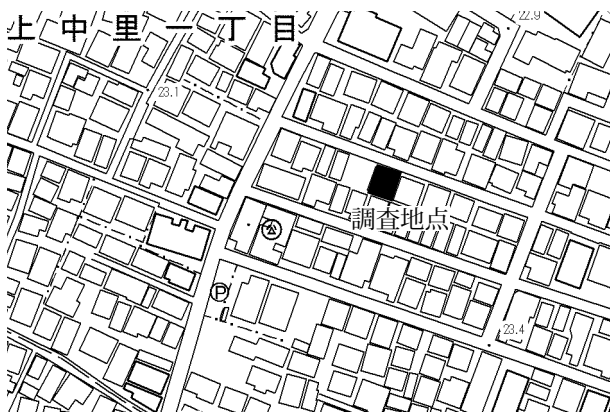
13. 十条中原 4-8-23



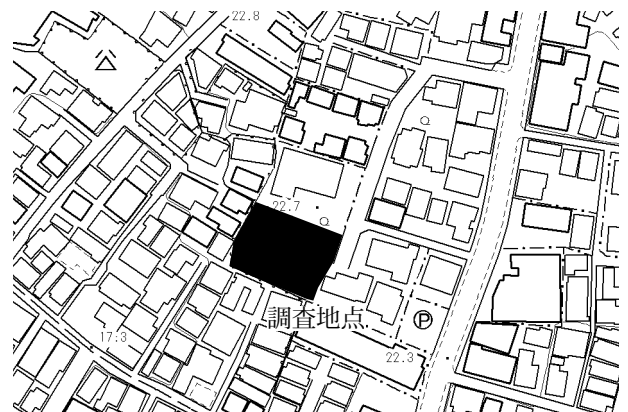
10. 赤羽北 3-21



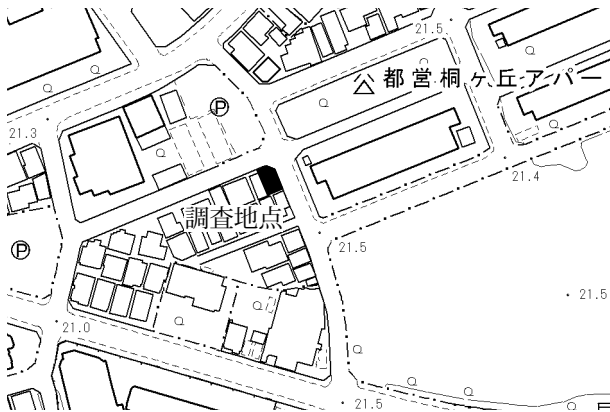
14. 田端 1-19



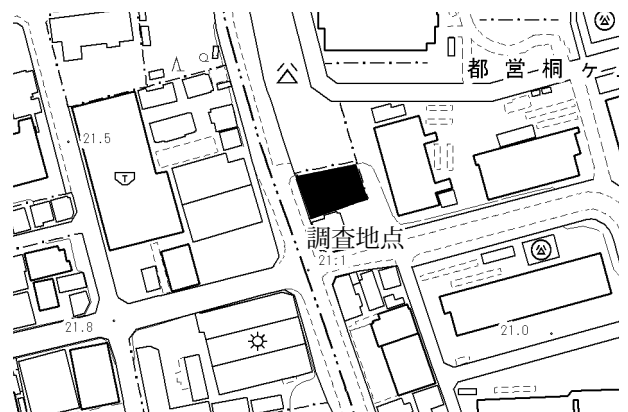
11. 上中里 1-17-10



15. 西ヶ原 2-32-12

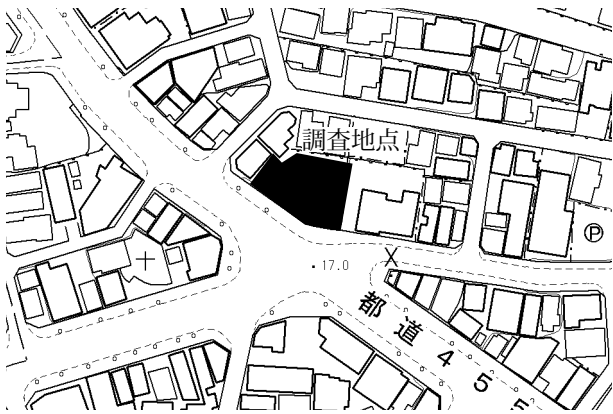


12. 赤羽北 3-20-13

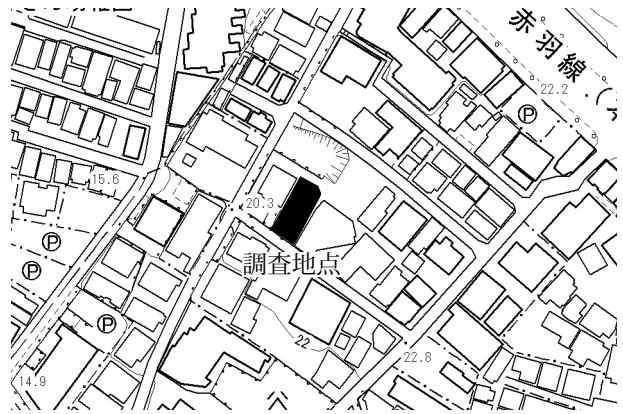


16. 桐ヶ丘 1-20

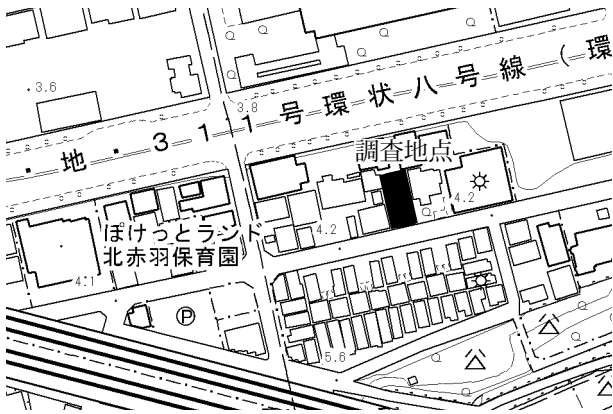
第 50 図 国庫補助金対象事業調査地点詳細図② (S=1/2,500)



17. 王子本町 1-22-4



19. 西ヶ原 2-21



18. 赤羽北 1-12-7

第 51 図 国庫補助金対象事業調査地点詳細図③ (S=1/2,500)

報告書抄録

ふりがな	きたくまいぞうぶんかざいちょうさねんぼう れいわよんねんど							
書名	北区埋蔵文化財調査年報—令和4年度—							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	牛山英昭 高坂勇佑 岩崎岳彦 内田健太 遠藤知成 小森暁生 坂下貴則 宅間清公 遠竹陽一郎							
編集機関	東京都北区教育委員会事務局 教育振興部 飛鳥山博物館							
所在地	〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 TEL 03(3916)1133							
発行年月日	令和6年(2024)3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	(発掘調査)	面積	
なかざといせき 中里遺跡	とうきょうとき たくかみなかざと 東京都北区上中里 2-11	13117	30	巻頭一覧表参照				
なかざとほけうせいせき 中里峽上遺跡	とうきょうとき たくにしがはら 東京都北区西ヶ原 1-21-9		40					
たばたにしたいどおりいせき 田端西台通遺跡	とうきょうとき たくたばた 東京都北区田端 5-14-8		41					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうとき たくかみなかざと 東京都北区上中里 1-25-9		27					
たばたちょういせき 田端町遺跡	とうきょうとき たくたばた 東京都北区田端 4-10-11		31					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうとき たくにしがはら 東京都北区西ヶ原 2-16		27					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうとき たくにしがはら 東京都北区西ヶ原 1-29-1		27					
なかざとほけうせいせき 中里峽上遺跡	とうきょうとき たくなかざと 東京都北区中里 3-17		40					
たきのがわちまんとしやうらからいづか 滝野川八幡社裏貝塚	とうきょうとき たくたきのがわ 東京都北区滝野川 5-24		25					
きりがおかいせき 桐ヶ丘遺跡	とうきょうとき たくあかほねきた 東京都北区赤羽北 3-21		8					
なかざとほけうせいせき 中里峽上遺跡	とうきょうとき たくかみなかざと 東京都北区上中里 1-17-10		40					
きりがおかいせき 桐ヶ丘遺跡	とうきょうとき たくあかほねきた 東京都北区赤羽北 3-20-13		8					
しみずぎかいせき 清水坂遺跡	とうきょうとき たくじゅうじょうなかはら 東京都北区十条仲原 4-8-23		18					
たばたふどうざかいせき 田端不動坂遺跡	とうきょうとき たくたばた 東京都北区田端 1-19		32					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうとき たくにしがはら 東京都北区西ヶ原 2-32-12		27					
きりがおかいせき 桐ヶ丘遺跡	とうきょうとき たくきりがおか 東京都北区桐ヶ丘 1-20		8					
じゅうじょうだいせいせきぐん 十条台遺跡群	とうきょうとき たくおうじほんちょう 東京都北区王子本町 1-22-4		19					
ふくろていせいせき 袋低地遺跡	とうきょうとき たくあかほねきた 東京都北区赤羽北 1-12-7		4					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうとき たくにしがはら 東京都北区西ヶ原 2-21		27					

資料の保管機関	東京都北区教育委員会事務局 教育振興部 飛鳥山博物館 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 TEL 03 (3916) 1133 FAX 03 (3916) 5900
---------	---

令和4年度発掘調査

西ヶ原遺跡群

—西ヶ原 1-29-1 地点—

西ヶ原遺跡群

—西ヶ原 1-29-1 地点—発掘調査報告

はじめに

本調査報告は令和4年（2022）10月18日～10月26日に東京都北区西ヶ原1-29-1において、北区教育委員会を調査主体者とし、株式会社東京航業研究所の調査支援により実施した西ヶ原遺跡群の発掘調査の成果をまとめたものである。

1. 調査に至る経緯

今回の調査地点である、西ヶ原一丁目29番1号は西ヶ原遺跡群（北区遺跡No.27）に該当する。令和4年9月21日、個人事業主（以下、施主という。）より集合住宅建設に伴い、文化財保護法（以下、法という。）第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された。これに対し、東京都教育委員会教育長は10月3日付で、「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」（4教地管理第2434号）により、試掘調査が必要である旨を通知した。この通知を受け10月4日に現地で試掘調査を行なったところ、竪穴建物跡が検出され、工事の計画では遺構の保全は困難であることから本発掘調査を実施することとなった。

本発掘調査を行なうにあたっては、10月18日付で施主、北区教育委員会、株式会社東京航業研究所の間で三者協定を締結した。調査は法第99条に基づき、北区教育委員会を調査主体者として実施した。

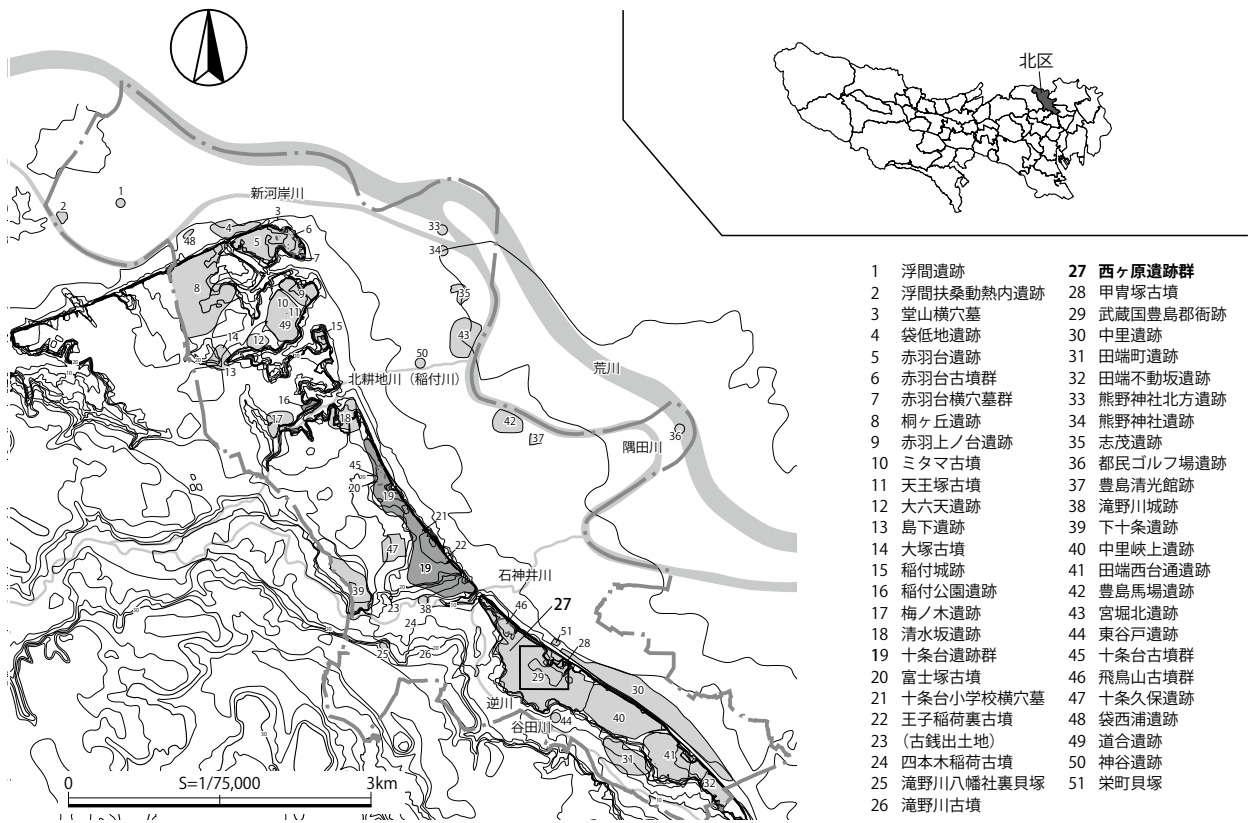
2. 遺跡の立地と環境（第1図 表1）

西ヶ原遺跡群がある北区は東京都の北東端に位置し、北側を埼玉県川口市、東側を足立区、荒川区、南側を豊島区、西側を板橋区と接している。北区の地形を大きく見てみると、北側から東側には低地部が、西側から南側にかけては、台地部が位置している。東京低地と呼称される低地部には、現在、荒川・隅田川・新河岸川の河川が北西から南東に流れている。これらの河川は古代より幾度となくその流路を変えていたと思われ、それに伴い自然堤防を発達させてきた。現在は比較的平坦な地形で分かりづらいが、この自然堤防上に遺跡が営まれている。

一方台地部は、武蔵野台地の北東端部に位置している。周辺は本郷台と呼ばれる支台が展開する。本郷台は東側を東京低地に、西側を谷田川により区切られている。この本郷台上には縄文時代から平安時代にかけての遺跡が多数存在し、石神井川以南に限ってみても西ヶ原遺跡群の他に、中里峽上遺跡、田端西台通遺跡、田端不動坂遺跡、田端町遺跡がそれぞれ間隙なく存在している。また西ヶ原遺跡群とは、飛鳥山遺跡、七社神社裏遺跡、七社神社前遺跡、御殿前遺跡、西ヶ原貝塚などを総称した呼称であるが、現状では先に挙げた遺跡とも密接にかかわり、分かちがたいものであるのが実態であろう。以下西ヶ原遺跡群を中心にその概要を述べる。

旧石器時代では御殿前遺跡でナイフ形石器が出土している。

縄文時代では、前期前葉以降集落が営まれる。それ以前では、飛鳥山遺跡・御殿前遺跡で擦糸文土器が、御殿前遺跡で条痕文土器が出土している。前期では飛鳥山遺跡・御殿前遺跡で関山式期から集落が見つかっている。黒浜式期では御殿前遺跡において前代から継続して集落が営まれる。この他に、七社神社



第1図 北区の地形と遺跡及び調査地点位置図

①西ヶ原遺跡群

地点名	所在地	報告書	発行年	縄文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
上中里 1-42-8 地点	上中里 1-42-8	区内遺跡発掘調査報告	平成 17 年	—	—	—	中・近世地下式墳、溝、井戸	
上中里 1-45 地点	上中里 1-45	北区埋蔵文化財調査年報	平成 26 年	土坑	—	—	近世竪穴状遺構	
上中里 1-35 地点	上中里 1-35	北区埋蔵文化財調査年報	平成 30 年	—	—	住居跡		
西ヶ原 1-29-1 地点	西ヶ原 1-29-1	北区埋蔵文化財調査年報	令和 5 年			住居跡		

②御殿前遺跡

地点名	所在地	報告書	発行年	縄文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
第 1 地点	西ヶ原 2-1	御殿前遺跡 I	昭和 63 年	住居跡（前～後期）	住居跡、方形周溝墓	正倉大溝、掘立柱建物跡、円形有段遺構、住居跡	郡庁、中世溝	農業技術研究所跡
第 2 地点	西ヶ原 2-3-15	御殿前遺跡 II	平成元年	住居跡（早期後半～前期初頭）	住居跡	正倉大溝、掘立柱建物跡、円形有段遺構、住居跡	正倉院入口	大蔵省印刷局滝野川工場
第 3 地点	西ヶ原 1-30	御殿前遺跡 III	平成 4 年	—	—	—	中世地下式墳	西ヶ原 1 丁目 30 番地
第 4 地点	西ヶ原 2-3-15	御殿前遺跡 IV	平成 6 年	—	住居跡	正倉大溝、掘立柱建物跡、大型土坑	中世溝、道路	大蔵省印刷局滝野川工場
第 7 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡 V	平成 9 年	—	住居跡	掘立柱建物跡、溝	中世溝、道路	
第 16 地点	西ヶ原 1-29-7	—	—	—	—	—	中世溝等	
第 17 地点	上中里 1-46-12	—	—	住居跡（中期）	方形周溝墓、溝	—	東京都遺跡調査・発表会 20 掲載	
第 18 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡 VI	平成 12 年	土坑	住居跡、土坑	掘立柱建物跡、溝、大型土坑	近世溝、近世道路、近世建物	
第 23 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡 VII	平成 15 年	土坑（中期）	住居跡	正倉大溝	—	
第 25 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡 VII	平成 15 年	ピット群	住居跡、掘立柱建物跡	正倉大溝、住居跡	中世溝、近世欄列、溝、土坑	
第 30 地点	西ヶ原 2-3-15	東京都北区西ヶ原遺跡群	平成 22 年	住居跡、土坑	住居跡、方形周溝墓	正倉大溝、掘立柱建物跡、住居跡	—	
第 34 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡	平成 25 年	—	住居跡	正倉大溝、掘立柱建物跡、	中世溝、近世溝	
第 35 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡	平成 25 年	—	住居跡	溝	—	
第 36 地点	西ヶ原 1-31	御殿前遺跡	平成 24 年	住居跡（前期）	住居跡	掘立柱建物跡、溝	中世墓壇、地下式墳、溝跡	
第 37 地点	西ヶ原 1-28-2	北区埋蔵文化財調査年報	平成 25 年	—	住居跡	住居跡	—	
第 39 地点	上中里 1-46-4	北区埋蔵文化財調査年報	平成 26 年	住居跡（中期）、埋葬炉	住居跡、方形周溝墓	回廊	方形周溝墓主体部鉄剣郡庁院回廊	
第 41 地点	西ヶ原 2-3-15	御殿前遺跡	平成 28 年	住居跡（前・中期）、土坑	住居跡、方形周溝墓	掘立柱建物跡、礎石建物跡、大形土坑	—	
第 42 地点	西ヶ原 2-2-1	御殿前遺跡	平成 28 年 平成 29 年	炉穴、住居跡（中期）、斜面貝塚、土坑	住居跡、環濠	鍛冶工房跡、住居跡	中世地下式墳、墓壇、井戸、土坑、近世建物	

③西ヶ原貝塚

地点名	所在地	報告書	発行年	縄文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
第Ⅳ地点	西ヶ原 3-1-9	西ヶ原貝塚Ⅱ東谷戸遺跡	平成 6 年	住居跡（後期）、貝層	—	—	中世溝	（仮）小泉ビル
第Ⅹ地点	西ヶ原 1-31	西ヶ原貝塚	平成 23 年	住居跡（前・中・後期）、貝層（後期）、土坑等	住居跡、方形周溝墓	住居跡、溝	中世地下式墳、土坑、溝、近世溝	

表 1 西ヶ原遺跡群調査地点一覧表

前遺跡・田端西台通遺跡・田端不動坂遺跡でも住居跡が見つかっている。七社神社前遺跡はその後の諸磯式期にも集落が継続して営まれる。

前期末葉から中期初頭では遺跡が希薄になる。中期中葉では七社神社裏遺跡で勝坂式期の、中期後半では御殿前遺跡で集落が営まれる。

西ヶ原貝塚は中期後半以降集落が形成され、後期を通じ継続する集落であり、馬蹄形の貝塚が形成される。また、近年の調査からは晩期中葉の安行Ⅲ d 式が出土しており、晩期前葉以降も人々の痕跡が確認できる。

弥生時代では、飛鳥山遺跡で宮ノ台式期の環濠集落が形成される。弥生時代後期後半になると西ヶ原遺跡群の全域にわたって集落が形成される。

弥生時代後期末から古墳時代前期になると、今まで西ヶ原遺跡群全体に認められた集落は縮小し、御殿前遺跡に収斂される。後期になると、飛鳥山遺跡で5基の古墳からなる群集墳が認められる。

古代では武蔵国豊島郡衙跡に比定される御殿前遺跡・七社神社前遺跡がある。郡衙の周辺では、同時期の住居跡が見つかっており、7世紀以降継続して認められる。今回の調査で検出した住居跡は7世紀末から8世紀初頭のもので、位置関係から豊島郡衙との強い関係性が推測される。

3. 調査の経過と概要

調査期間は令和4年10月18日～10月26日、調査面積は16.2 m²である。10月18日に発掘機材と重機を搬入し、調査を開始した。確認面はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層相当）で現地表面下約0.60 mである。遺構確認終了後、直ちに遺構精査を開始、適宜図面作成・写真撮影を行い、10月25日全景写真を撮影し、10月26日重機による埋め戻し作業及び機材の撤収をし、調査を終了した。

遺構は7世紀末から8世紀初頭にかけての竪穴住居跡1軒である。

4. 遺構と遺物

【SI01】

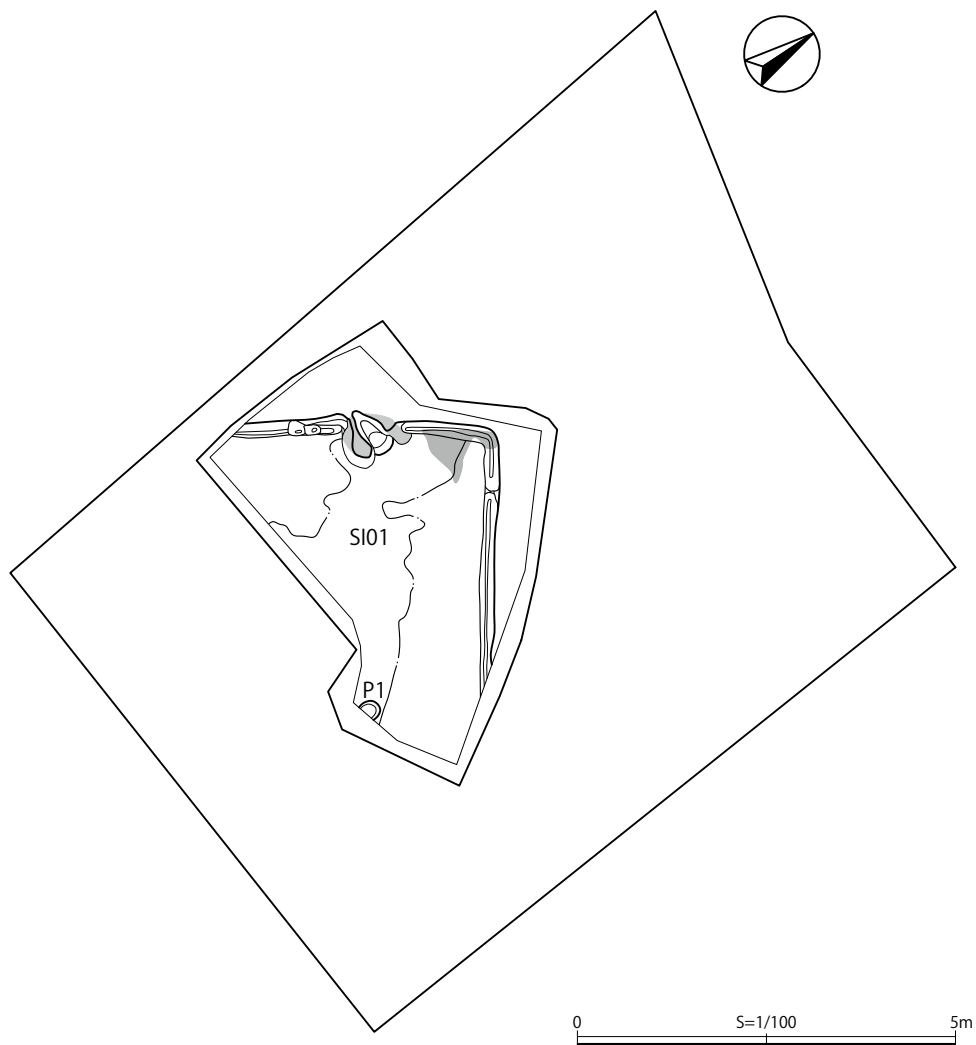
遺構（第3・4図 図版1）

重複関係：なし。**平面形：**方形または長方形を呈すると推定される。**規模：**南側及び西側は建物建設範囲外に及んでいるため正確な規模は不明であるが、主軸長4.45 m以上、主軸直交長3.86 m以上、確認面からの深さは0.34 mを測る。**主軸方位：**N - 53° - W。**覆土：**黒褐色土及び暗褐色土を主体とする自然堆積で、7層に区分される。また、住居跡の北東側角部では焼土の集中が確認された。この焼土の下位には前述の自然堆積と同様の層が堆積しており、住居跡の埋没過程の中で出火に類する状況があったと推測される。**壁及び床面：**壁は概ね垂直に立ち上がる。床は掘り込んだローム面に直接構築された地床で、竈前面から南方向にかけて顕著な硬化が帯状に認められた。**壁溝：**住居壁直下を巡り、竈の手前で途切れる。幅は0.13～0.20 m、深さは0.09～0.19 m程である。**カマド：**北壁中央やや東よりに造られ、住居主軸に対する傾きは西に43°と顕著である。規模は長軸0.76 m、短軸0.84 mで、一部に白色粘土を用い構築される。堆積状況には東側へ崩れた様子が認められるものの、両袖の残りは良好であった。内部は床面とほぼ同水準に焚口が設けられ、燃焼部と推定される部分で僅かに窪まるが、概ね平坦である。燃焼部の袖内壁は僅かに赤化が認められる。加えて、火床面には灰の堆積が認められるものの赤化は見られず、全体として被熱による変化は乏しい。煙道部の立ち上がりは緩やかであるが、壁からの突出はわずかである。**柱穴：**本住居跡からは支柱穴を構成する柱穴は確認されなかった。但し、竈対角線上の調査区際には小穴（P1）が見られ、こちらは入り口に関わるものと思われる。規模は長軸0.26 m以上、短軸0.19 m、深さ0.13 mである。

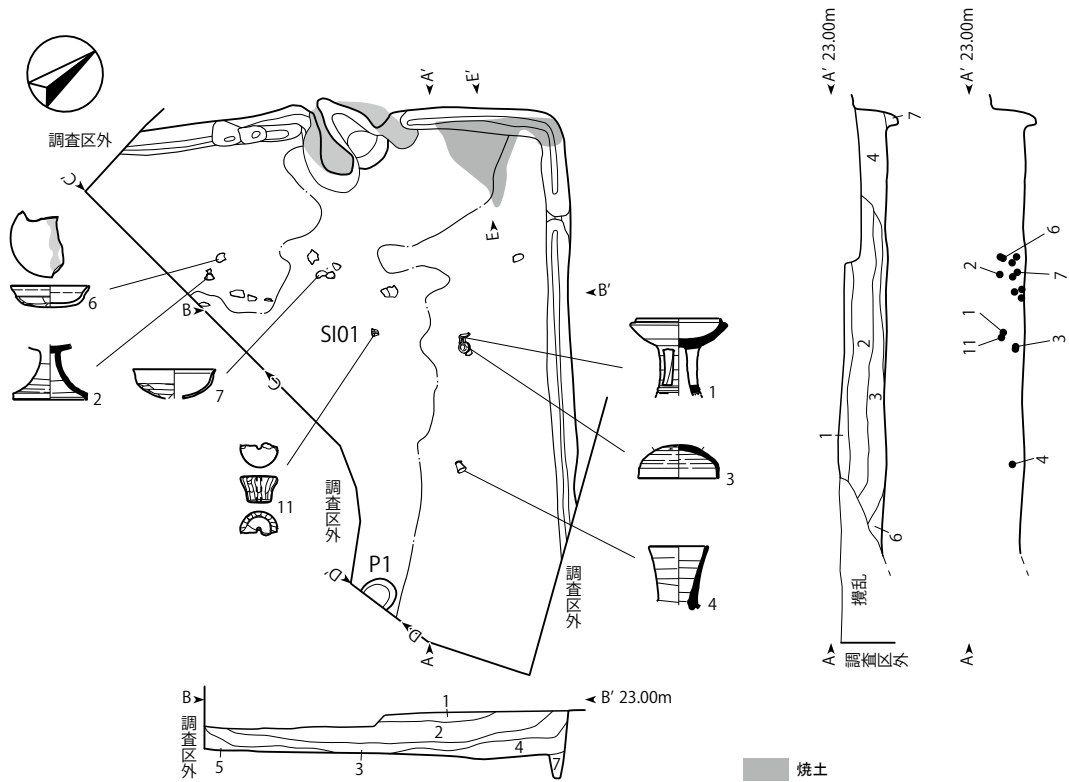
遺物 (第5図 図版2 表2)

出土状況：遺物の分布は住居跡全体に散漫に広がる。小破片が多く、総出土量もコンテナ1箱未満と僅かである。**土器：**1～4は須恵器である。1は長脚の高坏で3単位2段の透かしが認められる。2も高坏であるが、脚部に透かしを持たず、裾部は大きく開く。3は摘み、返しを持たない蓋である。4は平瓶の頸部で胴部とは柄穴で結合される。5～8は土師器の坏である。このうち5は口縁部外面並びに内面全体に赤彩が施され、いわゆる比企型坏と考えられる。6は口縁部が強くヨコナデされ、体部上端に明瞭な稜が造られる。また、口縁部は大きく外反する。7は丸底の坏で、口唇部は摘ままれ僅かに突き出す。8は台形を呈する坏で口縁部は垂直気味に造られ高い。9は土師器の鉢である。竈掘り方部より出土している。10は長胴甕である。11は土製の紡錘車で細かな面取りが為される。

時期 出土した遺物の様相から、7世紀末から8世紀初頭と推定される。



第2図 西ヶ原 1-29-1 地点 調査区全体図

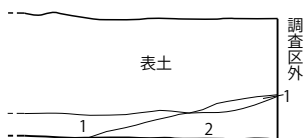


SI01

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR3/2)	やや強い	やや弱い	焼土粒 (φ0.5 ~ 1mm) を微量、ローム粒 (φ0.5 ~ 2mm) を少量含む。
2 黒褐色土 (10YR2/2)	やや弱い	やや強い	ローム粒 (φ0.5 ~ 2mm) を少量、ロームブロック (φ10 ~ 20mm) を中量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/3)	やや弱い	強い	焼土粒 (φ0.5 ~ 1mm)・ローム粒 (φ0.5 ~ 1mm)・ロームブロック (φ20 ~ 30mm) を少量含む。
4 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	やや強い	ロームブロック (φ10 ~ 30mm) を少量含む。
5 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	強い	ローム粒 (φ0.5 ~ 1mm) を少量含む。
6 黒褐色土 (10YR2/2)	強い	強い	ローム粒 (φ0.5 ~ 1mm) を少量、焼土粒 (φ0.5 ~ 1mm) を微量含む。
7 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム粒 (φ0.5 ~ 2mm) を中量含む。(周溝埋土)

南壁

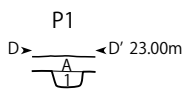
C> <C' 24.00m



南壁

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	強い	ローム粒 (φ0.5 ~ 1mm) を少量、ロームブロック (φ5 ~ 10mm) を微量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	ロームブロック (φ10 ~ 20mm) を中量、ローム粒 (φ0.5 ~ 1mm) を少量含む。

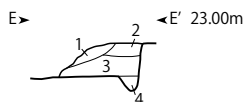
P1



土色

土色	締り	粘性	混入物・備考
A 極暗褐色土 (7.5YR2/3)	やや弱い	やや弱い	焼土ブロック (φ10 ~ 20mm) を中量、焼土粒 (φ0.5 ~ 1mm) を多量含む。(住居覆土)
1 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	やや強い	ローム粒 (φ0.5 ~ 2mm)・ロームブロック (φ5 ~ 20mm) を少量含む。

焼土

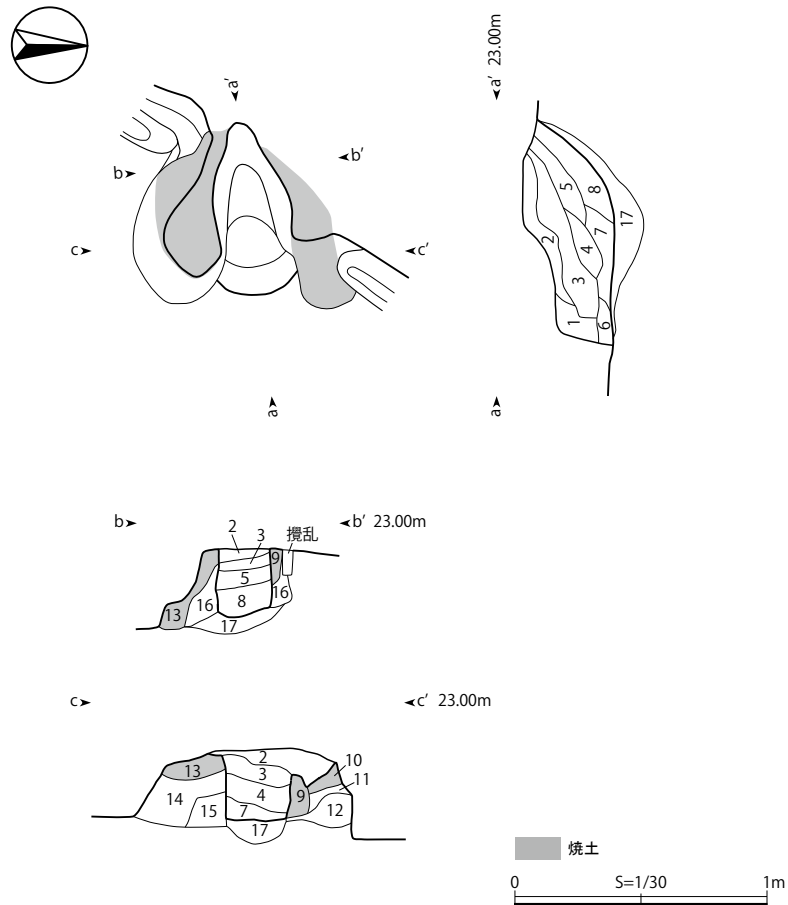


焼土

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 暗赤褐色土 (5YR3/6)	やや強い	やや弱い	焼土主体
2 極暗褐色土 (7.5YR2/3)	強い	やや弱い	焼土粒 (φ0.5 ~ 1mm) を少量含む。
3 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや強い	ローム粒 (φ0.5 ~ 2mm)・ロームブロック (φ5 ~ 10mm) を少量含む。
4 暗褐色土 (10YR3/3)	やや弱い	やや強い	ローム粒 (φ1 ~ 2mm) を少量含む。

0 S=1/60 3m

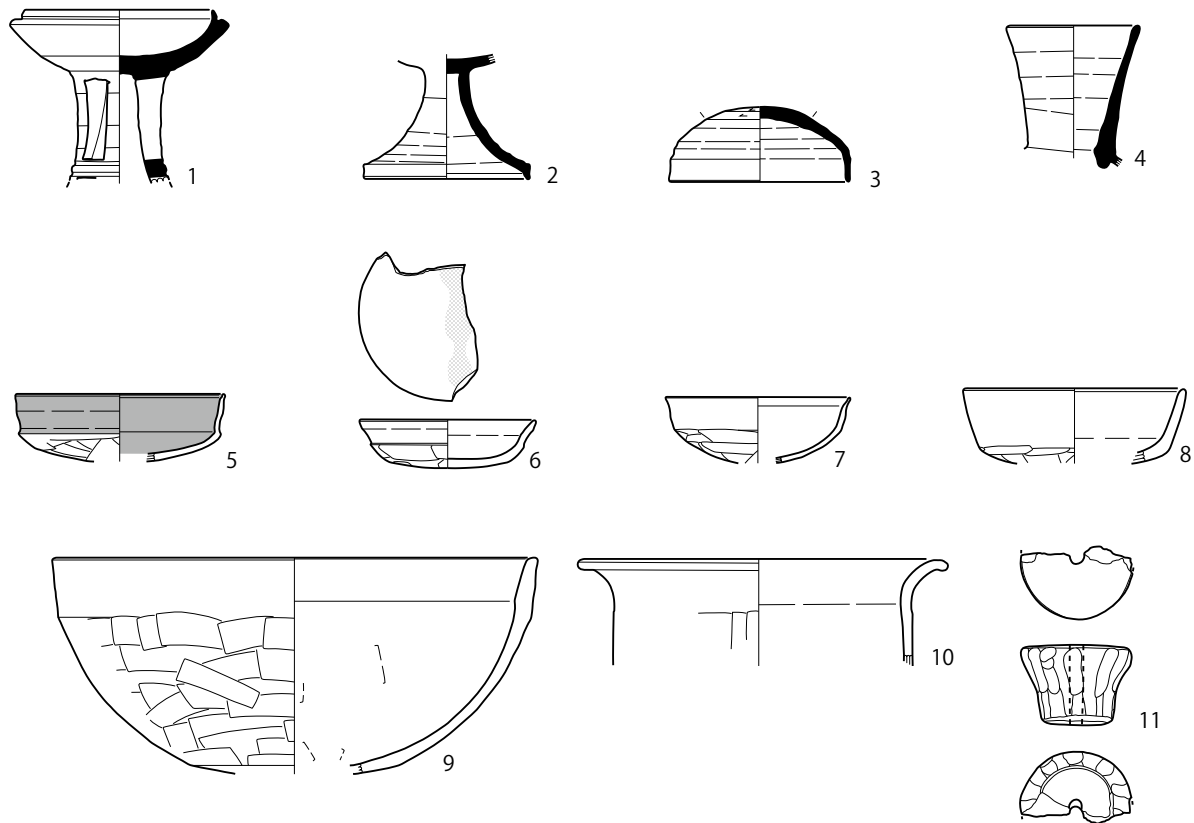
第3図 西ヶ原 1-29-1 地点 SI01 平断面図・遺物出土図



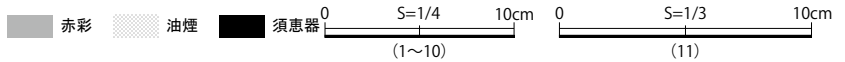
SI01 カマド

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	強い	焼土粒 (φ1~2mm) を少量、ロームブロック (φ5~10mm) を少量含む。
2 黒褐色土 (10YR2/2)	やや強い	強い	粘土粒 (φ0.5~2mm) を微量、焼土粒 (φ0.5~1mm) を極微量含む。
3 黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱い	強い	粘土粒 (φ0.5~1mm) を中量、ローム粒 (φ0.5~1mm) を微量含む。
4 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	やや弱い	粘土粒 (φ1~2mm) を少量含む。
5 黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱い	やや強い	焼土ブロック (φ5~10mm) を少量、粘土粒 (φ0.5~1mm) を少量含む。
6 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	強い	ローム粒 (φ1~2mm) を中量含む。
7 黒褐色土 (7.5YR3/2)	やや強い	やや弱い	焼土粒 (φ1~2mm) を少量、灰を若干量含む。
8 黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱い	やや弱い	焼土粒 (φ0.5~2mm) を中量、粘土粒 (φ0.5~2mm) を中量含む。
9 にぶい黄褐色土 (10YR6/4)	強い	強い	白色粘土純層
10 暗褐色土 (7.5YR3/3)	強い	強い	粘土粒 (φ0.5~2mm) を多量含む。暗褐色土 (7.5YR3/3) は斑状
11 極暗褐色土 (7.5YR2/3)	強い	強い	粘土粒 (φ1~2mm) を少量含む。
12 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	粘土粒 (φ0.5~2mm) を多量、ローム粒 (φ1~2mm) を少量含む。
13 にぶい黄褐色土 (10YR6/4)	強い	強い	白色粘土純層
14 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	強い	粘土粒 (φ1~2mm) を中量含む。
15 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	強い	白色粘土を斑状に少量含む。
16 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	強い	粘土粒 (φ0.5~1mm)、焼土粒 (φ0.5~1mm)、ローム粒 (φ0.5~1mm) を少量含む。
17 暗褐色土 (7.5YR3/3)	やや弱い	やや強い	焼土ブロック (φ5~10mm) を少量、焼土粒 (φ0.5~2mm) を中量、灰を若干含む。

第4図 西ヶ原 1-29-1 地点 SI01 カマド平断面図



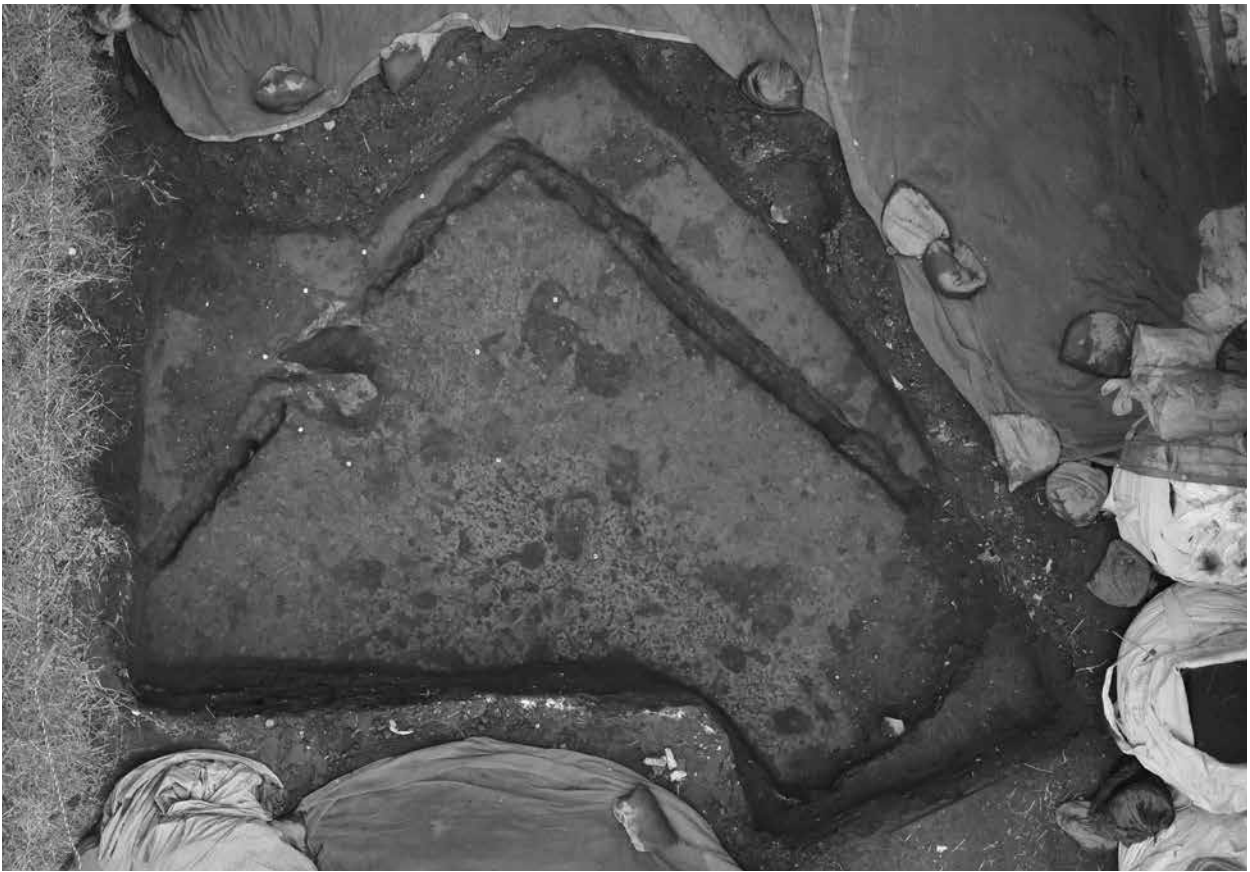
SI01



第5図 西ヶ原 1-29-1 地点 出土遺物実測図

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	法量 (cm)	遺存状態	色調	胎土	焼成	形態・成形・技法の特徴
5-1 2-1	須恵器 高坏	SI01	口径：(9.9) 器高：<8.9> 底径：—	口縁部～脚部 1/5	外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 内面：7.5YR5/6 明褐色	白色粒子・黒色粒子・礫	良好	内外面ロクロナデ。口縁部下端に稜を持つ。長脚2段透かし。透かしは3単位で上下の透かしはずらさない。
5-2 2-2	須恵器 高坏	SI01	口径：— 器高：<6.6> 底径：(8.7)	胴部～脚部 1/3	外面：7.5YR6/1 褐灰色 内面：7.5YR5/1 褐灰色	白色粒子・黒色粒子	良好	内外面ロクロナデ。裾部大きく広がり、下端の縁が立つ。
5-3 2-3	須恵器 蓋	SI01	口径：9.4 器高：3.9 底径：—	口縁部～底部 4/5	外面：7.5YR5/1 褐灰色 内面：7.5YR6/1 褐灰色	白色粒子・黒色粒子	良好	内外面ロクロナデ。丸底。底部外面ヘラ切離し後周辺部回転ヘラケズリ。左ロクロ口。
5-4 2-4	須恵器 平瓶	SI01	口径：6.8 器高：<7.1> 底径：—	口縁部～頸部 1/5	外面：7.5YR7/1 明褐色 内面：7.5YR6/1 褐灰色	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	内外面ロクロナデ。胴部と柄六式結合。内面及び頸部外面に自然釉。
5-5 2-5	土師器 坏	SI01	口径：(11.0) 器高：<3.5> 底径：—	口縁部～底部 1/4	外面：7.5YR4/1 褐灰色 内面：7.5YR6/6 褐色	白色粒子・黒色粒子	良好	口縁部内外面横ナデ。底部外面放射状にヘラケズリ。内面横ナデ。口縁部外面下端に明瞭な稜。内面及び外面口縁部に赤彩。比企型坏。
5-6 2-6	土師器 坏	SI01	口径：(9.4) 器高：2.6 底径：—	口縁部～底部 1/2	外面：7.5YR3/1 黒褐色 内面：7.5YR5/2 灰褐色	白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石	良好	口縁部内外面横ナデ。底部外面中央部同一方向にヘラケズリ後、周辺部ヘラケズリ。内面横ナデ。見込み及び外面に油煙。
5-7 2-7	土師器 坏	SI01	口径：(9.7) 器高：<3.5> 底径：—	口縁部～底部 1/3	外面：7.5YR1.7/1 黒色 内面：7.5YR4/2 灰褐色	白色粒子・黒色粒子・シャモット	良好	口縁部内外面横ナデ。底部外面中央部同一方向にヘラケズリ後、周辺部ヘラケズリ。内面ナデ。口唇部揃まみ上げやや反る。外面下端に明瞭な稜。
5-8 2-8	土師器 坏	SI01	口径：(11.6) 器高：<4.0> 底径：—	口縁部～底部 1/5	外面：7.5YR6/2 灰褐色 内面：7.5YR5/1 褐灰色	黒色粒子・赤色粒子	良好	口縁部内外面横ナデ。底部外面ケズリ。
5-9 2-9	土師器 鉢	SI01	口径：(25.6) 器高：(11.5) 底径：(11.2)	口縁部～底部 1/5	外面：7.5YR4/2 灰褐色 内面：7.5YR5/2 灰褐色	白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石	良好	口縁部内外面横ナデ。底部ヘラケズリ。胴部外面横ケズリ、内面ナデ。底部丸みを帯びる。内面底部付近にスス附着。
5-10 2-10	土師器 甕	SI01	口径：(18.8) 器高：<5.6> 底径：—	口縁部～胴部破片	外面：7.5YR6/2 灰褐色 内面：7.5YR5/3 にぶい褐色	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	口縁部内外面横ナデ。胴部外面縦ケズリ、内面横ナデ。口唇部肥厚。
5-11 2-11	土製品 紡錘車	SI01	長径：(4.0) 穿孔径：0.5 厚さ：3.1	1/2	外面：7.5YR4/1 褐灰色 内面：7.5YR6/2 灰褐色	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	上下面ミガキ。側面2段の縦ミガキ。下面はやや丸みを帯び、縁は面取りされる。側面は垂直に立ち上がり、中位で広がる。重量：33.0 g

表2 西ヶ原 1-29-1 地点 遺物観察表



調査区全景（直上から・上が北）



遺物出土状況（南東から）



遺物出土状況（北から）

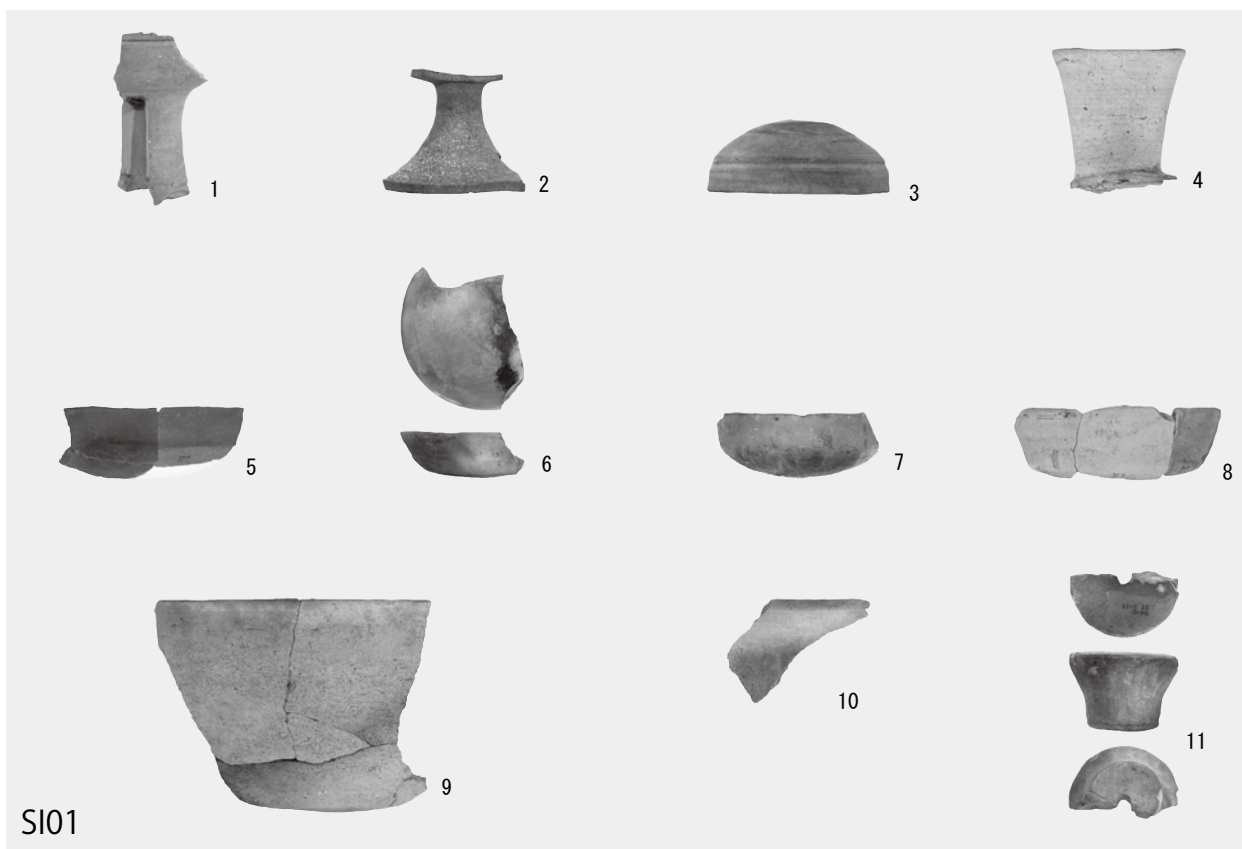


紡錘車出土状況



1号住居跡完掘（東から）

図版1 西ヶ原 1-29-1 地点



図版2 西ヶ原 1-29-1 地点 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	とうきょうときたく れいわよねんどはくつちょうさ にしがはらいせきぐん
書名	東京都北区 令和4年度発掘調査 西ヶ原遺跡群
副書名	ー西ヶ原1-29-1地点ー
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	牛山英昭 高坂勇佑 岩崎岳彦
編集機関	東京都北区教育委員会事務局 教育振興部 飛鳥山博物館
所在地	〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 TEL 03(3916)1133
発行年月日	令和6年(2024)3月29日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間 (発掘調査)	調査 面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたく 東京都北区 にしがはら 西ヶ原 1-29-1	13117	27	35° 44' 38"	139° 44' 42"	令和4年(2022) 10月18日 ～ 同年 10月26日	16.2 m ²	集合住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西ヶ原遺跡群	集落	古墳時代	竪穴住居跡1軒	土師器、須恵器	

要約	7世紀末から8世紀初頭の竪穴住居跡1軒を調査した。竈は住居跡主軸に対し顕著に西に傾いて構築される。遺物は須恵器高坏、蓋、土師器坏などの他、細かな面取りがなされる土製紡錘車が出土している。
----	---

資料の保管機関	東京都北区教育委員会事務局 教育振興部 飛鳥山博物館 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 TEL 03(3916)1133 FAX 03(3916)5900
---------	---

令和 4 年度発掘調査

滝野川八幡社裏貝塚

—滝野川 5-24 地点—

滝野川八幡社裏貝塚

—滝野川 5-24 地点—発掘調査報告

はじめに

本調査報告は令和4年(2022)11月22日～12月2日に東京都北区滝野川5-24において、北区教育委員会を調査主体者とし、株式会社東京航業研究所の調査支援により実施した滝野川八幡社裏貝塚の発掘調査の成果をまとめたものである。

1. 調査に至る経緯

滝野川五丁目24番は滝野川八幡社裏貝塚(北区遺跡No.25)に該当する。滝野川八幡社裏貝塚はその存在が古くから知られていた遺跡であるが、これまでに本発掘調査が行なわれたことはなく、昭和61年(1986)に東京都教育委員会による立会調査で縄文時代後期の竪穴建物跡3軒が検出されたという記録があるのみであった。

令和4年10月6日、株式会社オープンハウス・ディベロップメント(以下、施主という。)より分譲住宅建設に伴う、文化財保護法(以下、法という。)第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された。これに対し、東京都教育委員会教育長は10月18日付で、「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)」(4教地管理第2605号)により試掘調査を実施するよう通知した。10月31日に現地にて試掘調査を行なったところ竪穴建物跡が検出されたため、本発掘調査を実施することとなった。

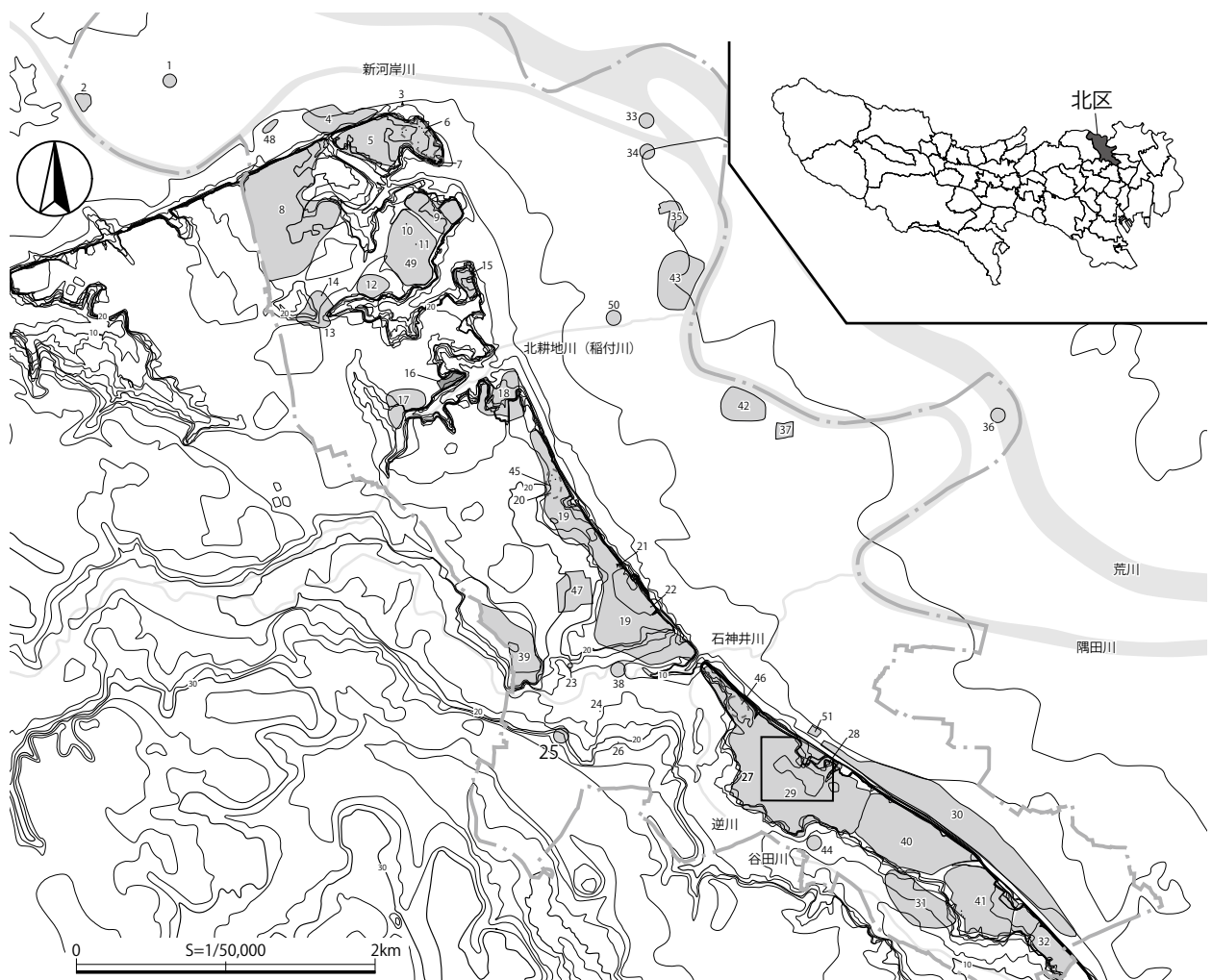
本発掘調査の実施にあたっては、11月11日付で施主、北区教育委員会、株式会社東京航業研究所の三者で協定を締結した。調査は法第99条に基づき、北区教育委員会を調査主体者として行なった。

2. 遺跡の立地と環境(第1・2図 表1)

北区の地形は、北西から南東にのびる標高差15～20mの段丘崖線を境に、北東側の低地と南西側の台地の二つの地形面から成り立っている。北東側の低地は、東京低地と呼ばれる標高1～6m程度の荒川と旧入間川の沖積低地である。南西側の台地は、武蔵野台地と呼ばれる多摩川により形成された巨大な扇状地である。武蔵野台地の表面は、多数の段丘地形から成り、関東ローム層の堆積時期の違いから、多摩面、下末吉面、武蔵野面、立川面等に区分される。青梅市付近の標高約180mを最高点に、東へ向かい徐々に低くなり、北区域では標高約20～25mである。北区の台地は、武蔵野台地の北東部縁辺の本郷台にあたる。本郷台は、中央を東流する石神井川により南北に分断され、北側は赤羽台・十条台、南側はさらに北西から南東へ流れる谷田川により分断され、西側は本郷台、東側は上野台と呼称される。滝野川八幡社裏貝塚は谷田川西側の本郷台上で、台地平坦面から石神井川に向かう緩斜面上に立地し、標高は20～25mを測る。

滝野川八幡社裏貝塚は、種別は貝塚・集落、縄文時代後期から晩期、古墳時代の遺跡で登録されている。

北区内には縄文時代を通してみた場合に、二つの遺跡群が認められる。一つは、赤羽台遺跡、袋低地遺跡、清水坂貝塚、宿遺跡、亀山遺跡などの赤羽台および十条台を中心とする遺跡群である。もう一方は、飛鳥山遺跡、御殿前遺跡、田端西台通遺跡、田端不動坂遺跡、七社神社前遺跡、七社神社裏貝塚、大蔵省



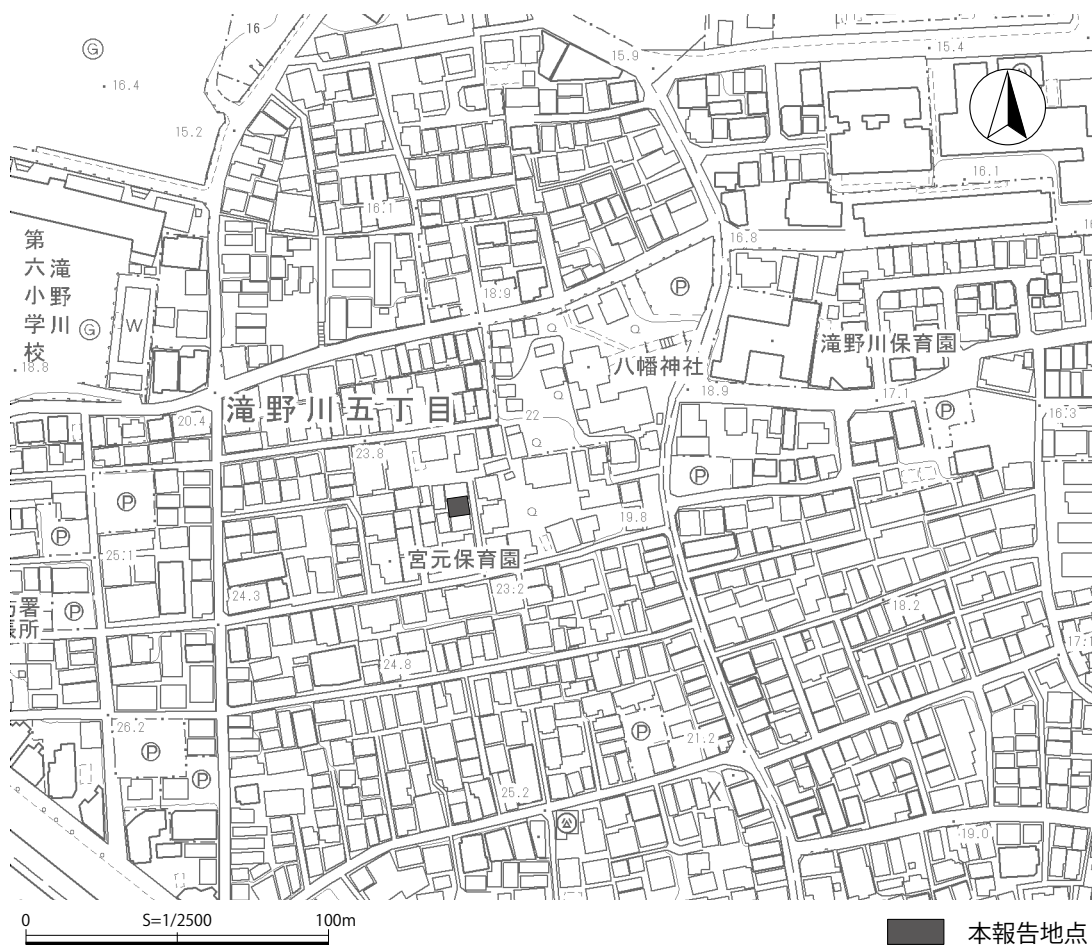
- | | | | | | |
|-------------|-----------|---------------------|-------------|------------|---------|
| 1 浮間遺跡 | 11 天王塚古墳 | 21 十条台小学校横穴墓 | 31 田端町遺跡 | 41 田端西台通遺跡 | 51 柴町貝塚 |
| 2 浮間扶桑動熱内遺跡 | 12 大六天遺跡 | 22 王子稻荷裏古墳 | 32 田端不動坂遺跡 | 42 豊島馬場遺跡 | |
| 3 堂山横穴墓 | 13 島下遺跡 | 23 (古銭出土地) | 33 熊野神社北方遺跡 | 43 宮堀北遺跡 | |
| 4 袋低地遺跡 | 14 大塚古墳 | 24 四本木稻荷古墳 | 34 熊野神社遺跡 | 44 東谷戸遺跡 | |
| 5 赤羽台遺跡 | 15 稲付城跡 | 25 滝野川八幡社裏貝塚 | 35 志茂遺跡 | 45 十条台古墳群 | |
| 6 赤羽台古墳群 | 16 稲付公園遺跡 | 26 滝野川古墳 | 36 都民ゴルフ場遺跡 | 46 飛鳥山古墳群 | |
| 7 赤羽台横穴墓群 | 17 梅ノ木遺跡 | 27 西ヶ原遺跡群 | 37 豊島清光館跡 | 47 十条久保遺跡 | |
| 8 桐ヶ丘遺跡 | 18 清水坂遺跡 | 28 甲冑塚古墳 | 38 滝野川城跡 | 48 袋西浦遺跡 | |
| 9 赤羽上ノ台遺跡 | 19 十条台遺跡群 | 29 武蔵国豊島郡衙跡 | 39 下十条遺跡 | 49 道合遺跡 | |
| 10 ミタマ古墳 | 20 富士塚古墳 | 30 中里遺跡 | 40 中里峽上遺跡 | 50 神谷遺跡 | |

第1図 北区の地形と遺跡

印刷局内貝塚、西ヶ原貝塚など上野台北部に広がる遺跡群である。滝野川八幡社裏貝塚は上野台北部に広がる遺跡群と距離的には近いが、谷田川を挟んで対岸の本郷台上にあり、同時期の西ヶ原貝塚などとは別の遺跡群に属するものとして区別する。縄文の遺跡としての認知は早く、1893年に『東京人類學會雑誌 第85号』「西ヶ原貝塚探究報告。其一。」において、西ヶ原貝塚近隣の遺跡として、「西方の方十丁計にして滝野川村八幡社裏の土器塚有り。」と坪井正五郎により紹介されている。昭和61年(1986)に東京都教育委員会による立会調査が実施され、縄文時代後期の竪穴住居跡3軒を確認したが、以後、周辺での発掘調査には至っていない。

弥生時代の主な遺跡としては、谷田川の対岸である上野台にある西ヶ原遺跡群(飛鳥山遺跡、七社神社前遺跡、御殿前遺跡など)や十条台の十条台遺跡群(南橋遺跡、亀山遺跡など)が挙げられる。湧水と覆流水により形成された谷田川沿いの湿潤地において、耕作を行っていたことが推測される。

古墳時代の主な遺跡としては、同じ本郷台には円墳と考えられている、四本木稲荷古墳や滝野川古墳などが存在する。一方、谷田川対岸には、弥生時代から引き続き、西ヶ原遺跡群や十条台遺跡群が存在する。



第2図 滝野川八幡社裏貝塚調査地点位置図

地点	所在地	報告書	発行年	縄文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
第1地点	滝野川 5-24	北区埋蔵文化財調査年報	令和5年	—	竪穴住居跡1軒	—		

表1 滝野川八幡社裏貝塚調査地点一覧表

3. 調査の経過と概要

調査期間は令和4年11月22日～12月2日、調査面積は21.8㎡である。敷地内の建物建築範囲を対象に調査を実施し、調査における掘削深度は建築工事における掘削深度までに留めている。そのため、住居跡の床面まで達していない部分もある。

11月22日に機材搬入後、調査区を設定し、北側より重機により表土掘削を行った。地表下約0.6mでローム層と遺構覆土を確認し、これを遺構確認面とした。遺構は竪穴住居跡1軒を検出した。遺構の記録の後、重機により北側の埋め戻しを行い、南側の表土掘削を行った。地表下約0.5mでローム層と遺構覆土を確認し、これを遺構確認面とした。遺構は北側で検出された竪穴住居跡の続きである。遺構の記録後、南側の埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

検出された遺構は弥生時代後期の竪穴住居跡1軒である。

4. 遺構と遺物

【SI01】

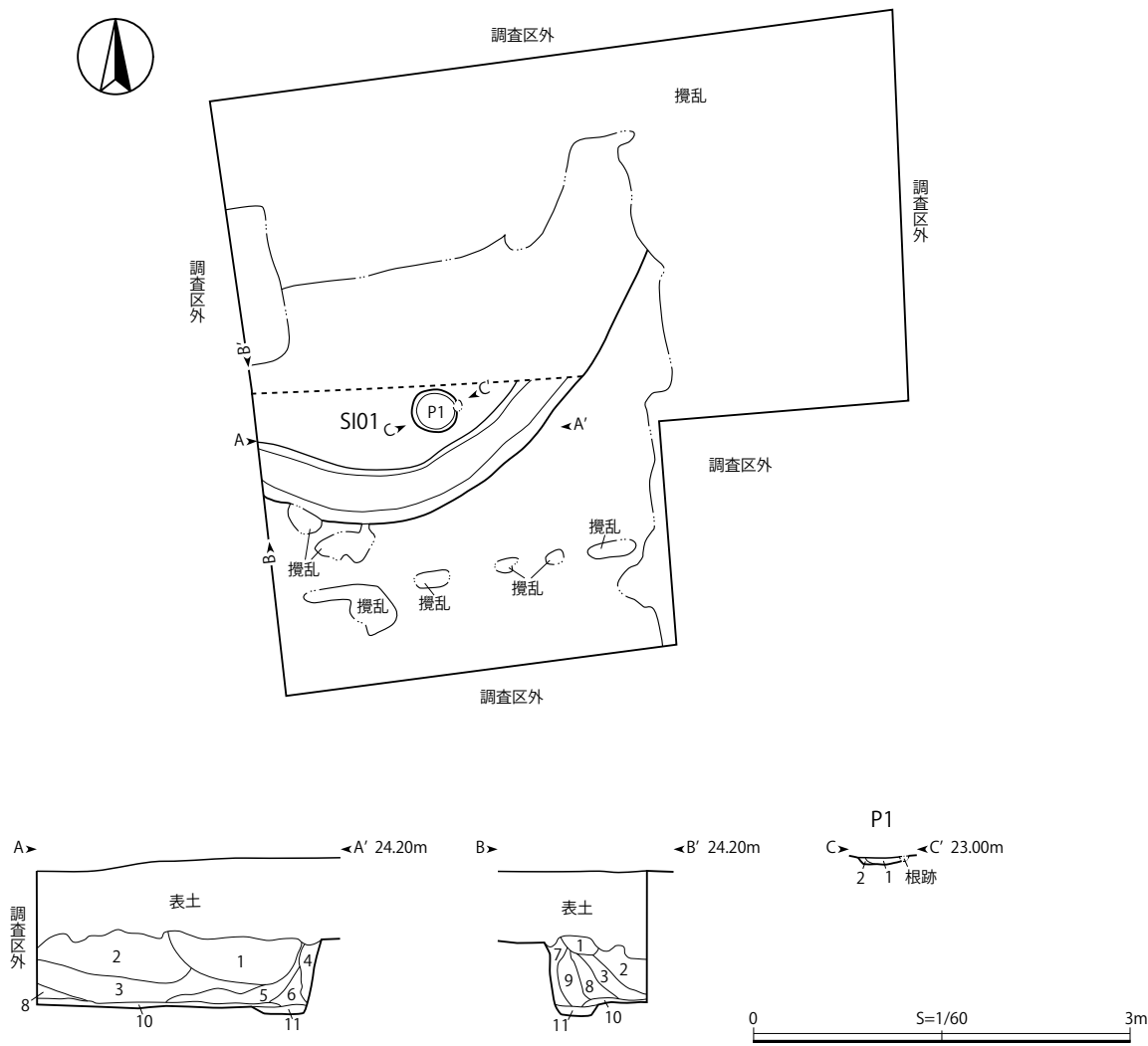
遺構（第3・4図 図版1・2）

重複関係：なし。**平面形：**住居北西側は調査区外に広がっていると推測されるが、北側は攪乱により壊されている。また、掘削深度の関係から、床面も一部のみ検出。隅丸方形を呈すると推測される。**規模：**主軸長3.14m以上、主軸直交長2.23m以上、確認面からの深さ0.53mを測る。主軸方位：N-29°-E。**覆土：**黒褐色土、暗褐色土を主体に11層に分層される。**床：**一部やや硬化した層が断面で確認できるが、明確な貼り床は確認できなかった。**炉：**検出されなかった。

遺物（第5図 図版3 表2）

出土状況：遺物は非常に少なく床面付近からは弥生土器の甕が出土している。また、周溝からは石製品の石皿が出土している。覆土中には縄文土器もみられたが、床面付近より出土した弥生土器を基に帰属する時代を推測した。**土器：**1～3は弥生土器の壺で1は複合口縁。4、5は弥生土器の甕である。**石製品：**6は石皿である。

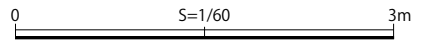
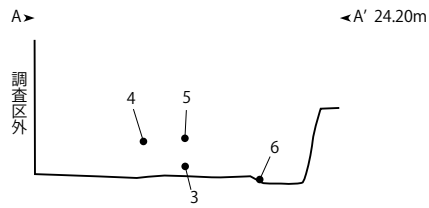
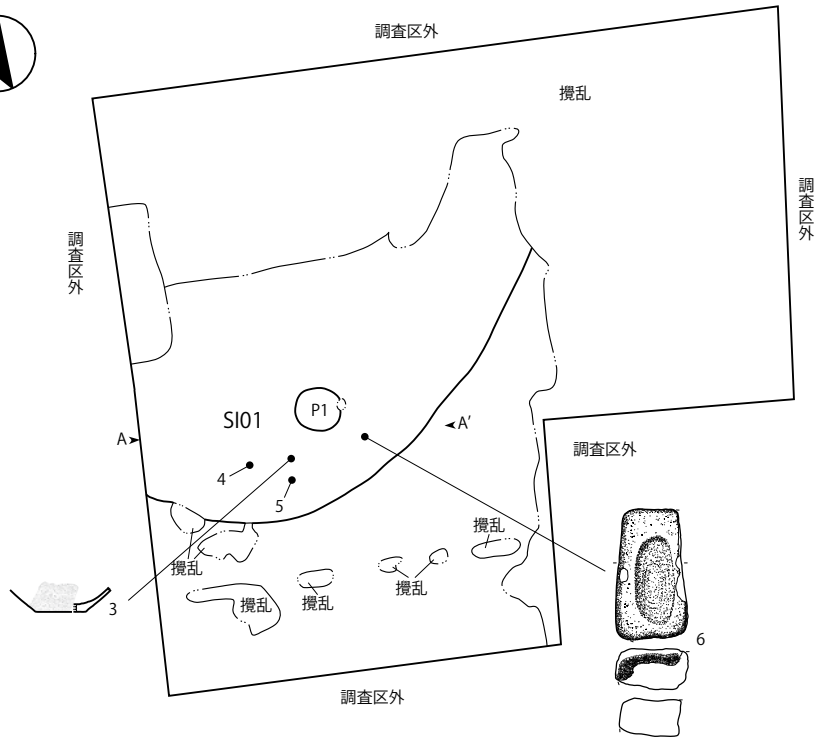
時期 床面付近からの出土遺物から推測すると、弥生時代後期である。



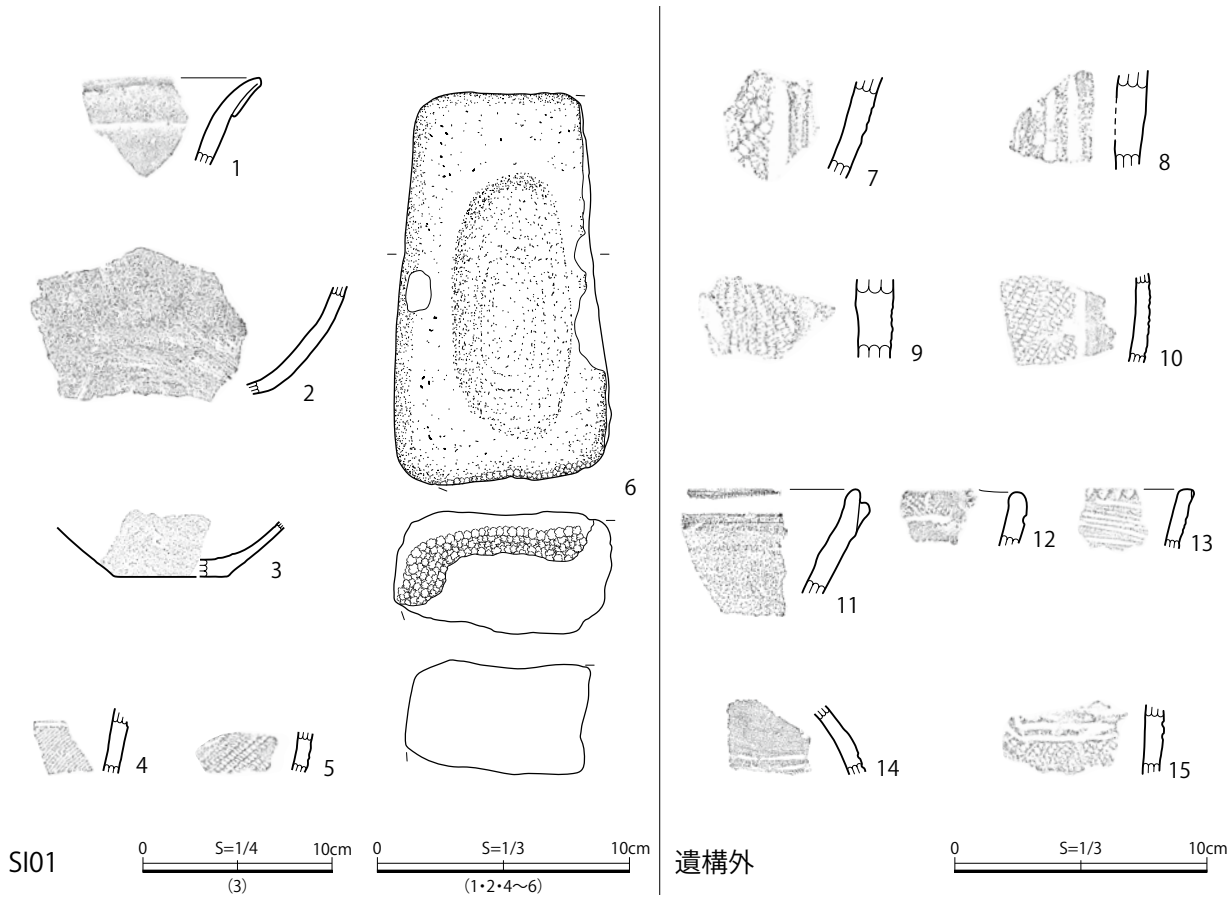
土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	やや強い	ローム (φ0.1 ~ 10mm) を少量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/3)	強い	やや強い	ローム (φ 1 ~ 5 mm) を微量含む。
3 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや強い	ローム (φ0.1 ~ 10mm) を少量、焼土 (φ0.1 ~ 5 mm) を微量含む。
4 にぶい黄褐色土 (10YR5/4)	強い	やや強い	ローム (φ 1 ~ 50mm) を極多量含む。
5 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	やや強い	ローム (φ0.5 ~ 3 mm) を微量、焼土 (φ0.5 ~ 1 mm) を微量含む。
6 黒褐色土 (10YR2/3)	やや強い	やや強い	ローム (φ0.1 ~ 10mm) を微量含む。
7 暗褐色土 (10YR3/4)	やや強い	やや強い	ローム (φ 1 ~ 5 mm) を多量、焼土 (φ ~ 1 mm) を微量含む。
8 黒褐色土 (10YR2/2)	強い	やや弱い	ローム (φ ~ 1 mm) を微量、焼土 (φ 1 ~ 2 mm) を微量、炭化物 (φ ~ 1 mm) を微量含む。
9 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや強い	ローム (φ 1 ~ 3 mm) を微量、焼土 (φ 1 ~ 2 mm) を微量含む。
10 暗褐色土 (10YR3/4)	強い	やや強い	ローム (φ 1 ~ 20mm) を多量含む。
11 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	やや強い	ローム (φ 1 ~ 30mm) を多量含む。

土色	締り	粘性	混入物・備考
1 黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや強い	ローム (φ 1 ~ 30mm) を少量含む。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)	強い	強い	ローム (φ 1 ~ 20mm) を中量含む。

第3図 滝野川5-24地点 調査区全体図・SI01 平断面図



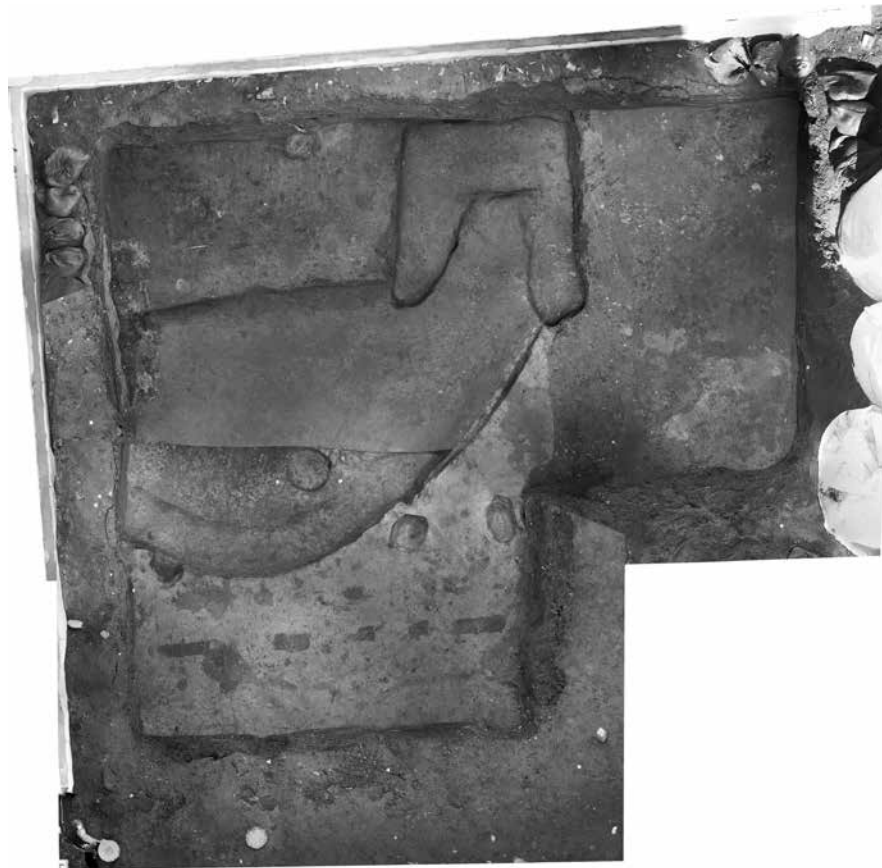
第4図 滝野川5-24地点 遺物出土図



第5図 滝野川5-24地点 出土遺物実測図

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	法量 (cm)	遺存状態	色調	胎土	焼成	形態・成形・技法の特徴
5-1 3-1	弥生土器 壺	SI01	—	口縁部～胴部破片	外面：5YR6/6 橙色 内面：7.5YR5/4 にぶい褐色	白色粒子・黒色粒子・石英・ 礫	良好	複合口縁を呈する。口縁部は外反する。
5-2 3-2	弥生土器 壺	SI01	—	胴部破片	外面：10YR6/4 にぶい黄橙色 内面：10YR6/3 にぶい黄褐色	白色粒子・黒色粒子・赤色 粒子・石英・礫	良好	胴部下位破片。外面丁寧なナデ。
5-3 3-3	弥生土器 壺	SI01	口径：— 器高：〈2.7〉 底径：(5.8)	胴部～底部破片	外面：5YR5/6 明赤褐色 内面：7.5YR7/6 橙色	白色粒子・黒色粒子・赤色 粒子・石英	良好	胴部下端に木口状工具によるハケ目が見られる。
5-4 3-4	弥生土器 甕	SI01	—	胴部破片	外面：2.5YR4/2 灰赤色 内面：7.5YR5/3 にぶい褐色	白色粒子・黒色粒子・角閃 石・石英・礫	良好	胴部上位の破片。上端に沈線が巡り、LR 横位施文。
5-5 3-5	弥生土器 甕	SI01	—	胴部破片	外面：7.5YR6/6 橙彩 内面：7.5YR7/6 橙色	白色粒子・黒色粒子・赤色 粒子・石英	良好	RL 縦位施文。
5-6 3-6	石製品 石皿	SI01	長さ：〈15.7〉 幅：〈8.7〉 厚さ：〈5.9〉	右側裏面下部 欠損	—	—	—	表面中央に長楕円形の浅い窪みあり。下面には敲打が行われているか？石皿の成形の際に調整したものか。石材：緑泥片岩。重量：1109.4g
5-7 3-7	縄文土器 深鉢	遺構外	—	胴部破片	外面：7.5YR5/4 にぶい褐色 内面：7.5YR6/2 灰褐色	白色粒子・黒色粒子・赤色 粒子・石英	良好	RL 縦位施文後、2本の沈線を垂下し、間を磨り消す。
5-8 3-8	縄文土器 深鉢	遺構外	—	胴部破片	外面：5YR6/6 橙色 内面：5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒子・黒色粒子・赤色 粒子・角閃石・石英	良好	3本の沈線を垂下し、間を磨り消す。
5-9 3-9	縄文土器 深鉢	遺構外	—	胴部破片	外面：7.5YR7/6 褐色 内面：5YR6/6 褐色	白色粒子・黒色粒子・赤色 粒子・角閃石・礫	良好	RL を条が縦位になるよう施文。太い沈線で区画線を描く。
5-10 3-10	縄文土器 深鉢	遺構外	—	胴部破片	外面：7.5YR6/3 にぶい褐色 内面：7.5YR4/1 褐色	白色粒子・黒色粒子・角閃 石・石英・礫	良好	RL 縦位施文後、沈線を垂下し磨り消す。
5-11 3-11	縄文土器 深鉢	遺構外	—	口縁部破片	外面：7.5YR4/1 褐色 内面：7.5YR6/6 褐色	白色粒子・黒色粒子・角閃 石・礫	良好	口唇部に沈線がめぐる。無文。
5-12 3-12	縄文土器 深鉢	遺構外	—	口縁部破片	外面：7.5YR4/1 褐色 内面：7.5YR6/3 にぶい褐色	白色粒子・黒色粒子・角閃 石・石英	良好	口縁部の瘤状貼付文が欠損。口縁部上端に RL 横位施文。直下に沈線を巡らす。
5-13 3-13	縄文土器 深鉢	遺構外	—	口縁部破片	外面：7.5YR5/3 にぶい褐色 内面：7.5YR6/4 にぶい褐色	白色粒子・黒色粒子・赤色 粒子・角閃石	良好	口縁部外側に浅いキザミが巡る。横位条線がササラ状ハケ目で施される。
5-14 3-14	縄文土器 深鉢	遺構外	—	胴部破片	外面：2.5YR2/1 赤黒色 内面：10YR2/1 黒色	白色粒子・黒色粒子・赤色 粒子・石英	良好	外面にミガキ及び黒色処理が施される。2本の沈線が巡る。
5-15 3-15	縄文土器 深鉢	遺構外	—	胴部破片	外面：7.5YR7/6 褐色 内面：5YR6/8 褐色	黒色粒子・赤色粒子・石英・ 礫	良好	LR 横位施文後、沈線でモチーフを描く。

表2 滝野川5-24地点 遺物観察表



調査範囲合成写真（南から）



SI01 南側完掘（東から）



SI01 北側完掘（東から）

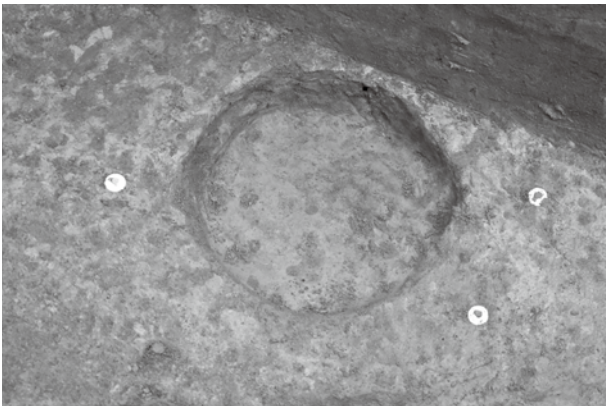


SI01 断面（東から）

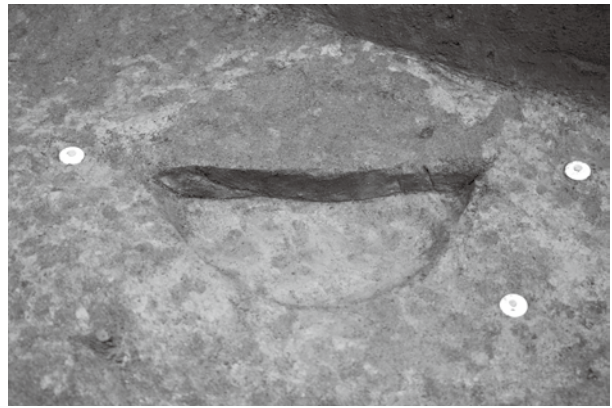


SI01 断面（北から）

図版1 滝野川5-24 地点

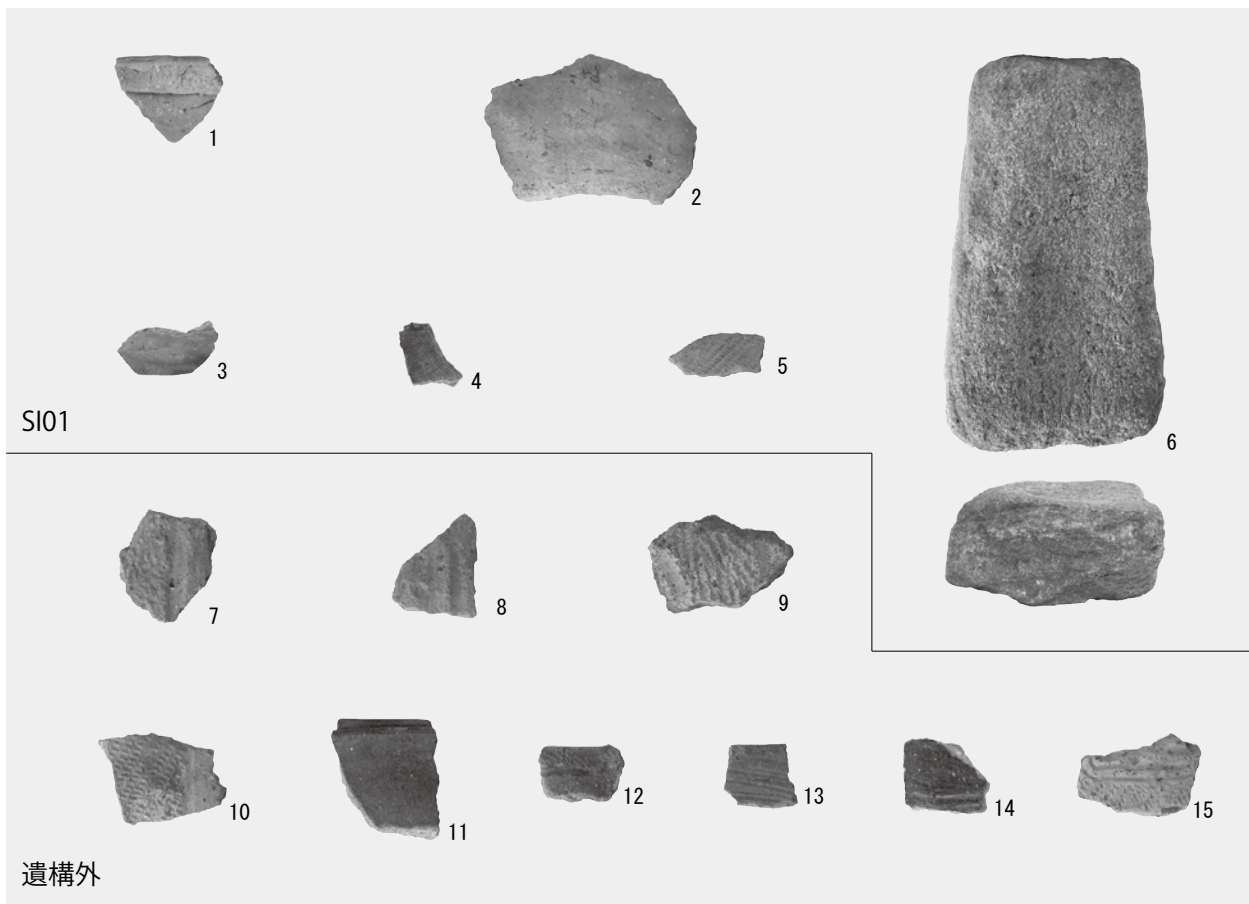


SI01P1 完掘 (南東から)



SI01P1 断面 (南から)

図版2 滝野川5-24 地点



SI01

遺構外

図版3 滝野川5-24 地点 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	とうきょうときたく れいわよねんどはっくつちようさ たきのがわはちまんしゃうらかいづか
書名	東京都北区 令和4年度発掘調査 滝野川八幡社裏貝塚
副書名	－滝野川 5-24 地点－
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	牛山英昭 高坂勇佑 遠藤知成
編集機関	東京都北区教育委員会事務局 教育振興部 飛鳥山博物館
所在地	〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 TEL 03(3916)1133
発行年月日	令和6年(2024)3月29日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間 (発掘調査)	調査 面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
たきのがわはちまんしゃうら 滝野川八幡社裏 かいづか 貝塚	とうきょうときたく 東京都北区 たきのがわ 滝野川 5-24	13117	25	35° 44' 53"	139° 43' 34"	令和4年(2022) 11月22日 ～ 同年 12月2日	21.8 m ²	分譲住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
滝野川八幡社裏 貝塚	集落	弥生時代	竪穴住居跡1軒	弥生土器(後期)	

要約	<p>弥生時代後期の竪穴住居跡を調査した。</p> <p>遺物は弥生土器のほか、表土及び、住居の流れ込みから縄文土器も出土した。</p>
----	--

資料の保管機関	<p>東京都北区教育委員会事務局 教育振興部 飛鳥山博物館</p> <p>〒114-0002 東京都北区王子1-1-3</p> <p>TEL 03(3916)1133 FAX 03(3916)5900</p>
---------	--

北区埋蔵文化財調査年報
—令和4年度—

令和6年3月25日 印刷

令和6年3月29日 発行

刊行物登録番号

5-1-102

編集 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
電話 03-3916-1133

発行 東京都北区教育委員会
〒114-8546 東京都北区滝野川2-52-10

印刷 文明堂印刷株式会社
〒114-0032 東京都北区中十条2-15-12
電話 03-3908-3466